昭和会誌

2023年度
（令和５年度）

ロゴマークは昭和会の「S」と今給黎の「I」をモチーフに、「S」を表す円と繋がりは、働く人・総合力・コミュニケーションを意味し、患者さんに見立てた「I」という１人に対して、積極的に立ち向かう姿勢を表現したものです。また黄緑は優しさ・温かさ、水色は誠実さ・清潔感をイメージしたものです。

2024年度スローガン・ビジョン

Slogan・Vision

3R

3つのR

- Redesign（再設計）
- Reduction（削減）
- Reskilling（学び直し）

2024年度中長期計画

Medium-term management plan

働き方改革

タスクシフト・シェア

ICT化

RPA、PHR

持続可能な経営

健康経営、機能評価

巻頭言

この度、2023年度の昭和会誌を発行する運びとなりました。

トピックスは何といってもCOVID19の５類への移行ではないでしょうか？
約３年に渡り行動制限のかかる中、閉塞感を感じるストレスフルな環境下でもミッションを達成すべく職員皆さんにはよく頑張っていただいたと思います。感謝の言葉しかありません。

アフターコロナでは、いよいよ移転後の我々が目指した本来の医療サービスの真価が問われることになるのではないかと考えます。人口動態の推移とこれからの医療ニーズを見極め、当院の立ち位置、ミッションを理解し、職員にも共感してもらえるような事業戦略を明示して、ありたい姿を共有しながらさらに邁進していくことを期待します。

さて2023年は2024年医療・介護・障害福祉の同時診療報酬改定や働き方改革の前年となり忙しい年となりました。
５月には外来機能強化の目的でPFMをサービス棟へ移設しました。これはこれからの高齢者ニーズ（マルチモビディティ）に対応するものでもあります。複数の疾患を抱え複雑な対応を求められることから予定入院は時間をかけて情報整理し安心・安全な医療提供を行うためのものです。さらに後方支援病院との連携も強化し、医療も介護も必要となる方々の退院支援も多職種連携で取り組んで参ります。
またキラメキテラス構想ではホテルの竣工をもってグランドオープンを迎え、当初想定していた共生社会へのまちづくりがいよいよ動き出しました。我々の立場からは地域包括ケアシステムとのリンクを目指したいところです。

６月には機能評価受審がありました。約20年前に一度認定されていますが残念ながら更新しておらず、当時を知る人もほとんどいない中で新規受審と同様の準備が必要でした。しかし職員一丸となって取り組んだ結果無事認定取得できたことを嬉しく思います。ぜひ５年後の更新がスムーズにいくよう、引き続き改善活動の継続をお願いします。

７月１日は当院の創業記念日でした。2023年で85周年となりました。現在我々が存在しているのは、ひとえに先人たちの努力と職員皆さんのご協力のおかげかと思います。改めて感謝致しますとともに、永続勤務表彰も行いました。我々の実績は次の世代が評価するものです。次の世代が苦労しない、実績を評価してもらえるような持続可能な病院経営、質の向上に努めたいと改めて思いました。

コロナ明けの年、キラメキテラスグランドオープン、創業85周年と2023年は一つの節目の年でもありました。これからも次の節目である100周年を目指し医療の質向上をミッションとして職員一丸となって取り組んで参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

2024年８月
公益社団法人昭和会
理事長 今給黎 和幸

昭和会の基本理念

−協力−

全職員の協力体制

−貢献−

地域社会への貢献

−向上−

自己研鑽と向上心

−教育−

人材育成と教育

目次

■スローガン・ビジョン、中長期計画
■巻頭言
■基本理念

■I. 昭和会
1. 概要 …… 02
2. 沿革 …… 02
3. 組織図 …… 04
4. 部門報告　法人事務局 …… 05

■II. いまきいれ総合病院
1. 病院概要 …… 07
2. 病院統計 …… 15
3. 部門報告　診療部 …… 25
4. 部門報告　他部門 …… 57

■III. 上町いまきいれ病院
1. 病院概要 …… 71
2. 病院統計 …… 75
3. 部門報告 …… 79

■IV. いまきいれ子ども発達支援センターまぁる
1. 病院概要・報告 …… 93

■V. 研究実績 …… 97

カラー版はホームページで公開
https://imakiire.jp/showakai/achievement/

公益社団法人昭和会　Ⅰ

- 昭和会　概要
- 昭和会　沿革
- 昭和会　組織図
- 部門報告　法人事務局

昭和会 概要

所在地	鹿児島県鹿児島市高麗町 43 番 25 号
電話	099-252-1090(代表)
FAX	099-203-9119(代表)
代表理事	今給黎和幸(いまきいれかずゆき)
事業所	2 病院
	1 福祉型児童発達支援センター
職員数	1, 128 名(2024 年 3 月 31 日現在)
病床	450 床

2024
健康経営優良法人
Health and productivity
2024(令和 6)年 3 月 11 日認定

昭和会 沿革

1938(昭和 13) 年	7 月	鹿児島市下竜尾町 11 番地に今給黎医院開設
1947(昭和 22)年	11 月	今給黎病院開設 (24 床)
1955(昭和 30)年	2 月	鉄筋コンクリート 2 階建 病棟増築 (41 床)
1957(昭和 32)年	6 月	65 床認可
1960(昭和 35)年	2 月	看護婦寮新築
1960(昭和 35)年	5 月	80 床認可
1960(昭和 35)年	7 月	医師住宅新築
1964(昭和 39)年	5 月	「医療法人昭和会」設立 (120 床)
1964(昭和 39)年	7 月	救急告示病院指定
1965(昭和 40)年	7 月	民法第 34 条による「財団法人昭和会」設立
1967(昭和 42)年	1 月	160 床認可
1969(昭和 44)年	4 月	鉄筋コンクリート 3 階建病院新築
1969(昭和 44)年	8 月	鉄筋 5 階建第 1 看護婦寮・ 4 階建医師住宅 2 棟新築
1970(昭和 45)年	10 月	220 床認可
1972(昭和 47)年	10 月	鉄筋 5 階建職員住宅(20 世帯)新築
1975(昭和 50)年	12 月	鉄筋コンクリート 2 階建第 3 女子寮・院内託児所新築
1978(昭和 53)年	10 月	鉄筋コンクリート 7 階建本館新築 (300 床)
1979(昭和 54)年	3 月	325 床認可
1979(昭和 54)年	8 月	鉄筋コンクリート 4 階建第 2 女子寮新築
1983(昭和 58)年	2 月	医師住宅 4 階建新築
1987(昭和 62)年	1 月	第 4 看護婦寮 3 階建新築
1987(昭和 62)年	9 月	別館 4 階建新築　本館・別館の連絡路として地下道 (巾 3m) 完成
1988(昭和 63)年	1 月	450 床認可　本館全面改装、総合医療各診療科整備
1988(昭和 63)年	8 月	第 5 看護婦寮 4 階建新築　男子独身寮 2 階建新築
1989(平成元)年	1 月	医師研修等 3 階建新築
1989(平成元)年	12 月	今給黎総合病院 17 診療科認可
1992(平成 4)年	6 月	今給黎総合病院 18 診療科認可
1994(平成 6)年	4 月	今給黎総合病院 19 診療科認可
1995(平成 7)年	1 月	今給黎総合病院 20 診療科認可
1995(平成 7)年	4 月	今給黎総合病院 21 診療科認可

1997(平成 9)年　7 月	周産母子センター開設
1997(平成 9)年　9 月	外来患者専用自動管理式駐車場完成
1998(平成 10)年　3 月	医局棟 3 階建新築
2001(平成 13)年　3 月	(財) 日本医療機能評価機構「認定証」(一般病院種別 B) 取得
2002(平成 14)年　1 月	民間ビル (3 階建)、研修棟として購入
2003(平成 15)年　10 月	「基幹型臨床研修病院」　指定
2005(平成 17)年　5 月	昭和会クリニック開院 (診療録の電子化開始)
2005(平成 17)年　12 月	今給黎総合病院 (外来診療録の電子化開始)
2006(平成 18)年　8 月	歯科・歯科口腔外科開設(23 診療科)
2007(平成 19)年　10 月	リニアック棟造築 (稼働開始)
2009(平成 21)年　3 月	鹿児島県「地域周産期母子医療センター」指定
2009(平成 21)年　12 月	「公益財団法人昭和会」へ法人名称変更
2010(平成 22)年　2 月	今給黎総合病院 (入院診療録の電子化開始)
2012(平成 24)年　4 月	厚労省「地域がん診療連携拠点病院」指定
2013(平成 25)年　3 月	地域医療支援病院認定
2015(平成 28)年　2 月	新生児専用救急搬送車(もじょか号)導入
2018(平成 30)年　4 月	「公益社団法人昭和会」へ法人名称変更
2018(平成 30)年　9 月	鹿児島 DMAT 指定病院
2020(令和 2)年12 月 31 日	昭和会クリニック閉院
2021(令和 3)年1 月 1 日	いまきいれ総合病院(高麗町)、上町いまきいれ病院(下竜尾町) 開院
2021(令和 3)年 2 月 2 日	いまきいれ総合病院・キラメキテラスヘルスケアホスピタルをつなぐ通路(アトリウム)開通
2021(令和 3)年　8 月	いまきいれ総合病院　ドクターカー導入
2021(令和 3)年 10 月 1 日	上町いまきいれ病院　長田町 (旧今給黎総合病院別館)へ移転
2021(令和 3)年　10 月	第 1 回看護師特定行為研修開講
2022(令和 4)年4 月 1 日	いまきいれ子ども発達支援センターまぁる開設(荒田町)
2022(令和 4)年 10 月 1 日	いまきいれ総合病院　緩和ケア内科を標榜(31 診療科)
2023(令和 5)年 5 月 1 日	いまきいれ総合病院　入退院支援センター(PFM)移設オープン
2023(令和 5)年 11 月 10 日	いまきいれ総合病院 日本医療機能評価機構病院機能評価一般病院２(3rdG:Ver.3.0) 認定
2023(令和 5)年 11 月 21 日	南国殖産、玉昌会、昭和会 3 法人合同 キラメキテラス連携の会～ミライヲテラス～ 開催
2024(令和 6)年 3 月 11 日	健康経営優良法人(大規模法人部門) 認定

公益社団法人昭和会の組織図

社員総会 ― 理事会 ― 代表理事

副理事長 ― 法人事務局

- 法人事務部
  - 人事総務グループ
    - 人事総務経理課
- 経営企画部
  - 施設管理グループ
    - 用度課
    - 医療情報管理課
    - 施設課
  - 経営企画課
  - 経営情報管理室
  - 広報連携企画室

いまきいれ総合病院

病院長

診療部門

救急・総合診療科（院内表記）

血液内科	産科
糖尿病内科	婦人科
消化器内科	新生児内科
循環器内科	小児科
呼吸器内科	泌尿器科
脳神経内科	頭頸部・耳鼻咽喉科
消化器外科	皮膚科
乳腺甲状腺外科	麻酔科
呼吸器外科	放射線診断科
血管外科	放射線治療科
整形外科	歯科
リハビリテーション科	歯科口腔外科
形成外科	病理診断科
脳神経外科	緩和ケア内科

診療支援部門

薬剤課	栄養管理課
中央臨床検査課	病理課
臨床工学課	診療補助課
中央放射線課	歯科口腔外科
リハビリテーション課	

看護部門

病棟
- 4階レディース NICU GCU
- HCU 6階N 6階S 7階N
- 7階S 8階N 8階S 9階S

手術室
救急センター
外来

事務部門

人事総務グループ
- 人事総務経理課
- お客様相談室

医事診療情報グループ
- 医事課　診療情報管理課

患者支援部門

患者サポートセンター

地域医療連携室	退院支援
がん相談支援センター	患者相談
外来予約センター	緩和ケア

病床管理課
- 入退院支援センター（PFM）　病床管理

医療安全管理部門

- 医療安全管理課
- 感染管理課
- 褥瘡管理課

医療品質チーム

- NST　口腔ケア
- RST　医療安全
- ICT　緩和ケア
- AST　DMAT
- RRT　褥瘡

上町いまきいれ病院

病院長

診療部門

- 内科
- 糖尿病内科
- 脳神経内科
- 整形外科
- 眼科

診療・患者支援部門

- 薬剤課
- 臨床検査課
- 放射線課
- リハビリテーション課
- 在宅診療課
- 栄養管理課
- 視能矯正課
- 地域医療支援センター

看護部門

病棟　　外来
- 2階、3階

事務部門

人事総務グループ

医事診療情報グループ
- 医事課
- 診療補助課

子ども発達支援センターまぁる

令和6年3月現在

法人事務局

事務局長・経営企画課／堀雅之（報告）
医療情報管理課 課長／野島裕二郎、用度課 課長／田畑浩範

2023年度トピックス

2023年度は新型コロナウイルスが収束し、『アフターコロナとレジリエンス』をビジョン・スローガンに掲げ、移転時に計画した医療提供体制の強化による効果を見込み、医業収益予算13,185百万円を計上していましたが、12,817百万円と予算対比368百万円の減収となった。

上期は、医療の質向上を目的とした病院機能評価受審や、職員のエンゲージメント向上を目指した健康経営に取り組み両方ともに認定された。また、高年齢者の入院需要が益々高まる見込みから、安心・安全な医療提供を目的に入退院支援センター（PFM）を移設拡大して患者サービスと在院日数短縮を実現した。しかし、収益面は医師異動期間や学会での医師不在に迅速なフォロー対応ができず病床稼働率が低下した結果、医業収益予算比381百万の減収となった。

下期は、今年度も看護師離職の影響で休床したが、全職員が病床稼働とベッドコントロールを意識することにより利用率が上昇した結果、医業収益予算比14百万の増収となった。

2024年度は中期経営計画の1期目であり、『3R=Redesign,Reduction,Reskilling』のスローガンのもと業務改善に取り組む。

総括

□経営企画課
- 部長面談（上期下期）
- 中期経営計画策定

＜総括＞
- 部長面談で収益向上、費用削減の企画提案
- 4か年の事業計画・KPIの策定

□用度課
- 診療材料購買削減効果額736万円
- NHA（共同購入品）活用による割戻額3,500万円

＜総括＞
- 共同購入やベンチマークを活用し、医療材料の価格削減に取り組んだ。
- 特定診療科巡回診療で4市町村17地区中12地区への巡回診療を行った。

□医療情報管理課
- ICT化導入支援
- RPA（病床稼働報告未達成一覧、DPCⅡ期越え）

＜総括＞
- 入退院支援、対面面会予約システム、電子サイン他を導入し生産性向上に貢献
- ICT化ロードマップを作成

次年度の目標

□経営企画課
- 中期経営計画KPI達成のため、業務改善プロジェクト・人事労務プロジェクトの推進

□用度課
- 共同購入やベンチマークを活用し、さらなる価格削減を行う
- 間接材の削減、適切な在庫管理を行う
- システムを利用した医療材料等の在庫圧縮を図る
- 薬価改正に伴う、医療材料・医薬品の価格交渉を行う
- 手術保険材料の請求チェック強化
- 次期内線機器の更新計画を立案する
- 特定診療科巡回診療全日程の業務遂行を行う

□医療情報管理課
- 電子処方箋、オンラインバックアップ、電子カルテ情報共有サービス導入対応
- 職員向けMobileシステム導入に向けた検証及び導入検討

いまきいれ総合病院 Ⅱ－1

病院概要

公益社団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL
いまきいれ総合病院

基本方針

1. 質の高い医療の提供を目指し、全職員一致協力して努力します。
2. 生命の尊さを認識し、地域社会に貢献します。
3. 常に向上心を持って、自己研鑽に励みます。
4. 教育病院として、質の高い人材育成に努めます。

運営方針

1. 地域のセンター病院として、最新・最高の医療を提供すべく、高度の医療機器を充実し、全職員の医学研修を推進する。 そのために、各分野関連の大学各教室・各研究機関との交流に努め、また夫々の学会参加を助成する。
2. 高度医療機器の公開利用に努め、最新で効率的且つ倫理的医療の充実を図る。
3. 救急医療24時間受け入れ体制の充実。
   当病院全職員(全科オンコール体制)の協力のもとに24時間体制で全県下・離島の救急患者を積極的に受け入れ救急医療の使命を達成する。
4. 21世紀の少子高齢化社会の医療に対応すべく、地域の保健・医療・福祉施設と密な連携に努め、有効的な医療の提供を図る。
5. 地域に開かれた病院を目指し、健康増進活動に積極的に取り組み、活動の充実・発展を図る。
6. 経営陣は働きやすい職場環境の創世に努め、職員満足度を高めるとともに、教育を通して良質な人材を育成し、持続可能な病院運営を目指す。

いまきいれ総合病院 病院概要

（令和5年3月現在）

名　称	公益社団法人昭和会 いまきいれ総合病院 Imakiire General Hospital
開設者	代表理事　今給黎 和幸（いまきいれ かずゆき）
管理者	院長　　濱崎 秀一（はまさき しゅういち）
所在地	〒890-0051　鹿児島市高麗町 43 番 25 号（かごしましこうらいちょう）
代表電話	099-252-1090
代表 FAX	099-203-9119
URL	https://imakiire.jp/
病院開設日	2021 年（令和 3 年）1 月 1 日
病床数	350 床 高度急性期病床 31 床（HCU10 床、NICU 9 床・GCU12 床）　急性期病床 319 床
規　模	地上 9 階 搭屋 1 階 敷地面積 7,300.00 ㎡、建築面積 3,864.81 ㎡、延床面積 24,964.32 ㎡
標榜科 （31 診療科）	内科、糖尿病内科、血液内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外　科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、新生児内科、頭頸部･耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、緩和ケア内科、病理診断科
職員数	946 名
有資格者	

	常勤	非常勤
医師	113 名（歯科 3 名含）	8 名
薬剤師	22 名	1 名
診療放射線技師	23 名	
臨床検査技師	29 名	1 名
臨床工学技士	17 名	
理学療法士	31 名	
作業療法士	10 名	
言語聴覚士	10 名	
管理栄養士	13 名	
社会福祉士	7 名	
看護師	414 名	6 名　（パート）
助産師	22 名	
保健師	2 名	
准看護師	6 名	
診療情報管理士	9 名	

施設概要

（令和5年3月現在）

9F	S病棟（43床）：救急・総合診療科、血液内科、緩和ケア内科、皮膚科 研修医室　患者洗濯室　図書室
8F	N病棟（42床）：泌尿器科、脳神経外科、頭頸部・耳鼻咽喉科、歯科口腔外科 S病棟（43床）：脳神経内科、循環器内科
7F	N病棟（43床）：消化器内科、外科 S病棟（43床）：呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科
6F	N病棟（40床）：整形外科、形成外科、小児科 S病棟（43床）：整形外科、糖尿病内科、血管外科
5F	リハビリテーション科　リハビリテーション課　講義室　会議室　医局　事務局 地域医療連携室　看護部門　医療安全管理部門
4F	レディース病棟（22床）：産科、婦人科　NICU（9床）・GCU（12床） 周産期母子医療センター　産科外来　新生児フォローアップセンター　外来化学療法室
3F	手術室　HCU（10床）　透析室　高気圧酸素室
2F	総合案内　総合受付　キラメキ南国ビル2階入退院支援センター 各科外来　消化器内視鏡センター　がん相談支援センター　患者サポート窓口 キラメキ南国ビル2階入退院支援センター、キラメキテラスヘルスケアホスピタル、キラメキ南国パーキングへの連絡通路
1F	総合案内　救急センター　救急・総合診療科　中央放射線課 放射線科（治療・診断）　売店　防災センター

地域がん診療連携拠点病院
地域医療支援病院

県へき地医療拠点病院（遠隔医療支援）　洋上救急業務支援協力医療機関

県指定地域周産期母子医療センター　基幹型医師臨床研修病院

鹿児島県DMAT（災害派遣医療チーム）指定病院

日本医療機能評価機構病院機能評価一般病院２（3rdG:Ver.3.0）認定

施設認定

●指定医療機関等

保険医療機関
国民健康保険医療取扱機関
労災保険指定病院
労災保険二次健診等給付病院
生活保護法指定病院
障害者自立支援法「更生医療」「育成医療」指定病院（形成外科・耳鼻咽喉科・口腔に関する医療）
障害者自立支援法「精神通院医療」指定病院（神経内科に関する医療）
感染症法（第37条の2）指定病院
原子爆弾被爆者医療法一般疾病医療取扱病院
母体保護法指定病院「不妊手術」
特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
小児慢性特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る医療指定病院
母子保健法指定病院「養育医療」
出入国管理及び難民認定法指定病院
救急告示病院
県へき地医療拠点病院（遠隔医療支援）
基幹型臨床研修病院
厚生労働省 ＤＰＣ対象病院
県指定 かごしま子育て応援企業
産科医療補償制度加入医療機関
県女性医師復職研修事業指定病院
県指定 地域周産期母子医療センター
県消防・防災ヘリコプター救患搬送医師搭乗システム輪番病院
厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
歯科医師臨床研修病院（協力型）
県指定 地域医療支援病院
AMAT（全日本病院医療支援班）病院
鹿児島県DMAT（災害派遣医療チーム）指定病院
洋上救急業務支援協力医療機関
厚生労働省　医薬品・医療器具安全性情報協力施設
県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関
県重症難病医療協力病院（短期入所施設）
鹿児島市高規格救急車指示病院
県広域災害医療情報システム（EMIS）登録病院
市指定 にこにこ子育て応援隊認定企業
県地域周産期医療支援病院
各種健診（検診）・予防接種等受託医療機関
鹿児島県消化器集団検診精密検査医療機関
NCD登録施設

●学会等認定施設

日本血液学会認定血液研修施設
日本消化器管学会 胃腸科指導施設
日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本胆道学会指導医制度指導施設
鹿児島県消化器集団検診精密検査医療機関
日本循環器学会循環器専門医研修関連施設
日本神経学会専門医制度教育施設
日本脳卒中学会一次脳卒中センター
日本呼吸器学会専門医制度関連施設
日本外科学会専門医制度修練施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設
呼吸器外科専門医合同委員会専門研修基幹施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本脊髄病学会脊髄外科専門医基幹研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本手外科学会研修施設
日本産科婦人科学会専門研修連携施設
日本周産期/新生児医学会周産期専門医(新生児)暫定研修施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母胎胎児）暫定研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽頭系）
日本麻酔科学会麻酔科標榜研修施設
日本IVR学会専門医修練施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本放射線腫瘍学会 認定施設
日本病理学会研修登録施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本口腔外科学会専門医制度研修施設
日本がん治療認定医機構 認定研修施設
日本口腔ケア学会口腔ケア認定施設
日本緩和医療学会認定研修施設
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業認定研修施設
日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
日本臨床栄養代謝学会NST稼動施設
日本臨床衛生検査技師会・精度管理保証施設
日本臨床神経生理学会認定施設
日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ
日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
日本血液学会認定専門研修教育施設
下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設
日本臨床腫瘍薬学会がん診療連携研修病院認定
日本糖尿病学会認定教育施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会　浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本臨床細胞学会教育施設
日本鼻科学会認定手術指導医制度認定施設
日本頭頸部外科学会　頭頸部がん専門医研修準認定施設
一般社団法人日本クリニカルパス学会

令和6年3月現在

施設基準届出一覧

○基本診療料の施設基準等

地域歯科診療支援病院歯科初診料
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料１）
急性期充実体制加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算１
医師事務作業補助体制加算１(15:1)
急性期看護補助体制加算(25:1)
夜間100対1急性期看護補助体制加算
夜間看護体制加算
看護補助体制充実加算
看護職員夜間配置加算(12:1)
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算２
緩和ケア診療加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算１
医療安全対策地域連携加算１
感染対策向上加算１（注２ 指導強化加算）
患者サポート体制充実加算
重症患者初期支援充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
呼吸ケアチーム加算
後発医薬品使用体制加算１
データ提出加算２（イ 200床以上の病院）
入退院支援加算１．３
総合機能評価加算
入院時支援加算
認知症ケア加算２
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
地域医療体制確保加算
ハイケアユニット入院医療管理料１
新生児特定集中治療室管理料１
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料４（注２に規程する加算）
入院時食事療養／生活療養（Ⅰ）
看護職員処遇改善評価料64

○特掲診療料の施設基準等

外来栄養食事指導料の注２
外来栄養食事指導料の注３
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ、ロ、ハ、ニ
外来緩和ケア管理料
糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料
婦人科特定疾患治療管理料
二次性骨折予防継続管理料１・３
下肢創傷処置管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注３に掲げる救急搬送看護体制加算
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料１
連携充実加算
ニコチン依存症管理料
療養・就労両立支援指導料の注３に掲げる相談支援加算
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料１
医療機器安全管理料２
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
在宅酸素療法指導管理料の注２に掲げる遠隔モニタリング加算
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注２に掲げる遠隔モニタリング加算
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
遺伝学的検査
BRCA1/2遺伝子検査（血液を検体とするもの）
BRCA1/2遺伝子検査（腫瘍細胞を検体とするもの）
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ⅳ）
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
単線維筋電図
神経学的検査
補聴器適合検査
小児アレルギー負荷試験
精密触覚機能検査
画像診断管理加算１
画像診断管理加算２
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算

抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算１
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料２
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
人工腎臓（慢性維持透析を行った場合）
導入期加算１
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
センチネルリンパ節加算（皮膚悪性腫瘍切除）
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）
椎間板内酵素注入療法
経外耳道内視鏡下鼓室形成術
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両側）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成術
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
乳がんセンチネルリンパ節加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用）
乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は１肺葉を超えるもので内視鏡手術支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、等
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
腹腔鏡下リンパ節郡郭清術（前方）
内視鏡的逆流防止粘膜切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下仙骨膣固定術
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
医科点数表第２章第10部手術の通則の16に掲げる手術
周術期栄養管理実施加算
輸血管理料Ⅰ
輸血適正使用加算
貯血式自己血輸血管理体制加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
広範囲顎骨支持型装置挿入手術
麻酔管理料（Ⅰ）
歯科麻酔管理料
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
１回線量増加加算
画像誘導放射線治療（IGRT）
定位放射線治療
病理診断管理加算１
悪性腫瘍病理組織標本加算
口腔病理診断管理加算１
クラウン・ブリッジ維持管理料
酸素の購入単価

令和6年3月現在

主要医療機器

放射線治療装置　Infinity

3T MRI(Ingenia Elitiln S)

320 列 CT
(Aquilion ONE/PRISM Edition)

64 列 CT
(Incisive CT Premium)

da Vinci X Surgical System

O-Arm ナビゲーションシステム

セクリスト高気圧酸素治療装置
Model 3300HJ

内視鏡システム EVIS X1

心臓リハビリテーション

【その他医療機器】

一般撮影装置
X 線透視装置
CT 装置
歯科用パノラマ装置
血管造影循環器 X 線撮影装置
3Dimensions(3DMammmography)
歯科用 X 線装置
一般ポータブル X 線装置
外科用イメージ
MRI 装置 1.5T、3.0T
核医学装置 RI
X 線骨密度測定装置
個人用人工透析装置
急性血液浄化装置
個人 RO 装置
人工呼吸器
手術中誘発電位測定装置
体温維持装置
内視鏡ビデオスコープ
3D 内視鏡装置
超音波気管支ファイバースコープ
内視鏡用超音波観測装置
分娩監視装置
定置・閉鎖型保育器
搬送用保育器
光線治療器
無反射視力検査装置
マイクロ波治療装置
高周波手術装置
超音波凝固切開装置
超音波検査装置
睡眠時無呼吸症候群検査装置
精密肺機能検査装置
ホルター心電計／解析装置
磁気刺激装置
心電計
脳波計
誘発電位・筋電図測定装置
聴力検査装置
多項目自動血球分析装置
生化学自動分析装置
全自動血液凝固測定装置
自動免疫組織化学染色装置
除細動装置
オートパルス人工蘇生システム
麻酔器システム
電気メス
全自動輸血検査装置
歯科ユニット
Fusion ENT 耳鼻科ナビゲーションシステム
手術用顕微鏡
新生児専用救急搬送車「もじょか 1 号」
ドクターカー

いまきいれ総合病院 Ⅱ－2

病院統計

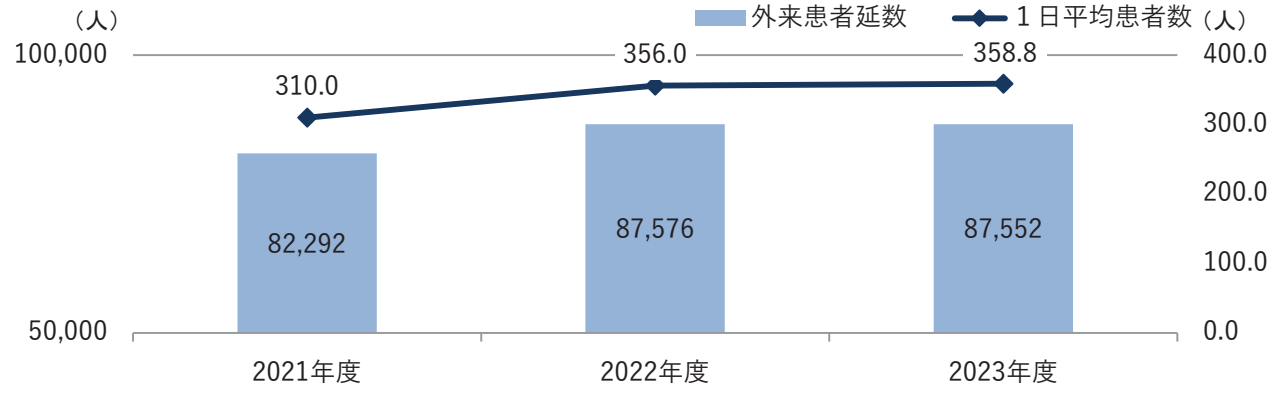
(1) 外来患者数（複数診療科受診を各々１とした場合）

単位：人

	2021/ 令和３年度		2022/ 令和４年度		2023/ 令和５年度	
診療科名	患者数	１日平均患者数	患者数	１日平均患者数	患者数	１日平均患者数
救急・総合診療科	3,554	13.4	4,581	18.6	4,576	18.8
一般内科	286	1.1	316	1.3	210	0.9
糖尿病科	2,347	8.8	2,907	11.8	3,281	13.4
呼吸器内科	6,324	23.8	5,916	24.0	6,345	26.0
脳神経内科	4,592	17.3	4,810	19.6	4,500	18.4
消化器内科	6,897	26.0	6,720	27.3	6,341	26.0
循環器内科	4,640	17.5	4,334	17.6	3,540	14.5
血液内科	2,237	8.4	2,096	8.5	2,096	8.6
外科（消化器・甲状腺・乳腺）	3,260	12.3	3,140	12.8	2,965	12.2
呼吸器外科	2,109	7.9	2,288	9.3	2,286	9.4
血管外科	909	3.4	901	3.7	1,128	4.6
整形外科	8,390	31.6	8,208	33.4	8,802	36.1
形成外科	4,169	15.7	4,593	18.7	4,433	18.2
脳神経外科	1,455	5.5	1,517	6.2	1,457	6.0
産科	1,032	3.9	1,186	4.8	987	4.0
婦人科	2,515	9.5	2,162	8.8	2,334	9.6
小児科	2,944	11.1	3,855	15.7	4,057	16.6
新生児内科	1,888	7.1	2,353	9.6	1,675	6.9
泌尿器科	5,197	19.6	6,168	25.1	6,407	26.3
耳鼻咽喉科	4,020	15.1	4,048	16.5	4,683	19.2
皮膚科	3,306	12.5	3,389	13.8	3,768	15.4
麻酔科	54	0.2	41	0.2	354	1.5
放射線科	1,946	7.3	1,936	7.9	1,944	8.0
緩和ケア内科	455	1.7	491	2.0	545	2.2
一般歯科	1,784	6.7	－	－	－	－
歯科口腔外科	5,982	22.5	9,620	39.1	8,838	36.2
総計	82,292	－	87,576	－	87,552	－
１日平均*	－	310.0	－	356.0	－	358.8

*2021年度は月～土外来診療日、2022、2023年度は月～金外来診療日で計算。

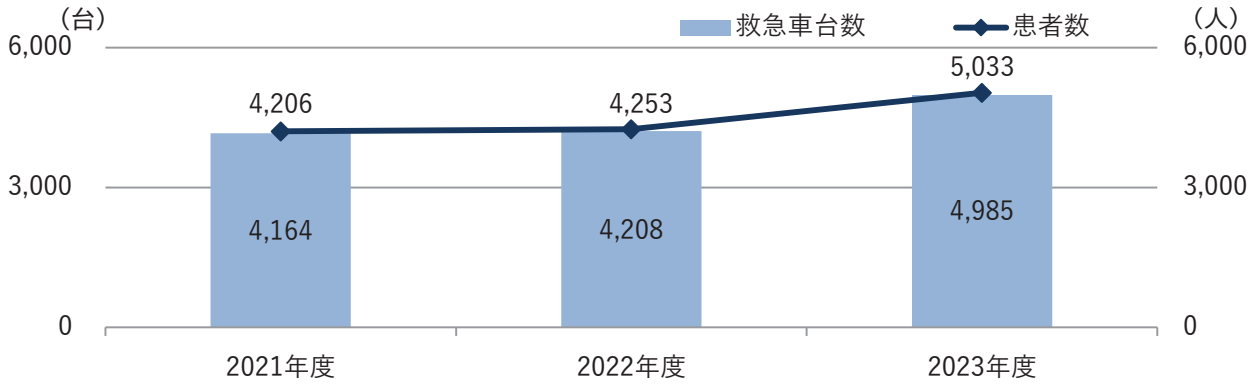
■外来患者数と１日平均患者数



(2) 救急外来

	2021/ 令和 3 年度	2022/ 令和 4 年度	2023/ 令和 5 年度
救急車台数（台）	4, 164	4, 208	4, 985
搬送者数（人）	4, 206	4, 253	5, 033
入院	2, 121	2, 042	2, 583
外来	2, 085	2, 209	2, 450
入院率	50. 4%	48. 0%	51. 3%
ドクターヘリ受入（件）	18	25	26
ドクターカー受入（件）	61	20	23
ドクターカー出動（再掲）	11	14	13

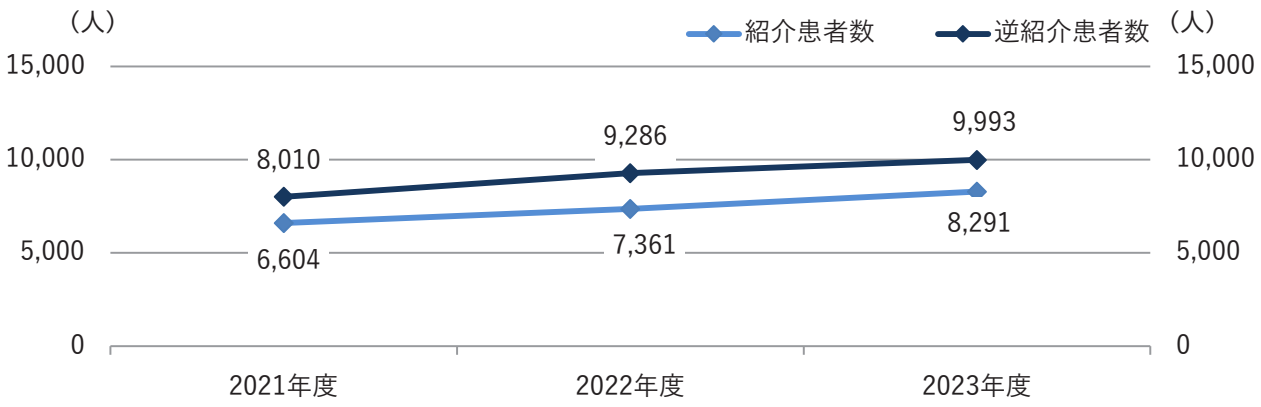
■救急外来患者数・救急車台数



(3) 紹介率・逆紹介率

	2021/ 令和 3 年度	2022/ 令和 4 年度	2023/ 令和 5 年度
紹　介　率（%）	59. 6%	62. 2%	69. 8%
逆 紹 介 率（%）	72. 3%	78. 5%	84. 1%

■紹介患者数・逆紹介患者数

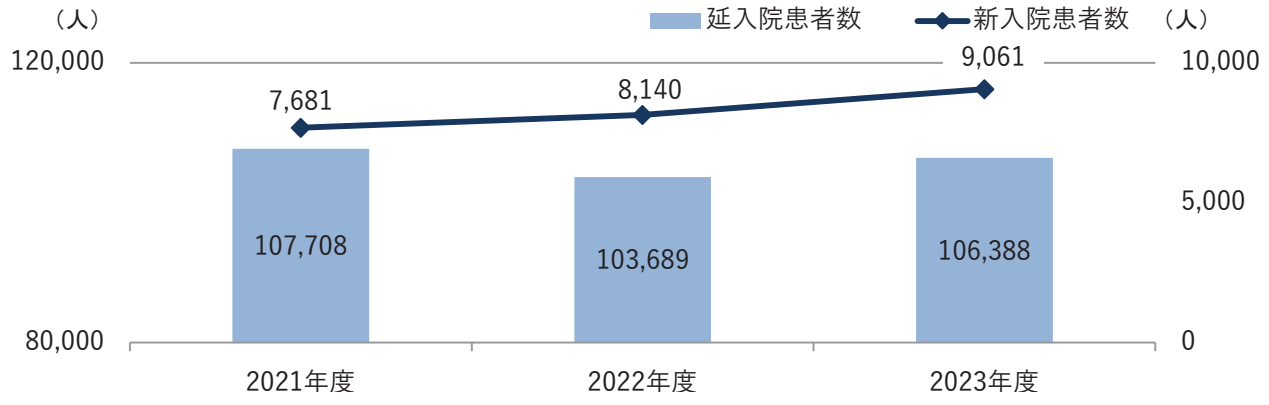


(4) 新入院患者・延入院患者数

単位：人

	2021/令和3年度		2022/令和4年度		2023/令和5年度	
診療科名	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院
救急・総合診療科	591	8,725	650	7,648	974	9,333
糖尿病科	76	1,056	90	1,009	110	1,239
呼吸器内科	676	9,226	675	8,161	860	9,570
脳神経内科	277	6,879	293	6,913	409	7,758
消化器内科	729	7,480	772	7,539	811	7,763
循環器内科	146	2,812	149	2,194	132	2,056
血液内科	318	5,874	325	5,933	351	5,986
外科	540	5,053	517	5,064	504	4,318
呼吸器外科	365	3,756	400	3,564	394	3,414
血管外科	92	414	111	496	133	488
整形外科	1,137	24,777	1,096	21,790	1,158	21,831
形成外科	370	5,339	400	5,657	378	5,447
脳神経外科	223	3,667	209	4,574	228	4,181
産科・婦人科	369	4,002	302	3,364	381	3,259
小児科	133	539	292	766	377	1,012
新生児内科	203	5,785	242	5,971	230	5,626
泌尿器科	537	4,273	699	5,381	725	5,992
頭頸部・耳鼻咽喉科	554	5,072	527	4,563	518	4,320
皮膚科	55	1,079	70	1,075	69	727
麻酔科	1	1	0	0	1	0
放射線科(診断・治療)	42	306	33	407	22	434
緩和ケア内科	31	745	28	588	28	568
歯科口腔外科	216	848	260	1,032	268	1,066
合計	7,681	107,708	8,140	103,689	9,061	106,388
1月平均	640	8,976	678	8,641	755.1	8865.7
1日平均	21	295	22	284	24.8	290.7

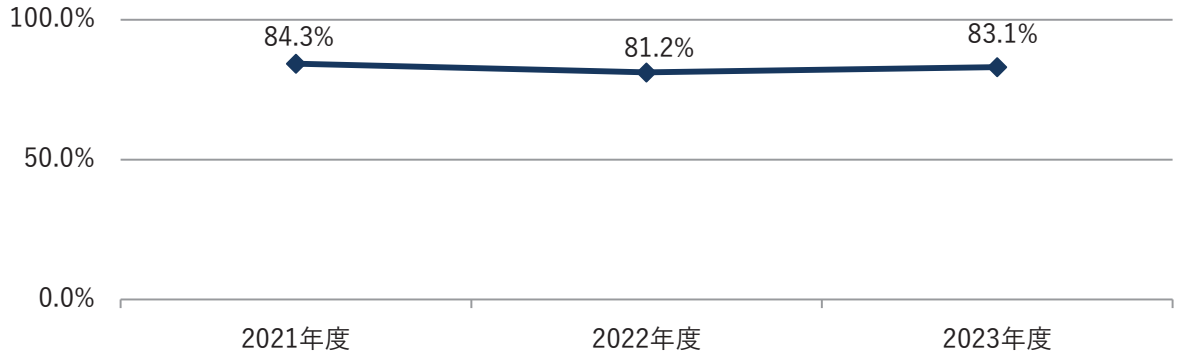
■新入院患者・延入院患者数



（5）入院に関する実績比較

	2021/ 令和 3 年度	2022/ 令和 4 年度	2023/ 令和 5 年度
定床	350床	350床	350床
新入院数	7, 681 人	8, 140 人	9, 061 人
退院数	7, 680 人	8, 121 人	9, 080 人
在院患者延数	107, 708 人	103, 689 人	106, 388 人
１日平均在院患者数	295 人	284. 1 人	290. 7 人
平均在院日数	14. 1 日	12. 9 日	11. 9 日
病床稼動率	84. 3％	81. 2％	83. 1％

■病床稼動率



（6）手術件数（DSA 室 /DS 室含む）

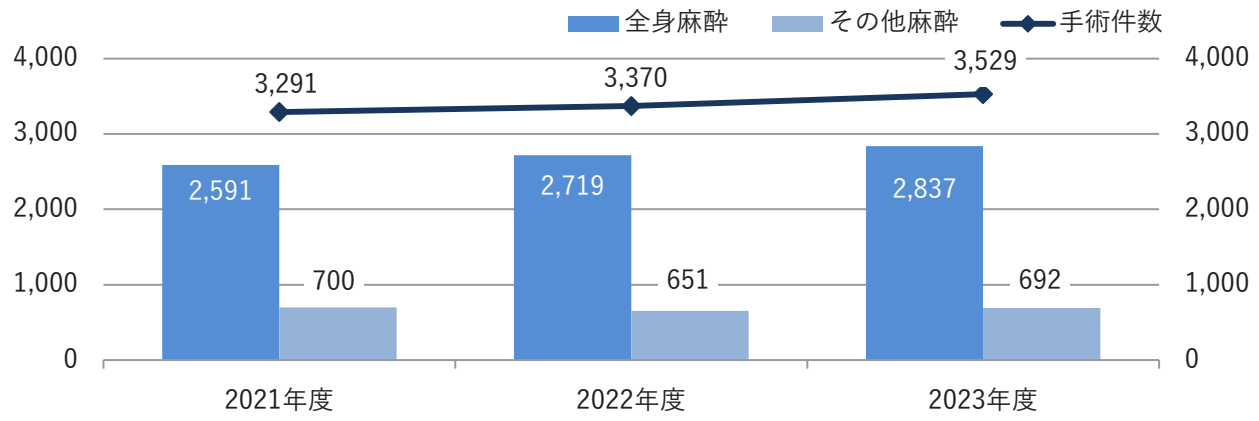
単位：人

	2021/令和3年度	2022/令和4年度	2023/令和5年度
整形外科	1, 103	1, 028	1, 180
形成外科	423	489	507
外科	326	305	263
泌尿器科	294	395	370
頭頸部・耳鼻咽喉科	375	372	375
産婦人科	199	181	158
呼吸器外科	204	196	219
歯科口腔外科	168	195	230
血管外科	104	111	141
脳神経外科	59	66	55
循環器内科	16	17	19
消化器内科	8	2	4
救急科	8	12	3
麻酔科	4	0	1
放射線科	0	1	0
緩和ケア内科	0	0	4
総計	3, 291	3, 370	3, 529

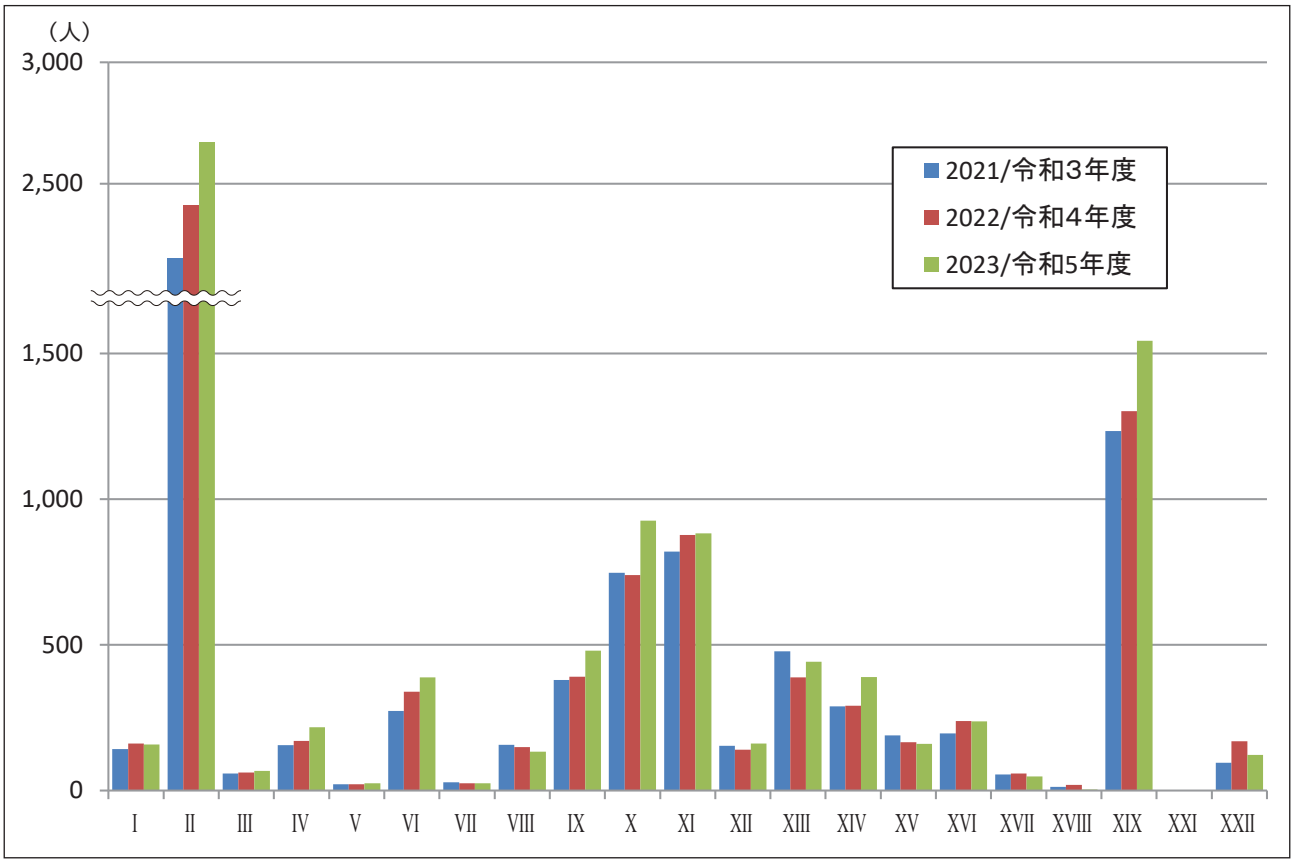
（7）麻酔件数

	2021/令和3年度	2022/令和4年度	2023/令和5年度
全身麻酔	2, 591	2, 719	2, 837
その他麻酔	700	651	692

■麻酔件数・手術件数



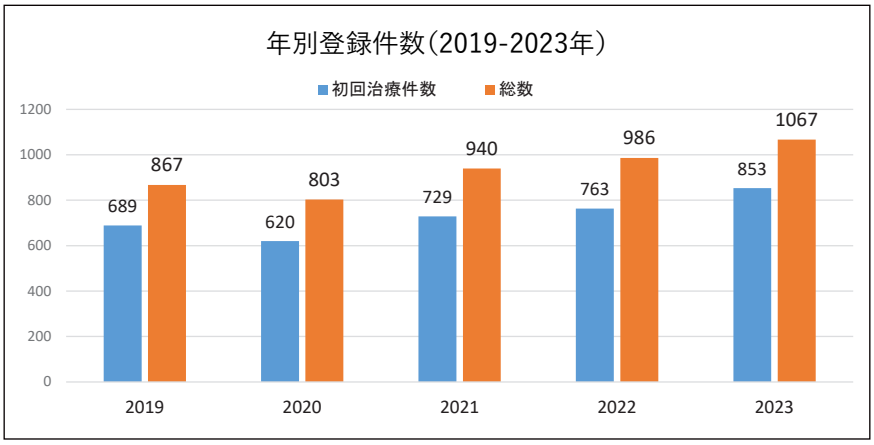
（8）退院患者 ICD 大分類



コード	大分類項目	2021/令和３年度	2022/令和４年度	2023/令和５年度
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	142	161	158
Ⅱ	新生物	2,192	2,411	2,669
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	58	62	67
Ⅳ	内分泌、栄養及び代謝疾患	156	170	217
Ⅴ	精神及び行動の障害	22	22	25
Ⅵ	神経系の疾患	273	339	388
Ⅶ	眼及び付属器の疾患	28	25	25
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	157	149	133
Ⅸ	循環器系の疾患	380	391	480
Ⅹ	呼吸器系の疾患	748	740	927
Ⅺ	消化器系の疾患	820	877	883
Ⅻ	皮膚及び皮下組織の疾患	154	140	161
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	478	389	442
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	289	291	390
XV	妊娠、分娩及び産褥	189	166	160
XVI	周産期に発生した病態	196	239	237
XVII	先天奇形、変形及び染色体異常	55	59	48
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	13	19	4
XIX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,234	1,302	1,544
XXI	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	0	0
XXII	新興感染症	96	169	122
	合計	7,680	8,121	9,080

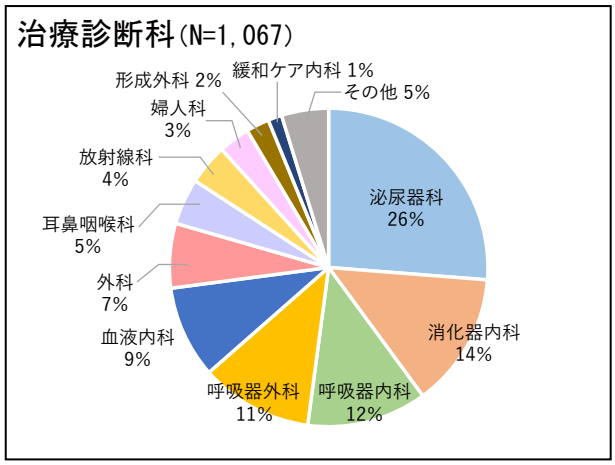
【院内がん登録集計　2023年1月1日～ 2023年12月31日　1,067件　】

※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断及び治療の対象となった症例
・1腫瘍1登録　重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録
・初回治療症例・・・当該腫瘍に対して初回治療を開始、または継続して治療を行った症例（再発・転移除く）



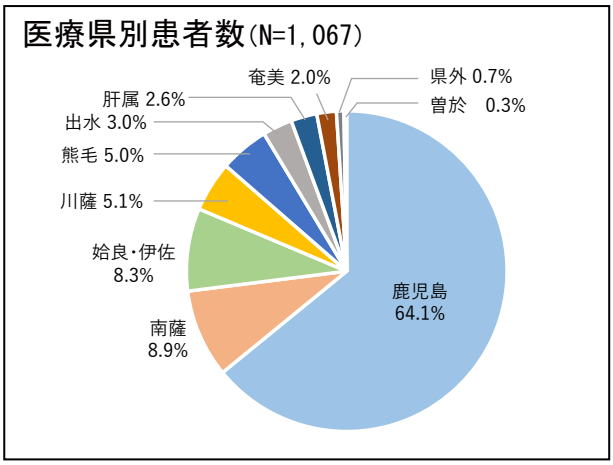
①治療診断科

診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
治療を行った場合：初回治療を行った診療科
どちらも行った場合は、治療をした診療科を1としています。
（例）消化器内科にて診断し外科にて治療、外科にて経過フォロー
⇒　外科でカウント



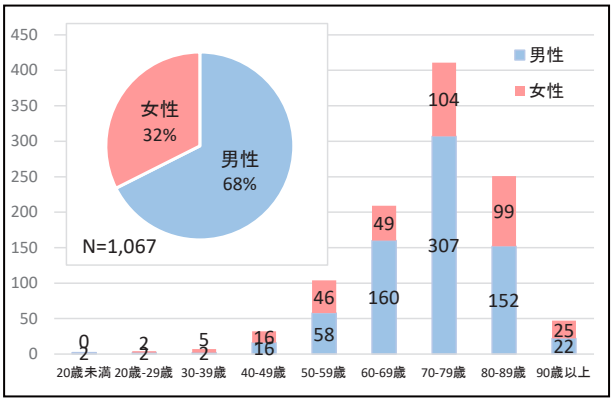
②医療圏別割合

患者さんの居住されている医療圏別分類です。
6割が鹿児島医療圏の患者で、次に南薩医療圏が多いです。
熊毛や奄美など離島からの患者も受け入れています。



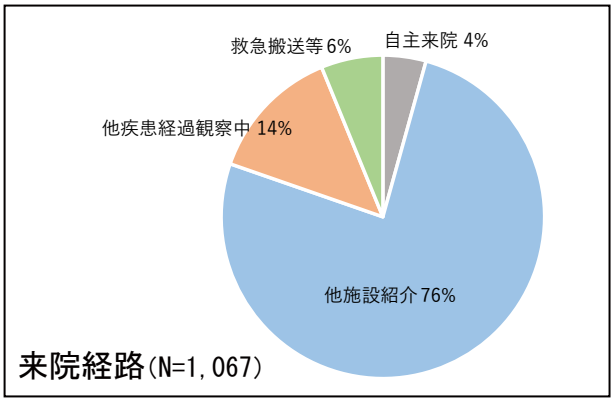
③性別・年齢別患者数

患者さんの年齢、性別の割合をグラフ化しています。
男性特有（特に前立腺癌）を多く治療しているため、男性の割合が多いです。



④来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。
8割近くが他施設からの紹介です。



⑤ 症例区分

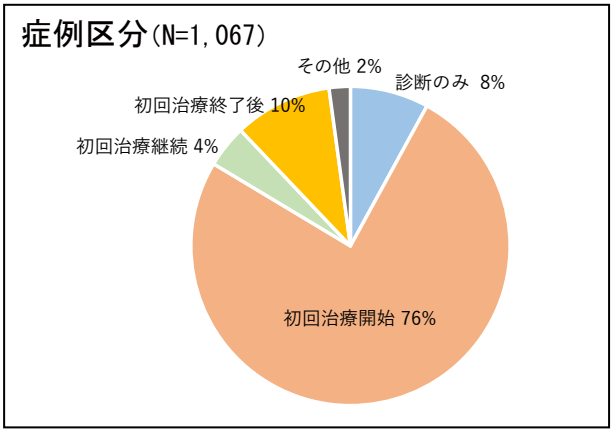
診断のみ：
　当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行った、もしくは治療を選択しなかった症例

初回治療開始：
　当院で初回治療を開始した症例（診断施設は問わない）

初回治療継続：
　他施設にて初回治療開始後、継続して当院で初回治療を行った症例。

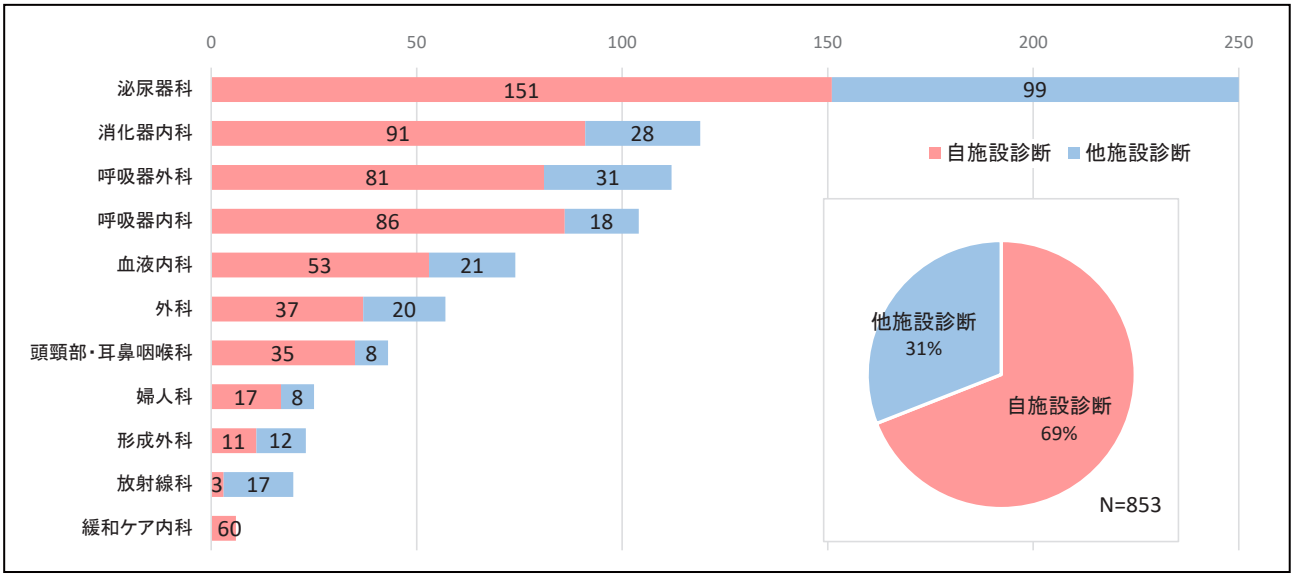
初回治療終了後 / 再発：
　当該腫瘍に対する初回治療終了後、または、再発・転移で治療を行った症例

その他：上記に該当しない症例



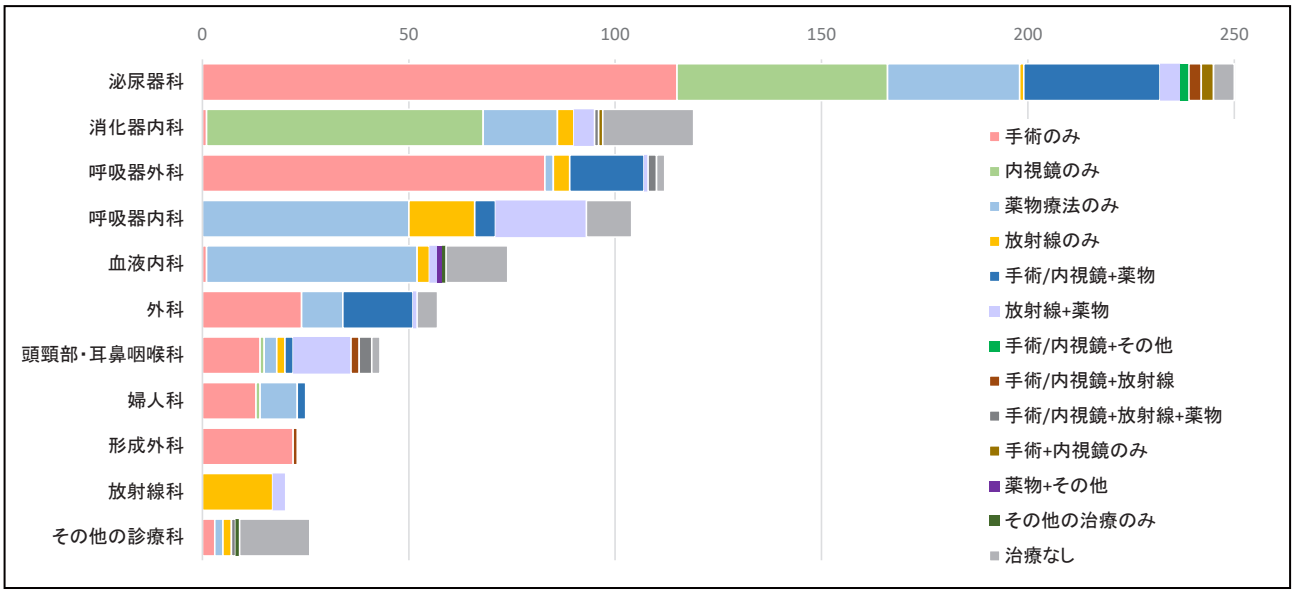
⑥ 診療科別・診断施設別患者数（当院にて初回治療実施症例のみ集計：853 件）

がん患者さんの診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。
泌尿器科の患者が最も多く、次いで消化器内科、呼吸器外科です。



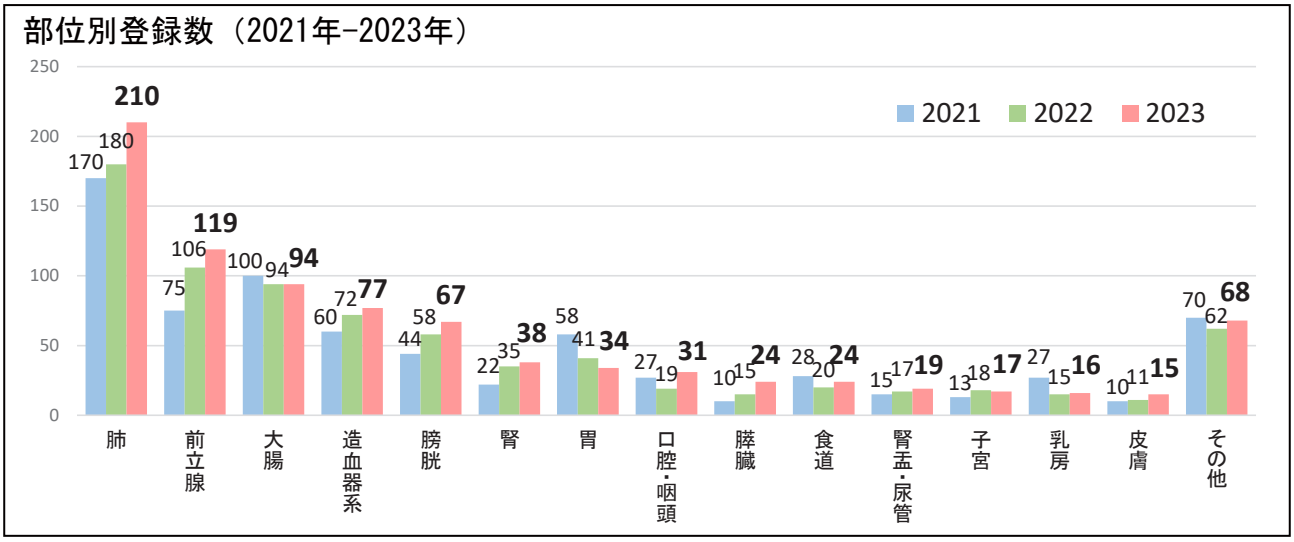
⑦ 診療科別・初回治療内容別治療数（当院にて初回治療実施症例のみ集計：853 件）

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています。



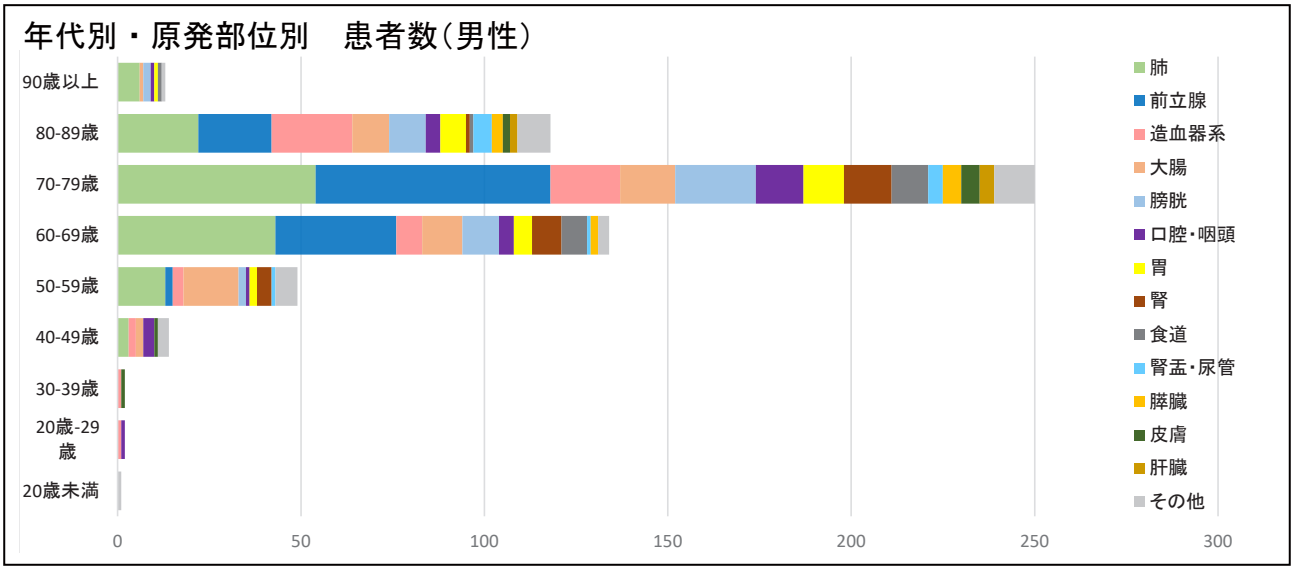
⑧ 原発部位別　患者数（当院にて初回治療実施症例のみ集計：853 件）

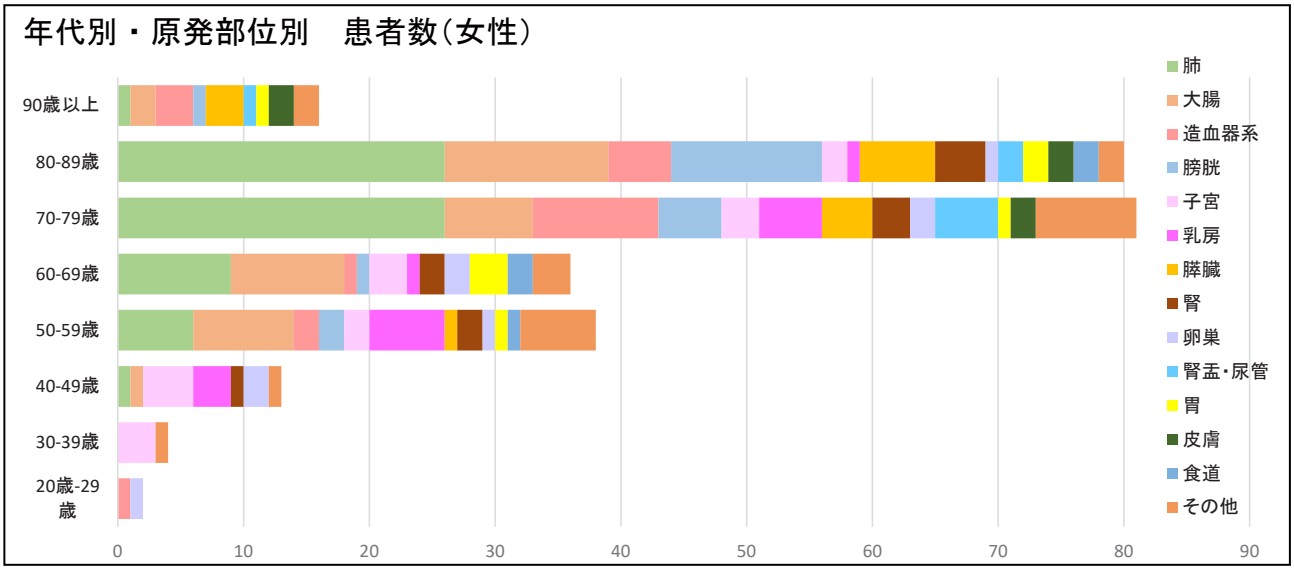
部位別の登録件数を登録年別にグラフ化したものになります。
「その他」は、年間 10 症例未満のがんで、小腸、甲状腺、胆のう、脳腫瘍、骨軟部、原発不明がん等が含まれます。
2023 年症例の多い順に並べています。



⑨　性別・年代別・原発部位別　患者数（当院にて初回治療実施症例のみ集計：853 件）

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています。





いまきいれ総合病院 Ⅱ−3

部門報告 診療部

- 救急・総合診療科（救急科・内科）
- 血液内科
- 糖尿病内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 脳神経内科
- 外科、消化器外科、乳腺外科
- 呼吸器外科
- 血管外科
- 整形外科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 産科・婦人科
- 新生児内科
- 小児科
- 泌尿器科
- 頭頸部・耳鼻咽喉科
- 皮膚科
- 麻酔科
- 放射線診断科
- 放射線治療科
- 緩和ケア内科
- 病理診断科
- 歯科、歯科口腔外科

救急・総合診療科/救急科

部長／西山淳
科長／覚本雅也

2023年度 トピックス

２次救急医療施設に位置づけされている当院において救急科は救急診療、教育研修、災害医療の３つを基本的な活動の軸として日常の診療に従事している。救急診療ではプライマリーケアおよびインテンシブケアを行っている。教育研修では日本救急医学会認定講習（BLSコース、ICLSコース）を行い、多くの病院スタッフが共通のスキルを学ぶことで急変対応において効果的なチームダイナミクスの確立を目指している。またRapid Response System(RRS)を導入し救急科医師や救急領域に従事するスタッフでチーム（Rapid Response Team）を形成し、院内において心停止に至る可能性のある患者を重症化する前にその兆候を把握し対応することで救命率の改善を図ることを目的とし活動している。救急隊との合同カンファレンスでは“顔の見える関係”を構築すべく知識、技術の研鑽に励んでいる。災害医療においては、救急部門スタッフを中心に日本DMATを編成し災害時の対応強化に努めている。また災害医療教育としてはエマルゴコースを開催している。ここで学んだことをフィードバックすることで災害の分析や検証、災害マニュアルの見直しなどを行い、病院の災害医療体制構築、対応能力の改善に活用している。

2023年度 診療実績

症例区分	施設の全症例数
1. 心停止	20 人
2. ショック	101 人
3. 内因性救急疾患	5,068 人
4. 外因性救急疾患	3,937 人
5. 小児および特殊救急	840 人
6. 救急車（ドクターカー、ヘリ含む）	4,718 台
7. 救急入院患者	2,065 人
8. 重症救急患者	592 人

総括

2023年度は救急車受け入れ台数および救急車からの入院患者数は過去最高の件数であったが、救急車不応需率は20％を超えていた。不応需理由としては「ベッド満床」が最も多く、2023年5月からCOVID-19が5類感染症に移行してからもベッドコントロールに少なからず影響していたと思われた。また病院勤務の救急救命士の救急外来での業務拡大に伴う増員により全体業務の効率化が期待される。次にHCU(10床)は年間を通して稼働率が90％前後で推移できたことから、今後はICUへの移行も検討する必要がある。2023年度は対面形式をとる研修会や学習会、あるいは集団での訓練などが徐々に行われ始めたことに加え、コロナ禍で培われたオンラインスキルなど今後は多職種間のコミュニケーションがよりスムーズに構築できるのではないだろうか。災害医療に関しては、1月1日に発生した能登半島地震とその被害に伴い石川県から厚生労働省DMAT事務局を通して鹿児島県に対し災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣要請があり当院からは日本DMAT隊員5名(医師1名、看護師2名、業務調整員2名)が1月28日から2月2日までの日程で派遣活動を行った。

次年度の目標

- 救急車受け入れ5,000件(420件/月)、救急車不応需率10％未満。
- ドクターカーの運用の活性・拡大化（姶良地区、日置地区、その他）。救急救命士の増員により拡大運用。
- 定期的に救急隊との合同カンファレンスを開催する：2回(7月、1月)/年：オンラインなどを用いて行う。
- スムーズな患者フローを行うために組織間の連携強化(各診療科間、病院間、病院 - 消防 - 行政など)に努める。
- 病院全職員を対象とした救急蘇生教育・災害教育を継続実施する。
- 院内災害訓練の実施(更新した災害対策マニュアルを用いての)。
- 災害拠点病院の認可。
- システム化した研修医の教育体制を図る。
- 診療科判断のパスを整備する。

救急・総合診療科/内科

部長／二木真琴
部長待遇（～2024年3月）、部長（2024年4月～）／鶴将司（報告）
医長／湯田琢馬、医師／三宅健治、大礒陽子、隅本輝（2024年1月～）
非常勤医師／富吉有佳、瀬戸山仁

2023年度 トピックス

2023年4月より新たに鶴医師、2024年1月から隅本医師が新たに常勤として加わり、入院患者数も増え、他科より相談受ける件数も増えた。医師の数が増えたことで、救急科とも連携のうえ夜勤帯を救急・総合診療科でカバーできる割合も増加した。

総括

入院患者数が増え、昨年に引き続き、DPC期間を意識した退院調整を継続した。

内科疾患を抱えるも手術を要しない整形外科疾患で入院となった患者の一部を、当科主科で管理することが増えた。また、整形外科に限らず他科と併診する機会も増えたことで、より良好な連携ができた。

当科は研修医教育にも力を注いでいるが、多くの初期研修医が当科で研修をした（1年目研修医 7人、2年目研修医 5人）。2年間の中で、当科での研修を複数回行う研修医が増えた。

前述の通り、夜勤可能な常勤医師が2名増えたことで、救急・総合診療科として救急対応する機会が増えた。

2023年度 診療実績

外来患者数　初診 1,458 人（紹介状あり 126 人）
一般健診数　196 人
予防接種　65 人
入院患者数　608 人
入院経路
　救急（救急車搬送後入院・紹介患者除く）：49.0%
　紹介：37.3%
在院日数　10.3 日

SAS	簡易検査	48 件	（15 件）
	精密検査（PSG）	41 件	（41 件）
	CPAP 新規導入	18 件	（18 件）
	CPAP フォロー患者	54 人	（28 件）

（ ）は総合診療科・一般内科件数

次年度の目標

- 総合診療専門研修プログラムを専門医機構に提出し、2025年度からの専攻医の研修受け入れができるように体制を整える。
- 後方支援病院とのさらなる連携を図り、在院日数を短縮する。

血液内科

部長／小濱浩介、井上大栄（報告）
医師／山本花

2023年度 トピックス

2023年度は4月に前任の中別府先生から山本先生に交代となり、スタートしました。診療体制には特に大きな変化はなく、無菌室も概ね順調に稼働していました。

医療全般に日々の進歩が目まぐるしいですが、血液学の領域でも同じく、遺伝子変異や腫瘍をとりまく微小環境（tumor microenvironment,TME）の解析とそれにもとづく創薬の研究、再生医療、さらにはがん免疫療法法のキメラ抗原受容体遺伝子導入 T（chimeric antigen receptor -T,CAR-T）細胞療法や二重特異性抗体療法などの日常診療でも、進歩が怒涛の如く押し寄せてきています。当科では、造血幹細胞移植やCAR-T療法は行えませんが、それ以外の治療は積極的に取り入れるようにしています。スタッフの努力もあり、過去最高収益を上げた月もありました。

2023年度 診療実績

外来

2023年度：	新患数	213人/年	
	総　数	2,096人/年	（174.7人/月）
2022年度：	新患数	258人/年	
	総　数	2,096人/年	（174.7人/月）
2021年度：	新患数	218人/年	
	総　数	2,237人/年	（186.4人/月）

入院

2023年度：	新　規	351人/年
	平均在院日数	16.4日
2022年度：	新　規	347人/年
	平均在院日数	19.1日
2021年度：	新　規	318人/年
	平均在院日数	18.6日

化学療法

2023年度：	入院　749件/年	外来　276件/年
2022年度：	入院　537件/年	外来　238件/年
2021年度：	入院　412件/年	外来　287件/年

がん（悪性）リハビリテーション

2023年度：	82人/年
2022年度：	68人/年
2021年度：	66人/年

総括

過去3年間の診療実績的には、2023年度は新規入院人数、入院化学療法件数、がんリハビリテーション人数が最多で、さらに平均在院日数も最も短くなっておりほぼ目標値になっていました。医業収益も前年度を上回り、本年度も目標値を達成していました。外来新患数は前年度よりも減少したにも関わらず、新規入院患者数が増加したのは、直接入院の紹介件数が増加したことによると思われます。今後もご紹介患者を速やかに受け入れるよう努めたいと思います。ただ、直接入院が必要な患者さんは、治療を急ぐばかりではなく、ADLが不良であったり、ご高齢あるいは遠方にお住まいであったり、入院せざるを得ない背景があります。また、急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群の化学療法では治療の連日投与や血球減少があるため、外来への移行が難しくなってしまいます。この状況は、今後の診療報酬の改定で必要とされる「化学療法のうち外来化学療法の件数が60%以上」の達成に大きな障壁となってしまいます。

次年度の目標

外来化学療法への移行は簡単ではありませんが、治療開始と同時に、看護計画に基づく看護介入、理学療法士・言語療法士によるリハビリテーション、栄養管理士による栄養管理指導、MSWによる在宅医療や転院調整、更には緩和ケアチームによる精神的アプローチなど、これまでも行ってきたことではありますが、患者の全身状態を早期に改善させるために、より医療の質を高めるように強く意識してチーム医療を取り組んでいきたいと思います。

糖尿病内科

科長（～2024年3月）、部長（2024年4月～）／山元聖明
医師／池田真紀

2023年度 トピックス

2021年度までは常勤医師1名、非常勤医師1名の体制であったが、2022年度より常勤医師2名での診療体制となったため、現体制では2年目となる。

外来診療に於いては1型・2型糖尿病、妊娠糖尿病など糖尿病診療の他、甲状腺疾患や副腎疾患などの内分泌患者さんの診療を行っている。また、2022年度から糖尿病透析予防外来を開設し、当院通院中の方を対象に医師・看護師・栄養士が連携しながら指導を行っている。マンパワーの都合上たくさんの患者さんへの指導は困難であるが、2023年度はなるべく多くの患者さんを受け入れられるよう枠を増やした。しかしながら、当院には腎臓内科がないため、管理が難しい症例や若年者など、より専門的な診療・指導が必要と判断した場合はキラメキテラスヘルスケアホスピタル腎臓内科へご紹介させていただき、併診していただきながら腎症の進展予防に努めている。

入院診療については、例年通り血糖コントロールや教育、高血糖緊急症、術前の血糖管理など糖尿病患者さんが大部分であった。また近年は悪性腫瘍に対する免疫チェックポイント阻害薬の適応拡大とともに内分泌学的有害事象を発症するケースも年々増えており、院内外より1型糖尿病や副腎不全等にてご紹介いただき緊急入院となる患者さんも増えている。内分泌疾患については当院で対応・診断が難しいケースもあり、その場合は鹿児島大学病院糖尿病・内分泌内科へ紹介し、連携しながら診療を行っている。

教育面については、2023年度は7名の初期研修医が当科にて研修を行った。また初めて1名の後期研修医を受け入れた。さらに鹿児島大学医歯学教育開発センターからの依頼により、2023年度より鹿児島大学医学部医学科3年生のシャドウイング実習を行った。実習は午前中のみではあるが8名を受け入れることができた。

2023年度 診療実績

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
初診	110	127	183	191
再診(※1)	1,666	2,220	2,724	3,090
新入院患者(※2)	72	101	106	123

※1 延べ人数
※2 入院後に当科への転科症例を含む

総括

広報誌を活用した広報活動等により少しずつではあるが近隣の医療機関を中心に紹介をいただくケースが増えている。さらに紹介患者を増やすべく今後も広報活動を続けていきたい。一方当院は紹介型病院であることを踏まえ、安定した患者さんを近隣医療機関への紹介を勧めている。

課題としては2022年2月より糖尿病透析予防外来を開設し、当科の糖尿病腎症患者さんへの指導を行っているが受診者はまだまだ少数であり、受診の推進と指導体制のさらなる充実を図っていきたい。また近年の課題であったフットケア外来を2023年度よりようやく開始することができた。少しずつ軌道に乗っている状況ではあるが、まだ不慣れな点もあり、スタッフへの教育を進めながら充実を図りたい。また、2024年度より上町いまきいれ病院眼科の体制が一新された。連携をより強化していきたい。

次年度の目標

1 紹介患者を増やすため広報活動を積極的に行っていく。
2 糖尿病フットケア外来と糖尿病透析予防外来受診の推進、指導内容の充実を図る。
3 近隣医療機関との連携を行い、病診連携を推進する。
4 上町いまきいれ病院眼科との連携を強化する。
5 初期研修医がより充実した研修を行えるよう教育体制の改善を図る。

消化器内科

診療部長／船川 慶太
部長／吉永英希　理事長／今給黎和幸　科長／山崎晃裕
医師／奈良博文（～2024年3月）、呉將禎（2023年4月～9月）、坂隆寛（2023年9月～2024年3月）
非常勤医師／岩屋博道、鶴留 一誠、丸尾周三、花園幸一

2023年度 トピックス

- 2023年6月15日･16日に、当院は病院機能評価を受審し、無事認定を受けることができた。機能評価受審に向けて、内視鏡診断治療や薬物療法など、当科関連の各種文書、マニュアル、オーダーシステム、クリニカルパスなどを見直した。整備・統一を図り、運用を開始し、円滑な診療につながった。また、内視鏡処置前にはタイムアウトを開始し、スタッフ間の情報共有が強化された。ホルマリンの管理を強化して、環境測定を年に2回行い、職場環境の安全性が向上した。
- 2023年度の内視鏡検査数は4,129件と、2022年度とほぼ変わらず、目標の5,000件には届かなかった。
- 2021年度以降、ESD件数は年間100例を越えていたが、2023年度は、年間85件と減少した。前半4～6月が30件と少なく、後半10月～3月は55件と例年通りの件数であった。
- ERCP・EUS関連検査処置数は例年と比べてほぼ横ばいであった。
- 急性膵炎の局所合併症である膵仮性嚢胞（PPC）及び被包化壊死（WON）に対するドレナージとして、瘻孔（ろうこう）形成補綴（ほてつ）材「Hot AXIOSシステム」を用いた超音波内視鏡（EUS）下ドレナージの有用性が周知されており、講習・トレーニングを受けた医師のみ使用が許可されている。2023年度に山崎晃裕医師が資格を取得し、当科でも「Hot AXIOSシステム」の使用が可能となり、2例に対して施行した。
- カプセル内視鏡件数が、2022年度7件だったのが、2023年度は20件と増加した。
- 企業健診内視鏡、キラメキテラスヘルスケアホスピタルとの連携での内視鏡が増加傾向にあった。
- 鹿児島市の内視鏡胃癌検診事業に参加し、2023年10月より開始となった。
- 毎週月曜日朝の当科カンファレンスに、キラメキテラスヘルスケアホスピタル消化器内科津嘉山健医師が参加してくださり、より連携が強化された。
- 消化器癌化学療法件数
  2021年度　外来化療：165件　入院化療：109件
  計274件
  2022年度　外来化療：226件　入院化療：163件
  計389件
  2023年度　外来化療：157件　入院化療：190件
  計347件
  2022年度まで増加傾向であったが、2023年度は、入院化療は増加したが、外来化療は減少し、全体数としても減少した。

2023年度 診療実績

検査名（上部）	件数
胃・十二指腸ファイバー	2,449
上部超音波内視鏡(EUS)	162
食道内視鏡	3
食道ステント留置術	1
食道狭窄拡張術	64
食道早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術(ESD)	16
内視鏡的消化管止血術	32
内視鏡的食道・胃内異物摘出術	6
胆道ファイバースコピー	0
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術(EVL)	9
胃・十二指腸狭窄拡張術	6
胃早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術(ESD)	24
胃早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術(ESD)＋LECS	4
十二指腸早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術(ESD)	1
十二指腸早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術(ESD)＋LECS D-LECS	0
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ切除術	4
上部イレウスチューブ留置術	30
超音波内視鏡下穿刺吸引生検法(EUS-FNA)	35
小腸内視鏡(バルーン内視鏡による)	0
計	2,846

検査名（下部）	件数
大腸ファイバー	
・上行結腸まで	617
・下行、横行結腸まで	31
・S状結腸まで	42
・直腸まで	16
小腸内視鏡(その他のもの)	0
カプセル内視鏡	20
消化管通過性検査	1
内視鏡的大腸ポリープ切除術	220
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術(ESD)	41
下部消化管内視鏡的止血術	10
大腸ステント留置術	10
結腸軸捻転解除術	7
小腸結腸狭窄部拡張術	14
結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	0
計	1,029

検査名（ER）	件数
内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	0
超音波内視鏡下瘻孔形成術	2
内視鏡的胆道拡張術	2
内視鏡的膵管ステント留置術	9
内視鏡的経鼻胆道ドレナージ術(ENBD)	1
内視鏡的胆管ステント留置術(ERBD)	75
内視鏡的胆道結石除去術(胆道砕石術を伴うもの)	14
内視鏡的胆道結石除去術(その他のもの)	13
内視鏡的乳頭切開術(EST)	8
内視鏡的乳頭切開術(EST＆EHL)	15
内視鏡的乳頭切開術(EST＆EML)	12
計	151

検査名（PEG）	件数
内視鏡的胃瘻造設術	36
胃瘻交換	62
胃瘻抜去	5
計	103

総計　4,129件

総括

新病院移転3年目の年、新病院効果も薄まり、2021年度、2022年度と増加傾向の検査治療件数は、2023年度はやや頭打ちとなった。

コロナ明けとなったが、講演会や学会発表が十分に行えず、当科診療をアピールできなかったこと、また地域の医療機関との関わりが十分ではなかったことなどが原因ではないかと考えている。

ESD件数減少は、特定の病院からの紹介が減少したこと、また新しい治療法（水浸下内視鏡的粘膜切除術；underwater-EMR）の普及で一部ESDからEMRへのシフト症例があったことなども一因と考えている。

次年度の目標

- 診断治療に関するデータベースを整備し、学会発表や地域での研究会などを通じて、当科診療をアピールする。また、研修医への指導など教育にも力をいれる。
- 地域とのつながりを強めつつ、積極的に地域の病院・クリニックや福祉施設などとの連携をとりながら、緊急患者や新規紹介患者の受け入れ、連携先への紹介・転院を円滑に行う。迅速丁寧な返書作成も徹底する。
- 職種を越えた組織横断的な連携を強化し、外来、病棟、内視鏡スタッフとも良好な関係を築き、地域から信頼される質の高い安心安全な診療を目標として努力する。
- 2024年4月より、医師10年目の若手古川淳一郎医師が常勤となり、即戦力として多くの業務をこなしている。やる気、実力も十分あり、日常診療だけでなく、学会発表、論文作成などでも活躍を期待する。
- 2024年4月より、日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医の川平正博医師が金曜日に外来勤務となった。今後、腫瘍内科専門外来として活躍が期待される。
- 2024年度診療報酬改定にあたり、急性期充実体制加算2を取得する要件として「外来での化学療法実施割合60％以上」の基準を満たす必要があり、化学療法件数増加だけでなく、入院→外来化学療法への移行に尽力する。

循環器内科

院長／濱崎秀一
部長／志岐健三郎（報告）、有馬良一
医師／手塚綾乃

2023年度 トピックス

2023年度は、松本先生が転任となり、手塚先生が加入となり新風を吹き込んでくださり、有馬先生、小生も心機一転の年度となりました。また、濱崎先生は院長職御多忙の中、引き続き院長外来として循環器内科外来をサポートしていただき、カンファレンスなど含め、助けていただいております。

アフターコロナの重要な年度でしたが、当科的には、良かった点・反省すべき点ありました。ペースメーカー症例が昨年度よりも増えた点は良かったと考えます。徐脈を疑う症例を各科や連携医療機関の先生方に御紹介いただいた下地があり、その中から適応症例を拾い上げていきますので、今後ともよろしく御紹介のほどをお願いします。経食道心エコーやコントラストエコー・心嚢穿刺も少数ながら増えていますが、コスト面に反映させるほどには至ってないのが現状です。一方、猛暑の影響が長期化したのか秋冬まで心不全患者の減少があり、こうしたことは例年になかった現象と考えます。新病院移転後の循環器内科の入院数としては最小となりました。

2023年度 診療実績

経胸壁心エコー	2,238 件
経食道心エコー	7 件
下肢血管エコー	834 件
頚動脈・他血管	303 件
運動負荷心電図	76 件
ホルター心電図	204 件
ABI 検査	660 件
冠動脈 CT	65 件
大血管 CT	4 件
心筋シンチ	80 件
肺血流シンチ	3 件
心臓 MRI	10 件
ペースメーカー新規	15 件
ペースメーカー交換	4 件
心嚢穿刺	4 件
入院患者数	164 人
平均入院日数（他科よりの転科含む）	15.9 人
心不全入院患者	80 人
HCU 入院患者	14 人
急性心筋梗塞	2 人
急性大動脈解離	1 人
心臓リハビリ	31 人（新規）
心臓リハビリ	320 人（年間延べ件数）

当科の役割の一つとして、非心臓手術前の心機能評価があります。2019年からは心エコー件数は年間3000件を超えておりましたが、2022、2023年度と心エコーの総数は減少傾向です。最近のガイドラインでもルーチンの術前心エコーは推奨されないことを謳われてきておりますので、マンパワーを他のエコー検査に生かす岐路に立っていると感じます。化学療法前後のGLS(global longitudinal strain)などの心機能評価も増えている印象で、脳塞栓の塞栓源検査・感染性心内膜炎精査なども一定数あります。一方、血管外科との連携もあり、下肢血管エコーの割合が増多しております。

虚血性心疾患に関する画像モダリティは、320列CTでは、有意狭窄の他、プラーク性状にも迫ることが可能となり、また血管石灰化のある症例にはサブトラクション処理により石灰化除去した画像での冠動脈形態の評価も可能となりました。心臓MRIも導入され、試行錯誤を重ねておりますが、パーフュージョンMRIや遅延造影の組み合わせで、虚血や心筋梗塞・他の心筋症との鑑別にも有用と考えます。MRIでの虚血の評価は現状定性評価に留まっており(アプリケーション未対応)、定量化では、Heart Risk ViewやQGS法を用いた201Tl負荷心筋シンチの方が一日の長があるようです。心筋シンチと心臓CTとのフュージョン画像は、虚血枝の同定・診断もより明示的にできると考えます。他の心筋症に対して、123I-BMIPP・123I-MIBGの他核種を用いています。トランスサイレチン型心アミロイドーシスの診断に99mTc-PYP(or 99mTc-HMDP)が有用とされ当院でも対応済みです(2022年3月からは99mTc-HMDPでも保険審査可)。心臓カテーテル検査のない循環器内科ですので、心不全患者の加療が中心となりますが、上述のような非侵襲的な検査・診断力の向上に努めています。心不全患者は高齢者

も多いですが、リハビリ室との連携で、心臓リハビリも一定数確保できています。

ペースメーカー植込み症例も2023年度は増多あり、また、有馬部長のペースメーカー外来も順調に運用されています。通常の外来負担を減らし、患者さんの認知度も高まることが期待されます。

次年度の目標

救急・総合診療科との連携、他科術前患者での心不全合併例への介入、周辺医療機関との連携を通して、心不全をはじめとする循環器疾患の診療を、一層強化を要すと思われます。また心不全患者に関しても原因・病因の見直しを改めて行うことが重要と考えます。従来は虚血性と非虚血性をまず大きな鑑別に挙げておりましたが、HFpEF(駆出率の保たれた心不全)や肥大型心筋症の患者群の中には二次性心筋症も鑑別に挙げていかねばならないと考えます。当院では、心エコーだけてはなく、320列CT・RI検査（心筋シンチ）・心臓MRIと画像検査体制が充実しておりますので、患者さんへ改めての検査意義を説明していきたいと存じます。なお、心不全患者のクリニカルパス導入も進めており、心臓リハビリの早期導入に有用と考えます。心不全患者の多くは高齢で合併症が多く退院日数の短縮に関しては医療連携での早期転院調整の重要性を感じております。

呼吸器内科

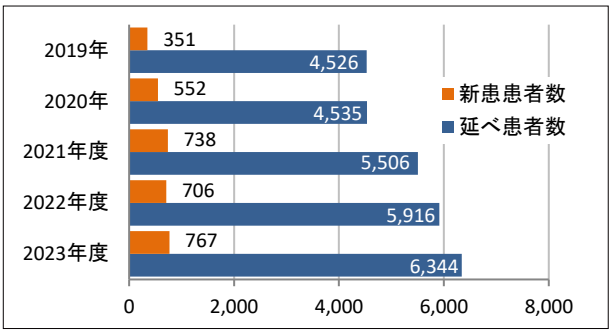
副院長・呼吸器内科部長／岩川純
科長／入來豊久（～2024年3月）　医長／亀之原佑介
医師／内田浩子、鶴薗健太郎
非常勤医師／水野圭子（鹿児島大学 呼吸器内科）

2023年度 トピックス

2023年3月に下馬場医師が川内市民病院へ異動し、新たに内田、鶴薗医師を迎え４人体制から５人体制に戻ることができた。また、2023年5月からは鹿児島大学呼吸器内科准教授の水野圭子医師が毎週木曜日午後の外来化学療法の非常勤医師として診療にあたっている。

2023年度 診療実績

外来患者数（2019年，2020年は1-12月）



疾患別入院患者数（2019年，2020年は1-12月）

疾患名	2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
肺癌	481	350	338	262	295
肺炎	63	62	54	70	65
びまん性肺疾患	58	43	54	47	34
気管支喘息	7	13	6	7	19
慢性閉塞性肺疾患	14	15	17	9	11
肺結核	7	8	6	17	2
その他	243	207	230	177	186
合計	873	698	705	599	612

気管支鏡数（2019年，2020年は1-12月）
（呼吸器外科・内科合算）

2023年	2022年	2021年	2020年	2019年
204	181	154	123	173

- 鹿児島大学医学部　呼吸器内科講座　臨床実習　２週間に１回受け入れ
- 鹿児島大学医歯学教育開発センター　シャドウイング実習　６回受け入れ

総括

外来新規患者数は767人、外来延べ患者数は6,344人と増多傾向である。特に延べ外来患者数が年々増多傾向にあるため、地域の医療機関とも連携して病状が安定した患者さんは地域に戻せるようにさらに努力していきたい。

気管支鏡数は2020年が移転のため減少していたが2023年は204件と最多となった。

新規入院患者数は873人と前年と比較して大きく増多した。肺癌患者さんの入院が増多している。化学療法に加え、免疫チェックポイント阻害剤や放射線照射、呼吸器外科との連係など集学的な治療を行っていることから、長期生存が増多している可能性がある。昨年度肺がんを含めて予後調査を行う予定であったが行えなかった。今年度は是非行っていきたい。肺癌3期の化学療法、放射線照射後の免疫チェックポイント阻害剤投与の予後については入來医師を中心にまとめ、鹿児島、熊本、久留米の患者さんのデータの一部として日本肺癌学会で発表している。鹿児島大学病院呼吸器内科の関連病院として大学の研究、教育にも積極的に参加している。

その他集計内にCOVID-19陽性23人の入院患者を診療した。5類に移行後も入院加療が必要な患者の診療に当たっている。

2024年4月から入來医師が入來クリニックに戻ったが週１回水曜日に非常勤医師として診療を継続している。2024年4月1日から日赤愛知医療センター名古屋第２病院から松田浩子医師が科長として入職となり常勤５人体制、非常勤2人体制となった。

鹿児島県の呼吸器内科診療の中核病院の一つとして診療を継続していく。

次年度の目標

昨年度と同じくプロとして自覚とサービスを提供し、患者さんや周囲の医療者から選ばれる呼吸器内科を目指す。

＜方策＞

1. 外来では積極的に逆紹介を行い地域にお返しする。
2. 入院日数短縮とパスの推進。外来化学療法の推進。
3. 肺がん予後調査

脳神経内科

部長／吉村道由
科長／甲斐太　医長／武井藍
医師／小田 健太郎、 山下悠亮
非常勤医師／有村由美子、荒田仁、武井藍

2023年度 トピックス

３年在籍した武井藍先生が非常勤（火曜日外来）に変わり、半年復帰していただいた臼元亜可理先生も終了、4月から新たに小田健太郎先生（2回目）、山下悠亮先生を迎えました。

専門外来としてのボツリヌス療法外来に関しては、筋電図ガイド下でのボツリヌス療法も拡充し、他院からの紹介も徐々に見られた。筋電図については、重症筋無力症の診断検査のひとつであるSFEMGの施設申請もでき一連の高点数で行えている。新たに武井先生外来枠で物忘れ外来も新設。頭部MRIやSPECTなどでの精査、入院精査へもつながっている。

2023年度は ２年目研修医としては、佐藤旭将先生、堀江駿先生、高橋亜衣先生、1年目研修医としては、新名識穂先生、日高志恩先生、牧元有希先生、北村朋也先生、園田康貴先生、田坂優也先生、堀内しおり先生の10名が脳神経内科で研修。

【施設認定】
- 日本神経学会教育施設
- 日本臨床神経生理学会教育施設
  脳波分野、筋電図・神経伝導分野
- 一次脳卒中センター

2023年度 診療実績

外来
初診　473人、再診　4,027人
院内コンサルト（入院･外来）579件
TOP3：総合診療科126件、整形外科110件、救急科91件

入院
新規入院　464人（うち 転科入院 55人）
内訳上位　脳血管障害、変性疾患（パーキンソン病関連など）、てんかん

治療実績
tPA 7件（脳外科込み）
血液浄化療法 17件（3人）
IVIg 外来（monthly）2人、入院22人
ボツリヌス療法 42件（19人）

電気生理検査
脳波 329件
神経伝導検査 245件、針筋電図 56件、VEP視覚誘発電位 11件、MEP磁気刺激 1件、Blink 19件、ABR 14件、反復刺激試験 38件、SFEMG 7件
SEP体性感覚誘発電位 4件（脳内）・248件（整外）

総括

小田先生、山下先生の活躍もあり、新規入院患者の獲得は6月以降高水準を維持し、1年を通して、新規入院数、診療単価、外来・入院収益とも増加傾向を認めた。DPC II期内率も改善はあるものの、目標には遠い状況であった。

外来患者数に関しては、初診増加、再診減少がみられた。筋電図外来については、大きな変化はないが、他院整形や院内整形からの検査紹介も増加が見られている。新しい検査SFEMGについては徐々に増加傾向を認める。よりアピールして、新規患者獲得に努めたい。ボツリヌス療法外来については、新規獲得のためには筋電図ガイド下での施行をよりアピールしていきたい。

次年度の目標

- 各学会施設基準の維持
- 前方連携・後方連携の維持
- tPA投与症例の維持、血管内治療への連携
- 平均在院日数の短縮（III期の減少）
- 専門外来の患者増加　特色のアピール
  （ボツリヌス療法、神経疾患・整形外科疾患の電気生理診断（院外）認知症外来、新規患者の獲得）
- 予定入院の増加（検査入院など）
- 血液浄化療法、IVIgなどの増加

外科・消化器外科・乳腺外科

診療部長・外科部長／小倉芳人
科長／林知実（～2024年3月）、医長／濱田由紀（～2024年3月）
医師／宇都宮麻子(2023年4月～9月)、恒吉弥沙(2023年10月～2024年3月)
非常勤医師／野元優貴・林直樹

2023年度トピックス

大学病院ローテーションにより2人の新しいスタッフに来ていただき、大学病院と連携した外科の手術運営を目指した。しかし、以前と比べて外科経験年数が浅くなったため、十分な手術体制を執ることができなかった。また、手術時間も少し長くなり、手術件数をこなすことができなかった。特に緊急手術への対応が難しく、本年度は入院患者数・手術件数のすべてにおいて昨年度より減少した。鏡視下手術に関しては胃･結腸・直腸の悪性腫瘍や胆石胆嚢炎･虫垂炎に関しては9割以上に導入することができた。その一方、ヘルニア手術に関しては前立腺手術既往や超高齢者が多く、結果的には鏡視下による手術件数は減少した。また、本年度は結腸･直腸の悪性腫瘍手術の減少が目立った。近隣の病院の取り組みによる影響と思われるが、今後消化器内科と連携した対策が必要と思われる。学術的には、日本臨床外科学会･日本内視鏡外科学会・日本ヘルニア学会といった全国学会において発表参加を行うことができた。その他に、診療においてはチーム医療による医療安全や医療の質の向上を目指し、毎日の医師カンファレンス・週1回の病棟カンファレンス等を施行しチーム間の情報共有に努めた。

2023年度 診療実績

外来患者数　2,789 人　前年度比　-6.0%
入院患者数　531 人　前年度比　-3.9%
全手術件数　279 例　前年度比 -10.3%
全麻手術件数　235 例　前年度比 -15.5%
（鏡視下手術件数 169 例・前年度比 -24.5%）
（悪性手術件数　59 例・前年度比 -15.7%）
（）内は鏡視下手術件数

胃・十二指腸	12 例	(10 例)
小腸	29 例	(8 例)
結腸・直腸	57 例	(44 例)
虫垂	26 例	(25 例)
肝胆膵脾	44 例	(42 例)
ヘルニア	54 例	(38 例)

局麻手術件数　44 例
化学療法件数　387 件(前年度比 -2.0%)

総括

手術件数・全麻手術件数ともに10%以上の減少となり、悪性腫瘍の手術件数も15%以上の減少となった。中でも結腸・直腸の悪性腫瘍手術は15例以上の減少となった。化学療法に関しては前年度とほぼ同等に行うことができ、今まで同様に副作用対策を含めた安全な化学療法体制が重要と考える。今後に関しては、まずは消化器内科と連携して癌を中心とした悪性疾患の手術を確保し、最終的には定期手術を増やすことを考える。その中で、緊急手術にも対応できるような体制作りをしていくことを目標とする。今後は、コロナ感染症の対策をしつつ、本年度の減少分を少しでも回復させていくことが急務と考える。

次年度の目標

まずは昨年度並みの手術件数にもどすことを第一の目標と考える。具体的な数字としては、全手術件数300例・全麻手術件数270例・鏡視下手術件数220例を目標と掲げる。その中でも結腸・直腸の悪性疾患の手術件数を増やすことを重点課題としたい。悪性疾患の獲得増加には消化器内科との連携や紹介病院との連携が重要と思われる。また、手術に関しては結腸症例を対象としてダビンチ手術の導入を予定しており、症例増加のきっかけとなることを期待している。同時に手術時間の短縮にも努め、働き方改革に沿って時間内に手術が終了できるように努めていく。化学療法に関しては診療報酬の改定に基づきできるだけ外来化学療法で行うことに努めていく。その他に、学術的には今後も学会発表や論文発表を積極的に行っていく。

呼吸器外科

副院長／米田敏
副理事長／今給黎尚幸（報告）
医師／二又卓朗

2023年度 トピックス

- ロボット支援下手術100例達成。術者2名体制。
- 単孔式胸腔鏡下手術の定型化による手術2名体制確立へ。

2022年度 診療実績

外来、入院患者数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
外来	2,100	1,918	1,981	2,223	2,286
入院	415	404	386	384	417

手術件数

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
原発性肺癌	71	78	84	99	109
転移性肺腫瘍	14	10	6	10	8
縦隔腫瘍	15	14	6	8	10
胸膜中皮腫	3	1	1	2	1
胸壁腫瘍	8	6	6	0	2
気胸・血気胸	21	33	40	46	47
膿胸	5	1	4	1	3
良性肺腫瘍	15	13	4	12	13
その他	24	25	41	28	38
Total	177	181	192	206	228

総括

2021年4月より変更した診療体制を変更を加えながら維持している。外来日は水木の午後であったが待ち時間の短縮やPFM導入のため、新患枠などを午前中に追加しスムーズな術前準備ができるように変更した。手術日は月火金が基本とし、手術数の増加に伴い外来日にも臨時や緊急手術を組むことで対応している。

原発性肺がんに関しては109例と念願であった年間100例超えを初めて達成。ダビンチによるロボット支援下手術を2021年6月18日より開始し、2024年6月まで100例に到達した。2024年度はロボット手術術者も二又医師もロボット術者のライセンスを取得し術者2名体制となっている。胸腔鏡手術は多孔式から単孔式VATSへと変遷しており胸腔鏡手術はロボット支援下、胸腔鏡かいずれも基本的には二人での手術が可能となり、手の空いたもう一人は救急外来や他院からの急患紹介にも全例断ることなく対応が可能となり、それが紹介率の増加に寄与しているものと考える。

次年度の目標

学会発表は積極的に行っているが、地元一般向けへの広報が弱い。当院の強みのアピールがまだまだ不足している。今秋より1名の呼吸器外科医師の増加を見込んでおりさらなる症例集積増加を目指していく。

血管外科

科長／平林葉子（報告）
部長（～2024年3月）、顧問（2024年4月～）／牛島孝

2023年度 トピックス

閉塞性動脈硬化症を中心とした動脈疾患、下肢静脈瘤や深部静脈血栓症を中心とした静脈疾患や下肢浮腫の診療を行っています。他院からの紹介症例から院内で発生した急性動脈閉塞や深部静脈血栓症、透析シャントの作成も行っています。また、最近の印象としては紹介の足浮腫の中でも廃用性浮腫が増えた印象があります。手術治療ではないですが、圧迫療法を中心としたセルフケア指導も脈管診療の大切な役割の一つです。2023 年 1 月から鹿児島県内で唯一の日本脈管学会認定研修指定施設となりました。県内の脈管疾患診療をリードしていきたいと考えています。

2023年度 実績・総括

2023年度の手術実績は動脈疾患としては閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療：78例、血栓内膜摘除術：1例、急性動脈閉塞に対する血栓除去術：3例、膝窩動脈外膜嚢腫に対する動脈切除自家静脈置換術：1例でした。静脈疾患としては下肢静脈瘤手術50例（血管内焼灼術：45例、血管内塞栓術：1例、静脈瘤切除術：4例）でした。その他に下大静脈フィルター留置術：3例、下大静脈フィルター除去術：2例、透析シャント造設：2例（自己血管１例、人工血管１例）でした。昨年度から動脈疾患、静脈疾患とも手術症例数は増加しました。

キラメキテラスヘルスケアホスピタルとの連携については透析用長期留置カテーテルの挿入処置依頼や足病変を伴う下肢閉塞性動脈硬化症の治療相談があり適宜往診などで対応を行いました。また、シャント出血の止血困難症例の相談には早急に往診し止血処置を行い、可能な限り病院移動なくスピーディーに対応できたのではないかと考えます。

次年度の目標

- 2025年に鹿児島での弾性ストッキングコンダクター講習会開催を予定（約10年鹿児島での開催がなかった。現在、日程は本部と調整中）。
- 閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療症例数の維持。
- 下肢静脈瘤症手術症例数およびシアノアクリレートを使用した血管内塞栓術症例を増やす（まずは平均1.5～2例/週を目標としたい）。
- フットケア、下肢静脈瘤、浮腫（足のむくみ）などの題目で市民講演会の開催。
- 糖尿病合併症管理料を算定したフットケア診療体制の構築。

整形外科

診療部長／宮口文宏
部長待遇／川畑直也、堀川良治、科長／髙野純
医師／藤田幸太郎、岡村祐太朗（～2023年9月）、北川博之（～2023年9月）、西方一将（～2023年12月）、
月橋一創（～3月）、土屋太志郎（～3月）

2023年度トピックス

整形外科の2023年度の活動状況を報告します。2023年度は救急搬送は通常通りで、どちらかというと変性疾患：脊柱管狭窄症・椎間版ヘルニア・変形性関節症・上肢の神経障害、変形性関節症が増加しました。

脊椎に関しては1、2椎間の狭窄であれば、Navigation systemを用いた内視鏡下前方固定＋後方経皮的固定術という低侵襲な前方後方同時固定術を開始していますが、さらにこれを発展させ、40mmの長さのブーメランケージをLIFのように正中で辺縁に載せる方法を考案しました。

2021年1月にNavigation systemを購入してから、だいぶん被曝を防ぐことが可能となりました。イメージの台数がたりなかったり、故障した場合でもNavigation systemだけで手術可能です。

人工関節に関しては2023年から専門の髙野医師にて週2、3件ペースで手術を施行しています。

変形性股関節症・大腿骨警部内側骨折に対して前方アプローチ、変形性膝関節症に対して左右同時TKAを施行しています。

手の外科に関しては堀川医師が2023年4月から常勤となりました。特に腱縫合・TFCC損傷の関節鏡・靭帯による再建、指再接着・CM関節症らで活躍してもらっています。

外傷に関しては、鹿児島大学病院、昭和大学病院の分け隔てなく、お互い協力し合って救急・手術を乗り越えてきました。特に今年も同様ですが救急に関しては他科の先生方の多大な協力があってこそ乗り越えられました。

2023年度 診療実績

外来患者数： 8,802 人
（初診：1,102 人、再診：7,700 人）
入院患者数： 1,158 人
全手術件数： 1,180 例
脊椎： 351 例
（頚椎:52 例、胸椎:56 例、腰椎:243 例）
人工関節置換術：37 例
（股関節:26 例、膝関節:10 例、指:1 例）
骨折： 548 例
その他： 317 例

総括

2023年4月から関節専門の髙野医師、手の外科専門の堀川医師が常勤となりました。

2024年4月の時点で整形外科医が鹿児島大学・昭和大学合わせて7人いて、そのうち6人が整形外科専門医を取得しており、以前と比較して仕事が大分はけるようになっています。

次年度の目標

働き方改革が始まり、整形外科は時間外勤務時間が多く、勤務時間を常勤時間内にどのように収めるかが今後のポイントです。タスクシフトを応用し、手術時ME活用・外来時のクラークを活用し、いかに仕事の効率をはかるか今後の目標です。整形外科的には手術方法のマニュアル化・手術時間の短縮・手術患者入れ替え時間の短縮・整形外科専用の老年内科追加が目標です。高齢者の骨折の受傷当日・受傷後48時間以内の手術・特定行為看護師の一時的麻酔管理も働き方改革の一部です。さらに仕事の効率を上げることが、入院期間の短縮・患者の合併症予防・看護師のストレス減少（看護師の仕事のタスクシフト）・収益アップにつながります。

形成外科

科長（～2024年3月）、部長（2024年4月～）／外薗寿典
医長／濵田泰志
医師／宮下宝樹（～9月）、比嘉 理圭、竹原唯梨（10月～）

2023年度 トピックス

昭和大学の人事により1人の医員を迎えることができた。

形成外科3年目であるが、各症例に主体的かつ積極的に対応している。レジデントに対しては、専門医の資格を得るに当たって、必要十分な症例を経験させることができていると自負している。本年度も他科との合同手術は多く、特に耳鼻咽喉科との再建手術は鹿児島県でも有数な症例数を認めている状況である。また、当院での遊離皮弁での乳房再建は鹿児島で唯一行っている手術であり、今後も県内に周知していきたい。リンパ浮腫に対する外科的治療法であるリンパ管細静脈吻合術は、月を追うごとに手術が増加しており、当院にてリハビリチームと共に加療することで、他院での長年難渋している症例を改善することができている。長期に入院が必要な褥瘡については、WOCナース、病棟ナースの練度の向上によりDPCⅡ期の範囲内で、退院あるいは転院が可能な症例が増えている。

総括

レジデントの経験年数は少ないが、様々な症例に対して臆することなく誠実に対応してくれた。今後も当院の形成外科にて特徴的な、マイクロを駆使した再建、リンパ浮腫や地域に根ざした病院として必要な褥瘡手術に対して、レジデントの技術向上を含め、積極的に対応していきたい。

次年度の目標

- 鹿児島県での数少ない全身麻酔ができる形成外科がある病院として、地域の要望に応えるべく、難治症例など、特に紹介患者を中心に症例数を増やしていきたい。
- 乳房再建と頭頸部の再建の症例の増加を図っていきたい。
- 重度四肢損傷の機能・整容の改善を量る手術を増やしていきたい。
- 当院の形成外科として求められるのは、形成分野のゼネラリストとしての技量であり、その全ての底上げを図っていきつつ、それぞれの医師の専門分野に対し、より練度が上がるような症例数、環境作りをしていきたい。

2023年度 診療実績

外来患者数　4,433 人
入院患者数　378 人
手術件数　507 件

	入院			外来		計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	89	13	22	1	5	130
先天異常	37		2		3	42
腫瘍	91		20	1	206	318
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	39		9		28	76
難治性潰瘍	78	9	50		2	139
炎症・変性疾患	25	3	10	3	17	58
美容（手術）	1					1
その他	1		12		44	57
Extra レーザー治療					160	160

脳神経外科

部長／宮之原修
科長／松邨宏之

2023年度 トピックス

1　ナビゲーションシステムを導入しての手術
2　脳ドック、スマート脳ドック
3　脳腫瘍に対する最新リニアック機器での放射線治療
4　脳神経内科と合同で脳神経カンファレンス　月1回

総括

- 近隣に救急病院が複数あり、脳神経外科症例の救急搬送は増えていない。
- 救急隊や開業医とのさらなる連携強化・周知活動が必要と思われた。
- 他科依頼の生検術、頭蓋形成術等増えた。
- スマート脳ドックを始めて需要あり。

2023年度 診療実績

入院件数	234
手術件数	60
脳腫瘍	7
血管障害直達術	5
血管内治療	7
外傷	28
水頭症シャント術	10

次年度の目標

- 多職種での病態の理解･情報共有等強化していく。
- 連携病院･救急隊との連携強化を図り、入院件数･手術件数を増やす。
- 脳ドックの広報活動を広げ、当院脳ドックの認知度を高める。
- 放射線治療等でがん拠点病院としての役割に協力する。
- 臨床研修指定病院なので、脳神経外科の魅力を伝える。

産科・婦人科

部長／加藤明彦
医長／中間恵美子、医師／濵島雅代（2023年4月～8月）
顧問（2023年10月～）／寺原賢人
他、鹿児島市立病院・鹿児島大学病院から夜間オンコールの人員派遣あり

2023年度 トピックス

鹿児島市立病院・鹿児島大学病院と連携し、産科・婦人科問わず県内の救急患者を受け入れ診療を行ってきました。また県からの要請を受け、COVID-19陽性妊婦も受け入れ、分娩・産褥期管理を行いました。今年度は大学病院から濵島医師を迎え大学病院との連携が強化された年でした。

2023年度 診療実績

産科外来件数	初　　診	73
	再　　診	914
	計	987
産科入院件数	外来患者	72
	母体搬送	65
	非緊急搬送	14
	計	152
分娩件数	経腟分娩	60
	帝王切開	53
	予定	14
	緊急	39
	計	113

婦人科外来件数	初　　診	278
	再　　診	2,056
	計	2,334
婦人科入院件数	外来患者	214
	救急搬送	21
	計	235
手術件数	開腹手術	40
	腹腔鏡手術	38
	腟式手術	20
	計	98
癌治療	入院化学療法	107
	外来化学療法	40
	計	147

総括

今年度は２名の医師が退職し、大学病院から医師の派遣がありましたが9月で退職された寺原医師に常勤医師として返り咲いていただき診療を行って参りました。

産科は国全体の分娩件数減少の影響を受け、入院・分娩件数とも減少傾向にありますがインスタグラム等広報にも力を入れ、手厚い助産指導をモットーに看護スタッフと協力し運営して参りました。婦人科は大学病院からの医師派遣に伴い癌患者治療の連携が強化され、化学療法患者の紹介が増えたことで例年より入院件数・化学療法とも増加いたしました。

次年度の目標

今後も少子化の加速に伴い分娩件数は減少していく見込みですが、その中でも分娩件数を維持できるよう、スタッフ一同尽力して参ります。

新生児内科

部長／丸山有子
科長／佐藤恭子
医長／久保雄一

2023年度 トピックス

4月1日付けで久保雄一先生が鹿児島市立病院より当院へ異動となり、3名体制となった。

毎日のNICU業務は、常勤医3名とリンデン在宅クリニックの林田良啓医師(～12月)とで担当した。NICU当直は当科常勤医3名と市立病院医師で、GCU当直は当科と小児科と産婦人科の常勤医合計7名で担当した。

新生児フォローアップ外来には、北九州市立総合療育センター西部分所所長の奈須康子先生と島田療育センターはちおうじの井之上寿美先生にそれぞれ月１回来ていただき、主に発達障害児の療育指導を担当していただいた。

2022年にオープンしたこども発達支援センター「まぁる」は、2023年4月より定員を20名へ増員した。

2023年度 診療実績

NICU・GCU入院児数　230人
院内出生：76人 / 新生児搬送：154人
極低出生体重児数：38人
（うち超低出生体重児数：9人）
フォローアップ外来受診者数(※)：
健診数 1,046人、シナジス注射　198人
こどもリハビリテーション室利用者数(※)：1,149人
発達・知能検査実施数：252人
公認心理師による心理面談：
117家族（NICU・GCUにて)、46件（外来にて）
(※延べ人数)

総括

常勤医３名となり、林田良啓先生や井之上先生に日勤帯をお手伝いいただき、更に小児科の島子敦史先生、今給黎亮先生、産婦人科西村美帆子先生、中間恵美子先生にGCU当直をお手伝いいただき、なんとか１年間の業務を全うすることができたが、働き方改革では、宿日直の回数は宿直週１回、日直月１回が限度とされており、宿日直の実態はその基準を大きく上回っているため、未だ改善の余地がある。

従来、県内３か所のNICUは、それぞれの役割を明確に分担して県内の新生児医療を担ってきた。鹿児島市立病院、大学病院との定期的な症例カンファレンスを通して、役割分担の意識は定着している。特に鹿児島市立病院とは、市立病院新生児科の急性期医療を守る目的で、新生児医療の後半部分を担う医療施設として当科が開設された経緯があり、27年間、の実績がある。しかし、2024年に入った頃から鹿児島市立病院の方針転換に影響され、新生児内科からの転院患者が激減している。

次年度の目標

1 常勤医の増員
次年度は引き続き3名で業務を行うが、久保医師は2025年度には退職が決まっているため、新たな医師雇用を計画する必要がある。

2 県内のNICU病床数の再編に関して
コロナ禍で減少した出生数は、回復の兆しは全く見えず、少子化は予想を遥かに上回る速度で周産期医療に影響を与えている。鹿児島市立病院新生児病床数は今後60床で稼働し、さらに最重症に特化したNICUとなる予定とのことである。当科入院児数や重症度への影響は大きく、今後の変化を見定め、的確に対応していく必要がある。

3 県内の産科開業医との連携
開業産科医院には、ちょっと気になる新生児は常に存在する。引き続きNICUへの相談や転院の敷居を低くして紹介しやすくするとともに、転院の提案を患者家族が受け入れやすくするために、一般の人々向けへの新生児内科やNICUの広報にも取り組む。もじょか号で迎えに出向くサービスも検討課題である。

4 臨床研究、看護研究への取り組み
当科は従来、臨床・看護研究の盛んな病棟であったが、しばらく取り組めていなかった。現在、看護研究の計画進行中で次年度には研究会発表できる予定である。また、研究会や学会への出席も促して研究に取り組む姿勢を育てたい。

小児科

部長／島子敦史
科長／柿本令奈、今給黎亮
医師／玉田泉
顧問／堀之内兼一（～2024年3月）

2023年度 トピックス

1　2023年5月から第1土曜に神経サテライト外来（鹿児島大学小児科から）を追加した。大学病院と協力して平日に通院困難な児の受け入れをすることで、こども達に有益ないまきいれ総合病院であることを示せている。

2　小児アレルギーの診療は、食物アレルギー負荷試験の入院が150人を超えたり、遠方・離島からの来院が増えたりで、当科の柱であり、いまきいれ総合病院小児科がアレルギーをかかえる児・家族への受け皿になっている。

次年度の目標

1　第1、3週の土曜の専門外来（内分泌、アレルギー、循環器、神経）をスタッフの負担を軽減しながら適切に継続運営し、こども達にも貢献する。

2　食物経口負荷試験や食物依存性運動誘発アナフィラキシーの診断のための運動負荷試験など、日帰りまたは1泊2日での検査入院の安定的実施。

2023年度 診療実績

DPC 疾患名	平均在院日数	
	当科	全国
ウイルス性肺炎	4.8	5.56
急性気管支炎	5.9	5.89
食物アレルギー	1.2	2.15
川崎病(2歳以上)	8.0	9.7

泌尿器科

部長／立和田得志
科長／水間浩平　医長／上野貴大
医師／森威慈（～2024年3月）
非常勤医師／西山賢龍

2023年度 トピックス

筋層非浸潤性膀胱癌に対する経尿道的手術（TURBT）を行う際、光線力学補助診断（PDD）下に施行可能となり、今後再発率の低下につながると期待される。

総括

外来は延患者数、紹介初診患者数、診療単価、収益ともに前年度と比較し微増。入院は新入院患者数、収益は微増していたが、手術件数、診療単価はわずかに減少していた。

症例増加が望まれるロボット手術は99件/年（前年度104件/年）。新たなロボット導入施設、導入予定施設があり、症例維持が課題である。

化学療法については、尿路上皮癌、腎細胞癌の術後補助療法の適応追加に伴い、免疫チェックポイント阻害薬の導入件数が増加した。

2023年度 診療実績

ロボット支援手術：

ロボット支援前立腺全摘術	70 件
ロボット支援腎部分切除術	19 件
ロボット支援膀胱全摘＋回腸導管造設術	5 件
ロボット支援膀胱全摘＋尿管皮膚瘻造設術	3 件
ロボット支援腎盂形成術	1 件
ロボット支援副腎摘出術	1 件

腹腔鏡下手術：

腹腔鏡下膀胱全摘＋回腸導管造設術	3 件
腹腔鏡下膀胱全摘＋尿管皮膚瘻造設術	2 件
腹腔鏡下腎摘除術	16 件
腹腔鏡下腎尿管全摘術	21 件
腹腔鏡下副腎摘出術	5 件
腹腔鏡下仙骨膣固定術	6 件

経尿道的手術：

経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）	116 件
経尿道的前立腺核出術’（TUEB）	37 件
経尿道的尿管結石除去術（TUL）	21 件
経尿道的膀胱結石砕石術（TUVL）	4 件

化学療法：

外来　253 件
入院　172 件　　合計　519 件

次年度の目標

- 救急疾患の積極的受け入れ
- ロボット手術の症例確保
- 泌尿器科関連病院との連携強化
- 多職種カンファレンス、勉強会の充実

頭頸部・耳鼻咽喉科

部長／積山幸祐
顧問／花牟禮豊
科長／永田圭、医師／永田圭、下薗知己
非常勤医師／昇卓夫、福田勝則、今村洋子、鎌田知子

2023年度 トピックス

福田勝則医師が常勤から非常勤勤務となり、久留米の聖マリア病院から永田圭先生を、峠早紀子医師に代わり2023年4月に下薗知己医師を鹿児島大学から迎え入れた。2023年度は常勤医4名（花牟禮、積山、永田、下薗）と非常勤医4名（昇、福田、今村、鎌田〈補聴器外来担当〉）で耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療を行った。

2023年度は、前年度に比し鼻科と咽頭・扁桃疾患の術数が増加した。また、2020年に保険収載された経外耳道的内視鏡下鼓室形成術の施設基準を2022年7月1日に取得し、2023年度は内視鏡下経外耳道的鼓室形成術数が増加した。2021年に着手した内視鏡下甲状腺手術は、良性腫瘍は2022年5月1日に、悪性腫瘍に対しては2023年5月1日に施設基準を取得した。鹿児島県耳鼻咽喉科施設では唯一の内視鏡下甲状腺手術の認定施設であるため、今後も積極的に行いたい。

総括

頭頸部・耳鼻咽喉科で診療する領域は、平衡障害、聴覚障害、外耳・中耳疾患、顔面神経障害などの耳科領域、鼻副鼻腔の炎症や腫瘍、アレルギー、顔面外傷などを担う鼻科領域、舌・口腔・咽頭疾患や睡眠時無呼吸を扱う咽頭領域、音声や嚥下に関係する喉頭領域、そして頸部の良性・悪性腫瘍、甲状腺腫瘍や唾液腺腫瘍を扱う頭頸部腫瘍領域など多岐に富んでいる。当科はそのほぼすべてをカバーできている。

年間の外来患者数は前年度の4,048名から4,683人へ、初診患者数は767から851人へ、紹介件数は689件から821件へ増加した。入院患者数533人から528人と著変なかった。次年度は定期手術数を増やし入院患者数増加につなげたい。

手術は、顕微鏡や内視鏡などを用いた機能保存や機能再建手術が多く、生活のQOL向上に直結している。施設基準を取得した内視鏡下甲状腺手術、経外耳道的内視鏡下鼓室形成術など低侵襲で、他施設で実施不可能な手術を今後も積極的に行っていきたい。大学と協力し専攻医や学生の教育にも力を入れたい。

2023年度 診療実績

手術症件数：888件（側）
（耳：95、鼻：472、口腔：14、咽頭・扁桃：175、喉頭・気管：47、唾液腺：28、甲状腺・副甲状腺：23、食道：2、顔面骨・顎関節：3、顔面１、リンパ節7、その他の頸部：12、再建（形成外科）：2、頭蓋・脳：1、その他：8）

外来患者数：4,683人
初診患者数：851人
入院患者数：528人
紹介件数　：821件

次年度の目標

- 鹿児島大学や鹿児島県耳鼻咽喉科医会会員との良好な関係の維持・拡大
- 前年度以上の紹介患者の獲得、定期手術数の増加
- 院内他科との密な連携
- 安全で適切な医療の提供

皮膚科

医長／有村亜希子（～2024年3月）
非常勤医師／瀬戸山充（～2024年3月）

2023年度 トピックス

皮膚科で入院対応が可能な施設は数が少なく、開業医院からの入院や大学病院からの転院受け入れを行った。

当科は常勤医師1名、非常勤医師1名（毎週火曜日）で対応していたが外来、入院、さらには他科入院中の皮膚科診療について積極的に行った。

また、化学療法などによる皮膚障害について院内外の他科からの紹介も積極的に受け入れた。

総括

外来患者数、入院患者数、紹介患者数はいずれも大きく増加した。背景には移転後に近隣医療機関にも当院に皮膚科があることが周知されたことが考えられる。逆紹介も行いつつ、開業医・近隣医療機関と連携をとり新規の紹介患者も受け入れた。

入院延患者数はほぼ横ばい、他科入院中の当科紹介患者は大きく増加した。特に当院では呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、消化器外科など化学療法を行う科が多く、化学療法に伴う皮膚障害の診察をする機会が多い。

2023年度も院内外の他科からの化学療法による皮膚障害の紹介が多かった。

2023年度 診療実績

	2023 年	2022 年	前年比
外来延患者 初診	538	508	(30)
外来延患者 再診	3, 230	2, 881	(349)
入院延患者	71	70	(1)
他科入院中	455	390	(165)
紹介患者	238	195	(35)

次年度の目標

当科は今年度から常勤医師が変更となるが診療内容に大きな変化はない。形成外科があることから外科的処置は基本的には施行していないが、今まで同様、陰圧閉鎖療法を用いた下腿潰瘍の治療などを引き続き積極的に行っていく。

化学療法による皮膚障害については今まで同様に治療だけでなく予防の段階から介入できるようにする。また糖尿病患者の皮膚障害についても診察するなど他科との連携を継続していく。

初期臨床研修医に関しても積極的に受け入れ、指導する。

麻酔科

部長／下野裕生
顧問／山下順正（報告）
科長／西村絵実、今給黎南香、肥後友紀
医長（2024年4月～）／千堂良造（歯科医師）、医師／上川路智美（～2024年3月）

2023年度 トピックス

1年間の総手術数は3,529件、麻酔科管理症例数は2,913件、全身麻酔症例数は2,837件であった。いずれも昨年と比べて微増の伸びにとどまった。

週平均55例の麻酔科管理症例数である。この症例を麻酔科常勤医6人と緩和ケア内科2人、救急科2人および鹿児島大学からの応援医師と研修医で担当した。

マンパワー不足には苦慮したが、特定看護師の協力もあり、一年間何とか乗り切れたというところである。

総括

新病院での手術室稼働も3年目となった。

麻酔科管理症例数は増加しているとはいえ、目標の3,000例には今年も届かなかった。

しかしながらこの一年大きな事故もなく乗り切れたのは、手術室運営に関わる全員のお蔭だと思っている。そして、2022年の11月から導入となった特定看護師も手術室で存在感を増しており、当院手術室では順調にタスクシフトが進んでいることを示している。

常勤のメンバーは、昨年に続いて、山下、西村、今給黎（南香）、肥後、上川路、千堂の6人で4月スタートしたが、2024年度1月からは下野先生が新部長として赴任し、上川路先生は3月までで転勤となった。

麻酔科も新体制で進むことになり、今後、当院の麻酔科に求められる役割を果たしていければと願っている。

そのためには安全かつ快適な麻酔を追求し、なおかつ緊急手術を断らないという覚悟が必要であると思われる。

2023年度 診療実績

年度	2021年	2022年	2023年
麻酔科管理症例数	2,788	2,887	2,913
年度別全身麻酔症例数	2,591	2,719	2,837

次年度の目標

- 麻酔科オンコール体制の充実
- 麻酔科外来の導入
- 症例検討会の実施

放射線診断科

部長／鉾立博文
医師／大瀬新、増田敬子
非常勤医師／大久保幸一、神﨑史子、山岸良司

2023年度 トピックス

常勤医師は部長：鉾立博文、医師：大瀬新・増田敬子の布陣で昨年同様診断専門医は鉾立一人で同規模の総合病院としては人員構成的に厳しい状況のままであった。非常勤医師として当院顧問の大久保幸一先生、大学医局から神﨑史子先生、山岸良司先生にご協力いただきました。各先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

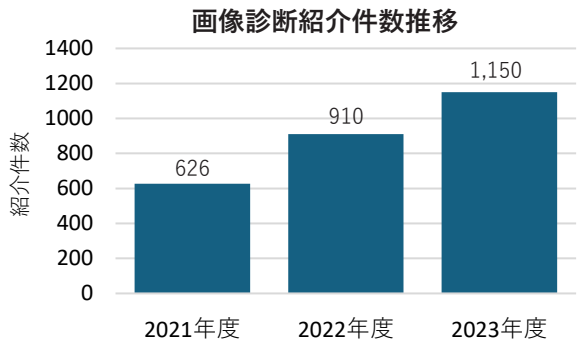
本年度も常勤医減のままであったが、救急患者に対する緊急CTなどの読影も夜間休日オンコール対応を維持している。平日の検診業務においては関係各科と協力のもと、肺癌低線量CTや乳癌のマンモグラフィー検診のダブルチェック読影を行っているが、土曜日が完全休診となった撮影機器の有効利用及び収益増を目指してCT/MRI検診を導入した。IVRは従来の原発性肝癌に対する肝動脈（化学）塞栓療法TA(C)Eや膀胱癌などへの動注化学療法、CT/USガイド生検・ドレナージなどに加え、血管外科と協力して閉塞性動脈硬化症・形成外科と協力して血管奇形の血管内治療など待機的症例を中心に施行している。

総括

検査件数は、クラウド型検査予約システム：TONARI（PSP株式会社）の導入が軌道に乗り、今年度もCT/MRIは増加傾向であった。特にCTはルーチンスライス厚を5mmから3mmに変更し画像解析ソフトのバージョンアップもあり、１検査あたりの画像枚数が飛躍的に増加しているなか、現状の常勤医数では十分な読影時間の確保が困難である。核医学検査は再び減少傾向で、がん拠点病院でありながら、がん診療の主力検査であるPET導入の見送りもあり、件数のV字回復は無理であろう。対案として周知されたPET-like imageと称される全身MRI（拡散強調像：DWIBS）も浸透し、件数増加が著しかった（2021年度：82件→2022年度：123件→2023年度：199件）。また、近隣の開業医や大学病院からの画像検査紹介数が新病院移転時から順調に増加傾向で遂に1,000件/年を突破した（グラフ参照：626件→910件→1,150件）。IVRに関しては待機症例が徐々に増加傾向だが、緊急症例についてはマンパワー不足と、機器の老朽化および詳細な画像解析に必須のIVR-CT未設置のため、主に大学や市立病院への搬送で対応している。

2023年度 診療実績

2023年度実績		（2022年度 ← 2021年度）
CT	：18,508件	（16,503件 ← 16,735件）
MRI	： 6,053件	（ 5,556件 ← 5,429件）
核医学	： 224件	（ 248件 ← 231件）
IVR	： 122件	（ 114件 ← 109件）



次年度の目標

クラウド型画像検査予約システムの導入が軌道に乗って画像検査紹介数が著増しているが、まだ開拓の余地がある近隣の開業医への訪問も再開していきたい。次年度も放射線診断専門医は減員のままで若手派遣医師も減員の予定で、読影オンコールや緊急IVR対応などが非常に厳しい状況が続くが、大学からの非常勤医師派遣を増員予定である。常勤医不足のなかオンコール割り当て増加や休日読影業務が不可避となり、働き方改革に逆行するが地道に業務遂行していく所存である。当院初期臨床研修医がフルマッチするようになり、放射線科ローテート希望者も多く引き続き関係各科との協力体制を強化しながら画像診断・IVRの魅力を発信していきたい。

放射線治療科

部長／中禮久彦
非常勤医／長野大悟、原澤朋宏

2023年度 トピックス

病院移転から既に3年半が経過いたしました。その期間で世界的コロナ禍の影響は当科においても例外ではなく、放射線治療患者複数名の罹患に加え当科一部スタッフの断続的感染に伴う病欠での人手不足で他スタッフの著明な業務負担増大がありました。

幸いコロナ禍が漸く収束しつつあった晩秋に嬉しいことに当治療室技師1名が医学物理士認定を獲得しました。今後当院がより水準の高い高精度放射線治療を継続するに当たって大いに人的推進力となることと期待しています。

2023年度 診療実績

主な原発巣別 リニアック照射新患数（全：225人）内訳

呼吸器（肺･気管･縦隔）	86人（内 肺 85人）
泌尿器（腎･尿路･前立腺）	28人（内 前立腺：15人）
消化管（食道･胃･腸）	26人（内 食道：10人）
肝胆膵	22人
頭頚部（咽喉頭・口腔）	19人
造血リンパ系	13人
良性（ケロイド）	17人

主な転移 リニアック照射新患及び再患数 内訳

骨	49件
脳	25件

定位集光照射新患数 内訳

脳　　：13人
体幹部：54人（内　肺：30人　その他：24 人）

○当科紹介入院 照射患者数　年間 全19人

総括

日常診療において特殊診療科である放射線科をがん患者が直接受診することは稀で、放射線治療患者数および内容は横断的および集学的治療にご理解のある内科系および外科系先生方から放射線科へのご紹介をいただくことで成立しております。日頃より当科へのご紹介にご尽力をいただいております先生方にはこの場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

令和5年度からVMAT(Volumetric Modulated Arc Therapy；容積変調回転照射）を応用した放射線治療を本格的に開始しており、より有害反応の小さい高精度照射施行が可能となりました。以前より照射期間中の患者愁訴が確実に減少しております。

VMAT適用に伴う業務量増大及び慢性的な当科人員確保困難のために、今年度から当科での入院管理が困難となりました。しかし当院緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科および総合診療科の先生方から該当臓器患者の照射期間中入院及び全身管理のご快諾をいただきましたことを有難く感じている今日この頃です。さらに嬉ばしいことに大学医局から若手放射線治療医による照射計画作成支援の半日訪室が毎週末土曜日に始まっています。

次年度の目標

引き続き上記地域がん診療連携拠点病院許認可継続のために毎年年間200名以上を年内早期時点で達成できればと考えます。

また学会認定施設として継続更新されるべく日常診療に加えて放射線技師と共に学会発表にも勤しみたいと存じます。

今後は医学物理士および若手非常勤治療医の支援を有効に生かしVMAT等の高精度照射の水準をさらに高める方向で取り組んでまいります。

外来および入院いずれにおいてもまた進行期や終末期に留まらず、院内外の関連診療科との協力体制を一層構築していく所存でおります。

緩和ケア内科

部長／大瀬克広（身体症状担当）
部長／小玉哲史（精神症状担当）
医師／原口哲子（身体症状担当）

2023年度 トピックス

【身体症状担当：大瀬克広】

緩和ケア内科精神担当の高橋勘司先生が2023年3月に退職されたことに伴い、4月から小玉哲史先生が精神担当として着任された。先生はすでに当院の緩和ケア内科の精神担当として長年勤務された実績があり、緩和ケア内科だけではなく院内緩和ケアチームや他科のスタッフにとっても精神科領域の患者や不眠・せん妄などの症状を有する患者へ速やかに対応できる体制が再構築されたことは大変心強いことである。

また、地域がん診療連携拠点病院の指定要件で定められた臨床倫理的・社会的な問題を扱う院内多職種カンファレンスをがん化学療法委員会の中で実施するため、緩和ケア内科・緩和ケアチームのメンバーも参加することとなった。

【精神症状担当：小玉哲史】

令和5年4月から常勤医師として当院に勤務し、緩和ケア内科の精神症状担当医師としての活動に加えて、入院患者の精神症状に対する診療（精神科リエゾン）を行った。

2023年度 診療実績

緩和ケアチーム依頼件数

	がん	がん以外	小計
入院	415	15	430
外来	49	4	53
合計	464	19	483

紹介元	院内	院外	小計
入院	420	10	430
外来	51	2	53
合計	471	12	483

介入時期

	1:診断から初期治療前	2:がん治療中	3:積極的がん治療終了後	合計
入院	33	308	74	415
外来	3	24	22	49

依頼内容（重複あり）がんのみ

	がん(入院)	がん(外来)
1）がん疼痛	175	26
2）疼痛以外の身体症状	96	15
3）精神症状	148	6
4）家族ケア	6	1
5）倫理的問題	0	0
6）地域連携・退院支援	47	16
7）その他	0	0
合計	570	60

【精神科リエゾン診療】

精神科リエゾンのコンサルトは113件で、紹介元の診療科は救急医療科が最多で28件であり自殺企図者がその多くを占めた。診断・症状としてはせん妄のコンサルトが最も多かった。また、精神疾患診療体制加算2については40人の診察を行った。

総括

【身体症状担当：大瀬克広】

急性期病院における緩和ケア内科の役割は、がん患者だけではなく心不全や痛みを有する患者の緩和ケアなどに広がる一方で、今後の高齢化社会の中で患者のよりよい意思決定支援のためのアドバンス・ケア・プランニングの院内外での啓発活動や実施、さらには学校現場における医療従事者としてのがん教育への関わりなど広がりを見せている。その一方で、少しでも病院経営に寄与するような患者数の増加にも今後取り組んでいきたい。

【精神症状担当：小玉哲史】

リエゾンの症例数は令和3年度の133件に比べると減少しているが、診療体制加算については微増の結果となった。せん妄のコンサルトが依然として多く、令和3年度に整備したせん妄対策マニュアルが院内で十分に活かされていない可能性がある。

次年度の目標

【身体症状担当：大瀬克広】

1 放射線科と連携を図り、全身管理を必要としたり疼痛コントロールが必要な放射線照射対象患者の入院受け入れを積極的に進めていく。

2 緩和ケアチーム依頼件数の増加。520件。

3 地域におけるACPに関する啓発活動の推進。また鹿児島県教育委員会の依頼に応じて義務教育・高校教育における「がん教育」へ関与し、地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす。

【精神症状担当：小玉哲史】

精神科リエゾンの件数自体は病院の増収に直結しないため、精神疾患診療体制加算の件数維持に注力する。加算のみでなく医療安全の観点からもせん妄対策の普及に努める。

病理診断科・病理課

部長／白濱浩
非常勤医／田代幸恵、東美智代、北薗育美、野口紘嗣、谷本昭英、瀬戸山充
検査技師／肥後真、森永尚子、有村郷司、瀬川千春、谷口千奈
免疫染色／西村ゆかり(クラーク兼務)

2023年度 トピックス

令和4年度診療報酬改定で報告書管理加算（退院時1回7点）が追加されました。安心・安全で質の高い医療の提供を推進する観点から、画像診断報告書や病理診断報告書の確認漏れや患者の診断または治療開始の遅延を防止することを目的としています。早期取得を目指し、準備を進めています。現在、病理が行っている取り組みは、1）報告書公開2週間後の既読・未読確認、2）未読の場合は警告文を該当医師へ提出、3）公開4ヵ月後に病理報告を患者へ説明しているかどうか、また治療や次のステップに進んでいるかどうかの確認を行っています。1）と2）は病理システムで自動化することにより業務の簡素化・効率化に努めました。

病理報告書が適切に患者へ伝わり、診断・治療を開始されることが重要と考え、医療安全管理課等他職種と協力して今後も報告書管理に力を注ぎたいと考えています。

総括

病理診断科・病理課の本年の目標は『ヒヤリ・ハットを積極的に記録し、2ヵ月に1回勉強会を行い、マニュアルの更新、業務の改善に繋げる』でした。

ヒヤリ・ハットの件数は昨年よりも減少し、また、病理内でフィードバックを行いスタッフ間で情報共有や対策を検討し、業務改善に努めました。また、検体の提出等医療安全管理課と協力して対応することができました。

ただ、2ヵ月に1回の勉強会は定期的にすることができず、年に3回(8月、10月、12月)行っています。

また、昨年に引き続き病理検査の収益はあがりました。これは、遺伝子検査の増加が要因の一つで、大部分の遺伝子検査が外注となりますが、依頼から報告まで全て病理部門で管理しており医師業務の軽減に寄与しています。

2023年度 診療実績

組織診断	3,145	
術中迅速組織診断	152	
細胞診	2,475	
術中迅速細胞診断	68	
免疫染色（院内）	440	
遺伝子等特殊検査	302	（院内実施：0）
病理解剖	2	
CPC	1	
院外組織診断受託	107	
院外免疫染色受託	2,168	
院外遺伝子検査受託	0	

次年度の目標

病理の3つのスローガンです。

1 Redesign（再設計）“ベテラン職員退職後の業務計画の再設計”
2 Reduction(削減)“専門性の高い外注検査（遺伝子検査）に全員が対応し、業務の効率化を図る”
3 Reskilling（学び直し）“スタッフの知識向上のために勉強会を毎月行う”

病理はスタッフ数が少数のため、スタッフ間のコミュニケーションや情報共有を強化し、効率の良い業務が遂行できるよう努めたいと思います。

	陰性	擬陽性			陽性					材料不適	合計	組織との対比
内　膜	76	2			0					0	105	6
膣頚部	NILM 586	ASC-US 14	ASC-H 6	LSIL 27	HSIL 0	AGC 3	SCC 3	Adeno 0	Other 2	2	647	67
呼吸器	236	18			163					25	442	299
消化器	54	15			26					0	95	45
尿	803	73			56					0	932	139
乳　腺	2	0			1					3	6	2
甲状腺	19	4			0					21	44	8
体腔液	268	19			41					0	328	197
リンパ節	21	1			12					1	35	24
その他	73	3			8					9	93	20
合　計	1,552	135			309					59	2,055	740

	生検		内視鏡切除など		切除		
	全件	悪性	全件	悪性	全件	悪性	合計
心・血管	0	0	0	0	6	1	6
血液・骨髄・脾	51	30	0	0	0	0	51
リンパ節	65	44	0	0	171	45	236
鼻・副鼻・咽喉頭	64	20	0	0	214	5	278
肺	129	68	0	0	156	103	285
胸膜・縦隔・腹膜	12	9	0	0	37	7	49
口腔・唾液腺	34	6	0	0	70	13	104
食道	56	16	16	15	0	0	72
胃・十二指腸	231	33	30	24	9	7	270
小腸	16	0	0	0	22	1	38
大腸・肛門	248	58	555	45	85	36	888
肝・胆・膵	51	28	0	112	48	1	99
腎・尿路・男性器	117	82	167	0	323	157	607
女性器	60	5	5	0	167	13	232
乳線	9	8	0	0	7	6	16
内分泌	0	0	0	0	31	7	31
中枢末梢神経	3	1	0	0	6	3	9
耳・眼	3	0	0	0	16	0	19
皮膚	178	14	0	0	391	24	569
骨・関節	9	5	0	0	24	2	33
軟部	14	9	0	0	72	8	86
その他	49	34	0	0	72	1	121
合計	1,399	470	773	196	1,927	440	4,099

歯科・歯科口腔外科

医長（～2024年3月）、部長（2024年4月～）／古賀喬充
歯科医師／杉原考輝、千堂良造、藤井隆太
非常勤歯科医師／吉田雅司

2023年度 トピックス

2023年度は口腔外科疾患と周術期口腔機能管理を中心に初診患者数3,621人、再診患者数5,217人、入院患者数268人の診療を行った。

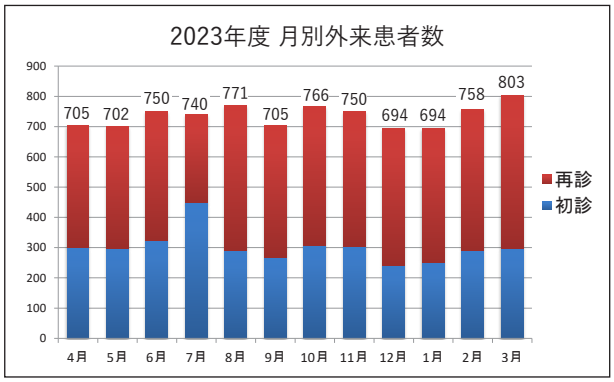
顎変形症治療では３Ｄシミュレーションシステムの導入により詳細な手術計画が可能となり、年間手術症例数は過去最多となった。また、全国的な傾向と一致し骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の患者数が増加しており、手術件数はこれまでで最多となった。本疾患では医科歯科連携や病診連携が重要であり、広報活動を通じて連携の推進を図った。周術期口腔機能管理では、看護師や言語聴覚士との連携を深め口腔ケアの質の向上に努めた。

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラム協力型（Ⅱ）臨床研修施設として、週5日間（月～金曜まで）、計9名の歯科医師臨床研修医を受け入れた。

入院患者数（転科含む）268 人

病名	症例数
歯（Per, Perico, 埋伏歯など）	116
顎変形症	107
炎症（膿瘍，蜂窩織炎，顎骨炎など）	15
良性腫瘍および腫瘍類似疾患	14
嚢胞性疾患	4
外傷（骨折，歯の外傷など）	8
悪性腫瘍	1
顎関節疾患	0
唾液腺疾患	0
その他	3
総計	268

2023年度 診療実績



総括

歯科医師が1名減員となったが、昨年度以上の診療実績を維持できており、外来患者数、入院患者数ともに増加していた。顎変形症治療患者数は今年度も増加し、鹿児島県内では随一の手術件数を実施した。顎変形症センターの活動で、いまきいれ総合病院歯科口腔外科＝顎変形症治療の認知度が向上したことが一因と考えられた。

次年度の目標

- 病診連携の充実
- 関連施設での回復期口腔機能管理の推進
- 周術期の口腔関連インシデント･アクシデント０
- 働き方改革の推進

いまきいれ総合病院 Ⅱ−4

部門報告

診療支援部
- 薬剤課
- 中央臨床検査課
- 臨床工学課
- 中央放射線課
- リハビリテーション課
- 栄養管理課
- 診療補助課

看護部

事務部

患者支援部

医療安全管理部
- 医療安全管理課
- 褥瘡管理課
- 感染管理課

薬剤課

課長／髙橋真理

2023年度トピックス

5月に稼働した新PFMにおいて手術・検査前休薬指示書の運用を開始し入院前外来の薬剤師面談で患者さんのお薬確認、休薬指示の確認・説明等を行うようになった。昨年度より薬剤師が減っており、薬剤管理指導業務を大幅に縮小することになった。

薬剤助手との業務分担を進めるために薬剤助手を増員していただき、持参薬鑑別報告書作成時の最初の入力（土日を除く）、がん化学療法では薬剤師の処方・検査等確認後の抗がん剤取り揃えも薬剤助手の業務とした。

病棟薬剤業務実施時間を把握しやすくするために、2月より業務分担を見直した。ほぼ専任としていた薬剤管理指導業務担当を置くことをやめて、6～ 9階各フロアの担当者が処方監査、がん化学療法の処方・検査等確認を行いながら、一部の患者について薬剤管理指導も行うこととした。

総括

2023年度は4月に新入職員2名、2月に中途入職者1名を迎え、年度末の薬剤師数は22名となった。薬剤師が4人以上減り、薬剤管理指導患者数は昨年度の半数以下となったが、上記に記した新たな業務分担においても薬剤管理指導件数が大きく減少することはなかった。現在の業務分担や病棟薬剤業務の内容を更に検討し、病棟薬剤業務実施加算算定にむけて皆で取り組んでいきたい。

【病院指定】
日本病院薬剤師会
がん薬物療法認定薬剤師研修事業の研修施設
　認定期間：2017年4月1日～2022年3月31日
　　2022年4月1日～2027年3月31日
日本臨床腫瘍薬学会　がん診療病院連携研修施設
　認定期間：2021年3月1日～2026年2月28日

2023年度実績

患者数 ～入退院･薬剤管理指導･化学療法～	2022年度 月平均	2023年度 月平均	対前 年比
入院患者数	678	755	1.11
退院患者数	676	757	1.12
薬剤師数	25.3	21.08	0.83
薬剤管理指導 患者数	290.5	132	0.45
薬剤管理指導料 計（円）	1,433,838	645,554	0.45
入院前薬剤師面談件数	-----	126	-----
持参薬 鑑別報告書件数	392	433	1.10
外来化学療法患者数	153	146	0.95
入院化学療法患者数	160	187	1.17
化学療法　計（円）	1,660,121	1,670,475	1.00

次年度の目標

- 薬剤助手との業務分担や効率化を進め、病棟薬剤業務実施加算算定開始の目途を立てる。
- 手術前休薬の再開確認を行える体制を整える。
- 病棟業務として、定期処方の入力確認と必要時代行入力を行う。
- 部門のレベル向上～日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師は4年目以上での取得を目指す。

中央臨床検査課

技師長／今堀貴之

2023年度トピックス

- 新入職員
  4月　中途採用技師１名が入職
  6月　中途採用技師１名が入職
- 資格取得者
  永岡伸代技師：超音波検査士（消化器領域）
- 機器、試薬購入および更新・変更
  9月　卵巣癌マーカー TFPI2(組織因子経路インヒビター2)測定開始
  5月　生理検査室に救急カート導入
  5月　新鮮凍結血漿用保冷庫更新
  ・超低温フリーザー MDF-DU300H PHC株式会社
  10月スパイロメーター増設
  ・SP-370COPD肺Perプラス フクダ電子株式会社
  12月尿中レジオネラ検査キット変更
  ・リボテストレジオネラ 極東製薬工業株式会社
  レジオネラ・ニューモフィラ血清型1～15すべて検出可能
- 外部精度管理
  外部精度管理調査（日本臨床衛生検査技師会・日本医師会・鹿児島県医師会、その他メーカー主催）に参加し良好な成績を収めている。
- 研修会参加（Webにて参加）

主　催	参加人数
日本臨床衛生検査技師会	2名
鹿児島県臨床検査技師会	16名
日本超音波医学会	2名
日本臨床神経生理学会	1名
日本臨床微生物学会	1名
日本輸血細胞治療学会	2名
鹿児島県医師会	2名
その他（研修会、セミナーなど）	7名

2023年度 実績

採血患者数	18,549人	前年比111%
生化学的検査	575,970件	110%
免疫血清学検査	84,830件	111%
輸血関連検査	20,679件	109%
血液学的検査	601,032件	110%
微生物学的検査	34,276件	127%
生理学的検査	33,680件	114%

総括

公益財団法人 日本医療機能評価機構認定取得において、輸血・血液製剤管理、生理検査含む中央臨床検査課が関連する部門にてA評価をいただき認定取得に貢献した。

検査技師スタッフについては、各スタッフの有給休暇取得や時間外勤務の差を少なくすることを目指した。中途採用者2名が即戦力として活躍していただき、有給休暇は各スタッフ目標とする日数を取得することができた。時間外勤務については同一部署では昨年と比較しスタッフ間差が少なくなったが、担当部署による差は解消できなかった。2024年度の課題である。

一部検査機器および検査システムの老朽化が進んでいる。2024年度の更新に向け病院事務局、検査機器メーカーとの話し合いを行い、2024年5月のスタートに向け取り組んでいる。

次年度の目標

□Redesign（再設計）
- ルーチン業務の仕分け
- 生理検査の予約枠見直し

□Reduction（削減）
- 検査機器更新によるコスト削減
- 採血管の管理体制見直し

□Reskilling（学び直し）
- 検体検査担当技師が生理検査を学びなおす
- 新人教育プログラムを見直す

臨床工学課

技師長／平田朋彦

2023年度 トピックス

当院の臨床工学技士（以下、CE）業務は1999年6月に第1種高気圧酸素治療（以下、HBO）装置が導入されたことにより開始され、2005年に3名のCEでHBO、血液浄化、人工呼吸器他各種医療機器を管理する部門として臨床工学部を立ちあげ、その後、手術室業務、気管支・消化器内視鏡補助業務など業務拡大を続けてきた。2023年度は新入職員3名を含めたCE 17名、技能員2名の19名体制で宿日直体制として24時間365日、医療機器管理および臨床サービスを提供している。手術室での業務の拡大（整形ナビゲーション、ダヴィンチ管理など）に対し、CEの増員を行い業務への拡充を進めている。輸液ポンプ、シリンジポンプの一斉更新や新たな酸素ボンベの導入を行い、医療安全の確保、スタッフ教育、スタッフ満足度の向上を意識した取り組みを実施している。

2023年度 実績

HBO

年度	2020年	2021年	2022年	2023年
件数	2,383	1,979	2,071	2,180

当院の高気圧酸素治療（HBO）はセクリスト社3300HJの2台で実施している。治療件数は、これまでピーク時には3,000件を超えるほどであったが、DPCに伴い減少し2017年には2,000件までに減少、2018年度の診療報酬改定（非救急適応200点→3,000点）により増加傾向にあったが2021年からはコロナ禍により減少がみられた。当院でのHBO依頼診療科は整形外科65%、耳鼻科16%となっている。看護業務軽減策に対しては、患者搬送についてCEも協力し対応をしている。

血液浄化

	2020年	2021年	2022年	2023年
HD	270	494	626	610
CHDF	87	111	91	103
免疫吸着 血漿交換	43	21	34	17

2022年度HD件数が増加したのは新型コロナ関連で転院先の受入れ体制が整わずに入院期間が伸びたため回数の増加に繋がった。2023年度については610件と前年とほぼ変わらない件数の対応を行った。

手術室

	スコピスト	MEP/SEP	整形ナビ	ダビンチ	耳鼻ナビ
2021年	21	351	190	97	96
2022年	34	323	217	123	104
2023年	43	310	209	124	97

手術室専任技士を2名増員し6名体制とし、術前の麻酔器の点検やA-LINE準備をはじめ整形外科モニタリング、ナビゲーション、ロボット手術の対応、外科におけるスコピスト業務、その他手術室内の医療機器点検業務など業務量の増大に対応した。次年度で、厚生労働大臣指定の研修（告示研修）を全スタッフが修了する見込みとなっており、積極的に静脈路の確保、スコピスト業務に関わっていきたいと考えている。

次年度の目標

- 使用頻度の高い医療機器について、定期的な学習会を開催する。
- 内視鏡センターへの臨床工学技士の増員を行う（タスクシフト/シェアへの取り組み）。
- 手術室の医療機器管理を臨床工学技士主導で行う。
- 特定臨床工学技士認定士の育成、専門性の高い臨床工学技士を育成していく。

中央放射線課

技師長／田川伸夫

2023年度トピックス

1 ボランティア活動

- 2023年5月7日　つながる想いinかごしま（丸尾）
- 2023年10月2日　鹿児島市役所ピンクリボン設置セレモニー　（丸尾）
- 2023年10月14日　ピンクリボンカップ乳がん検診啓発　（丸尾）
- 2023年10月24日　KYTレディースチャリティーゴルフ2023　乳がん啓発　（丸尾）

2 災害救助訓練等

- 2024年1月28日（日）～2月2日（金）
  能登半島沖地震DMAT　　参加（濱田）
- 2024年2月10日（土）
  鹿児島県原子力防災訓練 放射能測定（サーベイ）業務　（松下、浮田、林）
- 2024年3月4日（月）～6日（水）
  日本DMAT隊員養成研修　参加（濱田）

3 臨床実習の受け入れ

- 2023年6月5日（月）～ 7月28日（金）
  鹿児島医療技術専門学校4年生　2名
- 2023年9月4日（月）～ 9月29日（金）
  鹿児島医療技術専門学校4年生　2名
- 2023年10月2日（月）～10月27日（金）
  鹿児島医療技術専門学校3年生　2名

2023年度 実績

放射線課検査数（人）

	年間	1ヶ月平均	1日平均
一般撮影	40,051	3,338	110.0
CT	18,508	1,542	50.7
MRI	6,053	504	16.6
透視	2,129	177	5.8
RI	224	19	0.6
DSA	240	20	0.7
放射線治療	211		

※1日平均は土日祝日を含む

（放射線課職員）

診療放射線技師23名、医療クラーク2名、画像予約センター1名、アシスタント1名

（業務拡大の告示研修）

厚生労働省告知第273号研修　20名受講
技師による造影剤注入のための血管確保の追加研修を院内で行いタスクシェア・シフトに貢献したい。

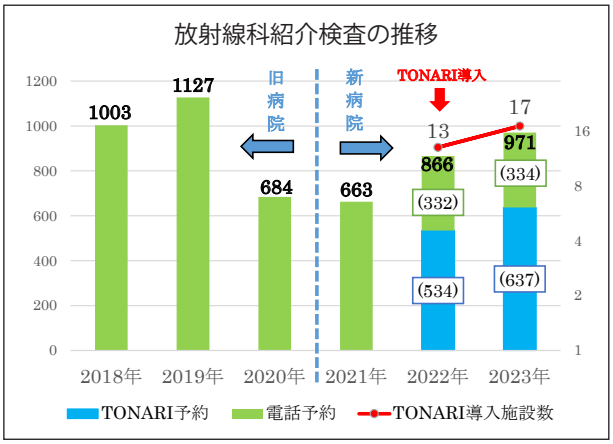
（認定資格の取得）

2023年度に新たに取得した資格認定

- 医学物理士　1名
- 画像等手術支援認定診療放射線技師　1名

総括

1 他施設からの放射線科検査依頼件数の推移



24時間オンライン予約システムTONARIを2023年度で17施設の病院に導入していただき、紹介件数の増加に貢献しています。今後も導入の勧誘に努め、地域施設との連携を強化したい。

2 スマート脳ドック（MRI）を2023年4月より実施しており、2024年3月までの1年間に54件の検査を行った。

次年度の目標

1 TONARIシステムのさらなる普及
地域の施設との円滑な検査が構築できるようクラウド型予約システムの普及に努める。

2 タスクシフト・タスクシェアの推進

3 検診・ドックの推進や提案
現在行っているスマート脳ドック（MRI）や2024年度から行う予定のスマート脳ドック＋胸部CTドックの普及、その他の新たな検診・ドックの提案を行う。

リハビリテーション課

療法士長／兒島邦幸

2023年度 トピックス

□貢献・向上

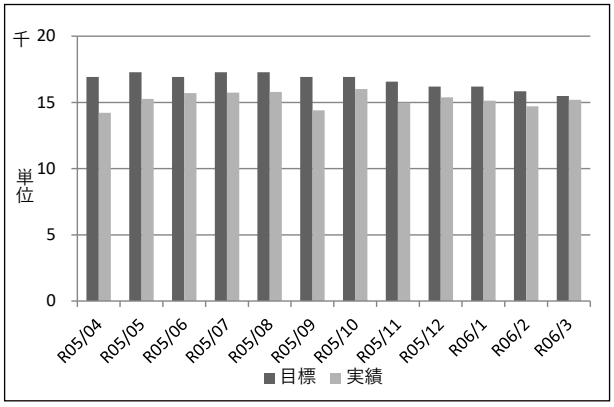
- いまきいれDMATチーム：理学療法士による鹿児島県ローカルDMAT研修修了
- RRSWG：理学療法士が活動参加
- 摂食嚥下ﾁｰﾑWG：摂食機能療法算定に必要な嚥下評価テンプレートを作成
- 転倒転落WG活動：院内発表会にて「当院における転倒・転落の現状」を報告

□協力

- 看護補助者研修：搬送(8/1、8/15)
- 看護補助者研修：食介(9/19、9/22)
- 患者教育ビデオ「尿漏れ体操」作成
- 広報誌うららか　リハビリ特集記事(年4回)

2023年度 実績

(生産性) 療法士：平均46.3人/月
目標：年間199,800単位（360単位/人/月）
結果：年間182,502単位（達成率91.3%）



各指標	実績	前年比
脳血管リハ	53,603単位	92.1%
運動器リハ	43,047単位	91.8%
呼吸器リハ	29,942 単位	128.7%
廃用リハ	30,767単位	129.6%
心リハ	534単位	56.6%
がんリハ	24,611単位	101.0%

総括

□病院機能評価受審(6月)

専門家からの多くの貴重なアドバイスを通して、リハビリテーション計画書や記録の個別化の重要性を深く理解しました。今後、デジタル技術を活用した効率化と個別化のバランスを保つために適切なアプローチが必要なことを実感しました。

□多職種連携の推進

急性期リハビリテーションの目的は、患者が可能な限り早期に機能回復を図り、生活に復帰できるよう支援することです。

急性期病院におけるリハビリテーションは、多職種連携が進んでいますが、質の高いリハビリテーションを提供するためには、教育、チームアプローチ、評価の強化が不可欠です。リハビリ専門職としての役割を再確認し、多職種との連携を深めることで、患者にとって最適なリハビリテーションを実現できると考えます。

次年度の目標

(財務の視点)

- 360単位/療法士１人/1月

(顧客の視点)

- 休日リハ提供量：平日の8割以上
- 退院時にADLが低下する患者：3%未満

(業務プロセスの視点)

- 原則48時間以内にADL評価
- リハビリ実施計画書をリハビリ開始後7日以内に作成

(学習・成長の視点)

- 次世代を担うリーダーの育成
- 理学作業言語の枠を越えたマルチスキルな人材の育成

栄養管理課

課長／上平田美樹

2023年度トピックスと実績

【2023年度目標】

1）栄養管理および給食管理に関わるスタッフ教育の推進と充実
2）入退院支援活動と周術期栄養管理の充実
3）認定資格者の推進
4）人材確保と継続性

【スタッフ構成】

管理栄養士　10名
（NST専任1名、NICU・発達支援センター兼務2名含む）
栄養士　　5名
調理師　　12名
調理補助　　10名（発達支援センター兼務1名）
洗浄委託　　16名　　合計53名

【課内業務】

1. PFMと病棟活動における管理栄養士の業務拡大（医師、看護師業務のタスクシフト）
2. 病院機能評価受審に対する取組み
3. 栄養指導関連および周術期への対応強化とスタッフ教育と資格取得者の推進
4. 発達支援センターおよび院内調理業務スタッフの確保、NICUでの調乳業務（タスクシフトへの取組み

【統計】

（表1）食数年間合計表

一　般　食	479,398食（前年比1.85倍）
特　別　食	211,947食（前年比2.06倍）
経 管 栄 養	13,371食（前年比0.85倍）

（表2）栄養指導・NST件数集計表

項目	年間実施件数
入院食事指導	3,533件（内非算定492）
外来食事指導	2,713件（内非算定0）
集団食事指導	34件（内非算定0）
外来化学療法	111件（内非算定0件）
外来通信指導	1件
情報提供加算	116件（0.85倍）
個別栄養管理	105件
周術期栄養	2,562件（前年比4.25倍）
NST算定	カンファレンス数140件

（表3）資格等の取得状況

資格	人数
病態栄養専門管理栄養士	5
日本糖尿病療養指導士	2
栄養治療専門療法士 （周術期・救急集中治療専門療法士）	1
栄養ｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ(NST) 専門療法士	3
がん認定管理栄養士	2
NSTコーディネーター	2
日本褥瘡学会認定師	1
臨床栄養師	1
食物アレルギー分野栄養士	1
新調理システム管理者	1
病院調理師	2

【病院認定】

日本臨床栄養代謝学会　NST稼働認定施設認定更新

【実習生受け入れ】給食臨床医栄養学実習

・今村ライセンスアカデミー　栄養士科　1名
・鹿児島県立短期大学　生活科学科　2名
・職場体験実習（就労支援センター）　1名

次年度の目標

1. 労働環境改善・診療報酬改定に基づく取組みの確認と対応
2. 給食管理の業務洗い出し（人員確保困難→工程削減）、栄養管理の効率化
3. 高度医療や衛生に関する対応知識の向上と教育の充実、高齢者・摂食嚥下患者支援
4. 患者満足度の向上（給食サービス満足度向上、栄養指導対応の充実）

診療補助課

課長補佐／桑波田かおり

2023年度 トピックス

新卒採用：2名
中途採用：2名
退職者：7名（新卒者0名、中途採用者7名）

2023年度 実績

【研修参加実績】
・熊本地方会（Web）
・コンサルティング研修会
・全国医師事務作業補助者研修会総会
・Web講演『医師の働き方改革』
・肝炎医療コーディネーター研修
・「第3回Lung Immunotherapu Online Seminar」参加
・「患者のQOLを考える会～診療科の垣根を越えて～」参加
・北海道地方会（Web参加）
・NPO法人日本メディカルセクレタリー

	診断書	カルテ	処置	投薬	検査/注射	病名	合計
小児科	77	778	158	77	333	4	1,427
整形外科	1,387	3,816	4,200	634	8,736	114	18,887
産科		48	597	18	807	0	1,470
形成外科	386	1,701	2,458	135	2,033	119	6,832
脳神経外科	241	214	141	161	227	1	985
婦人科	277	961	680	122	2,273	302	4,615
頭頸部･耳鼻咽喉科	339	4,439	3,740	3,740	11,050	1,169	24,477
放射線科	38	200	218	207	1,293	0	1,956
泌尿器科	458	4,899	3,213	452	17,131	655	26,808
皮膚科	74	866	228	1,740	304	73	3,285
救急科	274	15	9	3	48	0	349
総合診療科	91	111	38	10	48	5	303
脳神経内科	108	2,870	731	381	609	10	4,709
循環器内科	74	1,679	318	3,918	2,473	86	8,548
呼吸器内科	422	3,129	2,638	779	2,639	9	9,616
消化器内科	466	2,113	2,128	1,032	6,970	285	12,994
糖尿病内科	107	3,110	2,238	275	6,048	3	11,781
血液内科	65	1,024	693	95	444	5	2,326
新生児内科	4	1,074	130	339	2,595	106	4,248
外科	323	3,920	1,312	126	5,354	44	11,079
呼吸器外科	277	1,857	1,471	88	2,277	9	5,979
血管外科	50	970	798	121	1,305	5	3,249
歯科口腔外科	100	310	2	0	1,278	15	1,705
合計	5,638	40,104	28,139	14,453	76,275	3,019	167,628

総括

2008年度の診療報酬改訂により医師事務作業補助体制加算が創設され当院導入は2015年12月。9年目を迎えます。病院移転に伴いクラークの業務内容も徐々に充実してきました。医師の補助業務においては貢献できているのではないかと思います。一方で医師の働き方改革、新PFM運用の開始に伴いクラークの業務負担が増えたのも事実です。そのため離職率も上昇傾向となり医師へもご負担をおかけしている状況です。新卒の採用は2021年度より継続できており、新卒離職者も現時点で0人となっております。今後も学校への働きかけを充実させていきたいと思います。新卒採用開始時より教育体制を整えるため試行錯誤してきました。まだまだ課題は多いですが、離職者が出ないような教育システムを構築していきます。患者満足度の高い外来診療が行えるよう、質の高い診療補助業務を行えるようスタッフ一丸となり取り組んで行く所存です。

最後に大変な状況下でも協力し合い困難を乗り越えてきたクラーク全員に本当に感謝です。

次年度の目標

・ローテーション制に向けた業務分担の再設計
・業務効率化、協力体制を構築し時間外業務の削減
・業務の質向上のためベテランクラークの業務拡大

看護部

部長／近藤ひとみ

2023年度トピックス

4月 ：認定看護師・院外特定行為研修受講者への支援・細則作成
：学生実習マニュアル導入
：評価表の手引き導入
：死亡退院の流れ・フロー作成
：看護補助者に関するマニュアル作成
：看護補助者への業務指示手順書導入
：麻薬確認シート作成
：CV挿入時のタイムアウト・テンプレート作成
5月 ：コロナ感染症2類から5類へ変更
6月 ：特定認定看護師会規程作成
：病院機能評価受審
7月 ：持続血糖測定器加算算定申請
：全体朝礼再開
12月：管理当直マニュアル作成
2月 ：看護補助者処遇改善手当て（6000円）
：師長8名定期異動
：特定行為研修受講するまでのフロー作成
3月 ：2023年度　特定行為研修修了生2名
：師長対象部署異動に関する調査

2023年度 実績

1. 看護関連指標
   1）看護職員入職：69名（新卒：34名含む）
   2）看護職員退職：81名（退職率：22.8%）
   新卒退職率：11.8%・既卒者退職率：43.2%
   3）平均年齢：35.0歳
   4）在籍年数：8.8年
   5）産休／育児休暇取得者：17名/15名
   6）育児時短勤務制度利用者：21名
   7）年休取得率：47.2%
   8）超過勤務時間：約9時間／月（1人あたり）
2. 資格取得・研修終了者（2024.3.31現在）
   1）認定看護師：12名/10分野
   2）特定行為研修修了生：3名+新規4名＝7名
   3）学会認定（現在数）
   ①鹿児島県看護協会員：381名（2年目以上）
   ②鹿児島県看護連盟会員：43名（主任以上）
   ③アドバンス助産師：2名
   ④消化器内視鏡技師：5名
   ⑤滅菌技士：1種1名、2種4名
   ⑥介護福祉士：2名
   4）講習会・研修修了者
   ①認定看護管理者教育課程
   ・ファーストレベル修了者：40名
   ・セカンドレベル修了者：5名
   ②認定看護師：10分野12名
   ③看護部キャリア開発ラダー
   レベルⅠ：89名　　レベルⅢ：183名
   レベルⅡ：160名　　レベルⅣ：41名
   ④看護単位別学習回数：244回（3253名参加）

総括

2023年度の看護部目標に対し、「人材育成」「職員の能力向上」「タスクシフト/シェア」「入退院調整」「クリニカルパスの活用」「感染対策の継続」「安全な看護の提供」「職員満足度の向上」「患者満足度の向上」「収益増」「職場環境作り」と戦略目標を掲げて取り組んだ結果、総合評価はC：60～69%の達成率であった。

次年度の目標

チーム医療とは、「医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の専門性を前提に目的と情報を共有し、業務分担しつつも互いに連携、補完し合い患者の状況に的確に対応した医療を提供する」とされており、中には看護師でなくてもよい業務をいまだに担い、本来の看護ケアが行き届いていない現状がある。人口減少社会に伴い医療従事者数も減少し、慢性的な看護師不足や看護補助者不足の中、目標達成のために今ある資源（ヒト、モノ、カネ、時間、情報）を活用し、どうしたらやれるかを看護部だけでなく病院全体で考え対処する必要性を感じる。

【2024年度　看護部目標】
1. 働きやすい職場環境を整備する
2. 専門性を高め、自律できる人財を育成する
3. 看護の立場で病院の経営に参画する

事務部

事務長／御供田貴之
医事課 課長／小湊麻美　診療情報管理課 課長／畑中幸子　人事総務経理課 課長／日髙章洋

2023年度 トピックス

・病院機能評価一般病院2（3rdG Ver3.0）
6月に受審し11月10日付けで日本医療機能評価機構認定病院に認定された。
当院では初めての機能評価受審ということもあり事務部門においても業務の可視化・効率化を含めた取組を行った。今後も医療の質改善と効果的なサービスの改善に努めていきたい。

・能登半島地震DMAT派遣
2024年1月1日に石川県能登地方で発生した地震にDMATを派遣（1月28日～ 2月2日）し、事務部門からは業務調整員1名が被災地での災害支援活動を行った。

2023年度 総括

❒医事課
1）診療報酬の知識向上、新規加算取得
2）副傷病付与率UP
2）DPC係数UPに向けた提案
＜総括＞
1）新規加算届出を9件行った。
2）副傷病付与は191件で対前年比26件増であった。
3）救急医療管理加算の積極的な算定により前年比1.3倍の算定件数増となった。

❒診療情報管理課
1）正確なDPC請求実施のためのチェック強化
2）DPC係数向上に向けて医師への情報発信・意識づけ
3）診療録監査による診療の質の評価および改善
＜総括＞
1）DPC請求介入による効果：複雑性係数0.00824、カバー率係数0.00557→3,400万円増収
DPCコード変更に伴うICDコード変更：
195件（伴わないコード変更：100件）
副傷病付与：56件、
その他分岐変更（重症度等）：2件
2）副傷病漏れ症例の傾向について分析を実施し、医師へのメール送信および院内掲示を実施
3）2カ月に1回多職種にて診療録監査を実施。医師個別にフィードバックを実施し院内掲示
改善点：前年度比較　平均点2.1点アップ（50点満点）、入院時記録における記載漏れ項目の減少、カンファレンス記録の記載増加、インフォームドコンセント記録の増加

❒人事総務経理課
1）機能評価受審に向けて（マニュアル等の作成、文書管理）
2）有効的な補助金活用
3）新規導入（WEB給与、企業型DC）
4）働き方改革の推進
＜総括＞
1）課内対応は問題なく終了。評価もよい結果に繋がった。
2）課内で申請を行った補助金は確保できた。
3）今年度導入完了。業務軽減、職員の福利厚生に寄与できた。
4）今後も継続課題。

次年度の目標

❒医事課
・ 増収に向けた提案と実行
・ 新規加算算定の取得
・ 専門的な知識を身につけ、キャリアアップを図る

❒診療情報管理課
・ 紙の削減（診療録監査紙50%削減、医師向けマニュアル紙の廃止、がん登録用紙廃止）
・ DPCデータ提出前エラーデータ30%減少

❒人事総務経理課
・ 経費削減に向けた提案と実行
・ 資格取得し、キャリアアップを図る

患者支援部

部門長／今給黎尚幸　副部門長／原口一博（報告）
病床管理課 課長／上野京
患者サポートセンター 課長／早﨑玲子

2023年度 トピックス

2023年度は入退院センターの開設･新入退院支援システムの開始･病院機能評価受審がありました。

2023年5月より、入退院支援センター開所。

新システムへの移行の 2023年5月に合わせて、病院に隣接している南国殖産テナントビルへの移設も、同時進行ですすめられました。

病院機能評価受審に関しては、規定・マニュアルの見直し･再整備を行うことができ、書面/訪問の際にも評価していただきました。

また､医療法人 玉昌会と合同で開催しました『キラメキテラス 連携の会』も大きな取り組みとなりました。

総括

新しいシステムの導入にともない、業務場所が2カ所に別れることになり、情報共有や指示系統の再構築が必要となりました（スタッフのコミュニケーション不足につながり、次年度に向け大きな課題となりました）。

全般的には、加算（入退院支援加算・入院時支援加算など）の増加もあり、評価できる年度となりました。

しかし、加算の増加にともない、退院支援スタッフ（社会福祉士）への負担が過多となってしまいました（他の医療機関と比較しても、人員が半分のため）。社会福祉士の獲得が大きな問題となりました。

2023年度 実績

平均在院日数	11.7日
紹介率	69.8%
逆紹介率	84.3%
退院支援加算1	4,475件
退院支援加算3	210件
入院時支援加算	1,017件
がん相談	462 件
セカンドオピニオン	3 件
ハローワーク就労支援	1 件
ほっとサロン今給黎	94 人
肺がんサロン（5月～）	43 人

予約入院の入院前面談（NS） → 100%
入退院支援加算 目標値　350件 → 400件/達成

ACPの導入・研修会の開催 → 済

次年度の目標

病床管理課 と 患者支援センターの業務を統合し、2024年4月より『入退院支援センター』として稼働開始。

【病床管理に関して】
病床管理を『コマンドセンター(2024年7月～)』へ
円滑な移行作業を行う

【入退院支援】
入院前面談（看護師）の充実
予約入院 看護師面談 → 100%
加算取得

入退院支援加算	400件/月
入院時支援加算	100件/月
総合機能評価加算	200件/月

【緩和ケア・がん相談】
がん相談件数の向上・周知度向上

【前方連携・外来予約】
登録医の増加
外来予約システム（音声案内など）の導入

医療安全管理課

医療安全管理部副部長／課長／千田清美

2023年度トピックス

６月：病院機能評価受審

2023年度 実績

1　安全管理報告書の集計、分析、対策立案の支援
2　医療安全推進部門カンファレンスの運営
3　医療安全対策委員会活動および運営支援
4　医療安全推進月間活動の推進
5　医療事故調査委員会の運営支援、医療事故発生時マニュアルの改訂
6　医療安全研修会の実施：２回/年
7　医療安全地域連携加算に係る相互評価の実施
8　患者相談対応、医療メディエーター介入
9　転倒・転落防止WG活動
10 鹿児島地区医療安全ネットワーク会議への参加

■安全管理報告書の年度別推移（６月再集計分）

年度別報告	2021 年	2022 年	2023 年
報告件数（件）	1,233	1,329	1,532
レベル０～１	588	726	930
レベル２～3a	613	570	566
レベル 3b 以上	32	33	28
薬剤	263	292	311
輸血	4	3	7
治療・処置	80	84	84
医療機器等	78	82	133
ドレーン・チューブ	189	167	182
検査	73	83	131
療養上の世話	437	461	539
その他、個人情報	109	157	145
転倒･転落発生件数	238	236	263
転倒･転落発生率（平均）	2.20	2.35	2.25
転倒･転落損傷発生率（平均）	0.13	0.18	0.06

■医療安全対策地域連携加算に係る相互評価
・1回目　2023/10/1 ～ 10/16　動画視聴
「情報セキュリティ研修」（15分）
確認テストとセキュリティ対策にかかる意識調査の実施（所要時間30分）
・2回目　2024/3/1 ～ 3/31　動画講義
「摂食嚥下ケアのための基礎と実際」
（20分）確認テストと意識調査の実施
（所要時間25分）
開催期間中は、各部署の受講割合を抽出し、リマインドメール配信により未受講者への受講促進を実施。

2024年	受講対象者	受講者数	未受講者	受講率
１回目	957名	948名	9名	99%
２回目	932名	930名	2名	100%

■医療安全対策地域連携加算に係る相互評価
(1) 加算１施設：今村総合病院様
2023年12月５日および12月19日に相互チェック、ラウンドを実施し評価報告書および改善報告書を提出。
(2) 加算２施設：キラメキテラスヘルスケアホスピタル様
2024年３月12日、事前の書類確認と施設訪問によるラウンドを実施し評価結果を提出。

総括

2023年度は電子レポートシステム機能を見直し、レベル0-1の報告は簡易入力機能に改訂した。2023年度の報告件数は前年度より203件と増加を認め、病床数の約4.4倍（前年度約3.8倍）の報告数となった。院内の転倒・転落報告件数は263件と増加しているが、3b以上の傷害の発生は6件（前年度8件）と減少を認めた。また、院内発表会において主任が医療対話推進者の役割について情報を発信し、重症患者対応メディエーターの支援的介入も展開した。なお、医療安全管理課および感染管理課の専属事務担当者も配置されたことで、各担当者の事務作業の負担軽減を図ることができた。

次年度の目標

1　医療法および入院基本料にかかる組織活動の維持と向上。
2　再発および類似事例を重点課題とした業務改善活動。
3　入院料通則の改訂事項への参画。
4　報告書管理体制加算にかかるチーム活動の推進。
5　現場医療安全管理者の育成と活動支援。
6　医療安全に資する各種マニュアルの整備。

褥瘡管理課

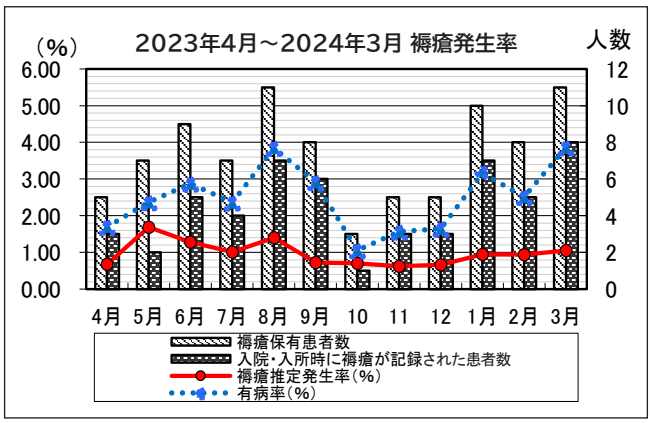
褥瘡管理課顧問／皮膚・排泄ケア特定認定看護師／下前百合香

2023年度 トピックス

- 7月～看護師1名(創傷関連特定行為研修受講者)が配属され、看護師3名、事務1名体制となる。
- 褥瘡対策マニュアルの修正、スキン-テアマニュアルの追加・修正
- 褥瘡回診(毎木)に、10月～(第2・4週目)キラメキテラスヘルスケアホスピタル褥瘡チーム参加再開。
- 医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)予防対策製品、クッションドレッシング(ココロール)を導入。
- ビジダーム(ハイドロコロイド材)を未滅菌製品(ハイコロール)へ変更し費用削減を図る。

2023年度 実績

- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定:1651件、褥瘡予防ラウンド総数:1890件
- 褥瘡回診(毎木):52回/年、延べ人数521人/年
- 褥瘡対策研修
  ①新人・中途採用者対象研修(褥瘡対策の基本):78名
  ②全職員対象研修(MDRPU対策)動画聴講:855名(89.6%)
- 褥瘡・創傷経過サマリー作成:18件
- NPWT介入件数:66件
- 看護師特定行為件数:デブリードメント(9件:34回)、NPWT(6件:8回)
- ストーマサイトマーキング件数(確認を含む):60件
- ストーマ外来件数:59件



総括

- 褥瘡推定発生率・有病率の推移

	当院	全国平均
褥瘡推定発生率	0.98%	1.15%
褥瘡有病率	2.49%	2.37%
自重関連褥瘡推定発生率	0.89%	0.90%
医療関連圧迫創発生率	0.10%	0.34%

褥瘡対策は入院患者数の55.2%が必要であり、そのうち整形外科患者が19.1%、泌尿器科が11.1%を占めていた。

褥瘡発生患者は整形外科患者が27.6%、形成外科15.7%、救急科12.6%で、高齢者・高リスク患者へ発生であり、踵部が最も多く、尾骨部・仙骨部とヘッドアップ時の体位調整や背抜きが不十分で体位のずれによる発生や観察不足で発見が遅れたケースであった。また、自宅で倒れている状態を発見され救急搬送ケースで、多発褥瘡形成しDUやDTIと深い褥瘡を有する患者も多かった。治癒までに時間を要すため転院時には褥瘡経過サマリーを作成し情報提供・継続ケアを依頼した。

褥瘡(自重褥瘡、医療機器関連圧迫創)の推定発生・有病率はグラフを参照。

次年度の目標

1 褥瘡推定発生率を平均0.9%以下にし、1.0%以下を維持する。

2 患者状態に合わせた予防ケアが提供できるよう、各部署でOJT教育の実施や他部門と連携を図り褥瘡予防に取り組み発生件数を100件以下にする。

3 体圧分散寝具(ポジショニングクッション)の充足を図る。

感染管理課

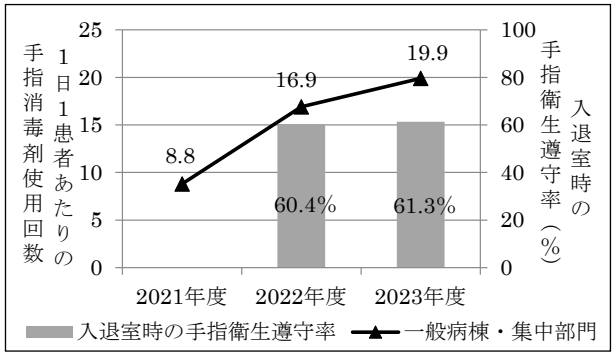
感染管理課課長／感染管理専従看護師／立和名聖子

2023年度 トピックス

1. 新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の感染症法変更に伴う院内感染対策の継続と緩和
2. サーベイランスの実践と評価
   ①手指衛生サーベイランス
   ②耐性菌サーベイランス
   ③血液培養サーベイランス
   ④手術部位感染サーベイランス
   ⑤医療器具関連感染サーベイランス
   ⑥公的サーベイランス（JANIS、J-SIPHE）
3. 地域医療機関連携
4. 院内感染研修会･抗菌薬適正使用支援研修会の実施
5. 院内感染防止対策委員会・感染対策チーム活動
6. 感染の専門的な知識･技術を備えた人材育成
   7月より看護師1名増員
7. アフターコロナとレジリエンス院内発表会
   「コロナで大改革!! 手指衛生のビフォー・アフター」

2023年度 実績

1. COVID-19の院内感染対策
   COVID-19患者数233名うち救急搬送および救急外来からの入院が約75%を占める。面会制限が一部緩和されたが面会が要因となる感染発生はなかった。
2. サーベイランスの実践
(ここでは手指衛生サーベイランスの結果を報告する)
目標：1日1患者あたりの手指消毒剤使用回数16回



3. 地域医療機関連携
(1) 感染対策向上加算地域連携相互評価
鹿児島医療センター・種子島医療センターと連携
相互に直接赴き感染対策を評価し改善に取り組む。

(2) 感染対策向上加算連携医療機関
八反丸リハビリテーション病院・上町いまきいれ病院・かわもと記念クリニックと連携
① 地域連携合同カンファレンス：4回実施
（市保健所・市医師会参加）
② 新興感染症を想定した訓練：医療機関ごとに1回
③ 感染対策評価ラウンド：5回実施、報告書作成

4. 院内感染研修会･抗菌薬適正使用支援研修会の実施

		受講率
第1回	知って得する感染対策 個人防護具 抗菌薬の適正使用とは	99%
第2回	COVID-19とインフルエンザについて 内服抗菌薬投与の当院の変化	99%

5. ICT ／ AST活動

ICT活動	ICTラウンド実施回数	改善シート発行数	
	48回	80シート	
AST活動	抗菌薬投与患者等監査件数	介入件数	採択率
	815件	64件	94%

総括

7月より看護師1名が増員されたことで感染管理課による院内ラウンドを毎日実施し、平時の感染対策の強化を図った。現場を知り、現場の困りごとに耳を傾け、専門的知見で問題提示を行った。この数年、COVID-19対策を最優先し余力のない状態であったが、今年度はより広い視野で「現場とともに考える」ことができたと感じている。地域医療機関連携では、新興感染症を想定した訓練や感染ラウンドを各医療機関の資源や環境に合わせて個別対応したことで実践可能なものになったと考える。今後は、コロナ禍で学んだ感染対策が衰退することのないように継続的な支援を行う。

次年度の目標

- 職員が院内感染対策の基本を理解し実践できるよう支援
- サーベイランスの継続による感染発生の早期察知と介入
- 連携医療機関や高齢者施設の感染対策の推進

上町いまきいれ病院

Ⅲ－1

病院概要

公益社団法人昭和会 KANMACHI IMAKIIRE HOSPITAL
上町いまきいれ病院

基本方針

1. 患者さんと協同し、安全な医療の提供を目指し、全職員一致協力して努力します。
2. 地域の医療・介護・福祉機関と協同し地域医療に貢献します。
3. 常に向上心を持って、自己研鑽に励みます。
4. 人間性と技能を備えた人材育成に努めます。

運営方針

1. 患者さんを中心にチーム医療を展開して質の高い医療を実践する。
2. 家庭復帰や社会復帰に向けた支援、居住環境や生活環境を調整し、安心して生活できるように支援する。
3. 地域連携を推進し、急性期病院や介護・福祉施設、かかりつけ医から信頼をされるように努める。
4. 患者さん一人ひとりを大切にし、心を込めて『あなたらしく生きるを支える』に適したリハビリテーション医療を目指す。
   専門職として知識、技能向上のために研鑽をかさねる。

上町いまきいれ病院 病院概要

（令和6年3月現在）

名　称	公益社団法人昭和会 上町いまきいれ病院 Kanmachi Imakiire Hospital
開設者	代表理事 今給黎 和幸（いまきいれ かずゆき）
管理者	院長　　丸山 芳一　（まるやま　よしかず）
所在地	〒892-0854　鹿児島市長田町5番24号（かごしましながたちょう）
代表電話	099-222-1800
代表FAX	099-226-3366
URL	https://kanmachi.imakiire.jp/
病院開設日	2021年（令和3年）1月1日
病床数	100床 回復期 54床・地域包括ケア46床（眼科10床）
規　模	地上4階 地下2階　塔屋1階 敷地面積2,472.41㎡、建築面積1,389.29㎡
標榜科 （6診療科）	内科、脳神経内科、糖尿病内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科
職員数	182名
有資格者	

	常勤	非常勤
医師	9名	1名
薬剤師	1名	1名
診療放射線技師	1名	1名
臨床検査技士	2名	
理学療法士	17名	
作業療法士	11名	
言語聴覚士	5名	
管理栄養士	3名	
視能訓練士	4名	
社会福祉士	2名	
看護師	60名	
保健師	2名	
准看護師	2名	

施設概要

（令和6年3月現在）

4F	会議室
3F	地域包括ケア病棟 46床（眼科病棟含む） リハビリテーション室、デイルーム
2F	回復期リハビリテーション病棟 54床 リハビリテーション室、デイルーム
1F	総合受付　外来（内科、脳神経内科、整形外科、糖尿病内科）　総合処置室 救急室　地域医療支援センター　CT室　レントゲン室　骨密度検査室
地下1階	手術室　外来（眼科）　検査室　心電図室　リハビリテーション室 言語聴覚療法室　検眼室　眼底カメラ室

施設基準届出一覧

○指定医療機関等
保険医療機関
国民健康保険医療取扱機関
労災保険指定病院
生活保護法指定病院
介護保険法「居宅介護支援事業」指定病院
生活保護法「居宅介護支援事業所」指定病院
障碍者自立支援法「更生医療」指定病院（免疫に関する医療）
障害者自立支援法「精神通院医療」指定病院（神経内科に関する医療）
難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第１項に規定に関する指定医療機関
指定小児慢性特定疾患医療機関
鹿児島県エイズ治療協力病院
原子爆弾被爆者医療法一般疾病医療取扱病院
先天性血液凝固因子障害者等治療研究事業に係る医療指定病院
救急告示病院
法第38条第2項の協定　第2種協定指定医療機関

○学会等認定施設一覧
日本眼科学会専門医研修施設

○基本診療料の施設基準等
初診料（注16）に規定する医療DX推進体制整備加算
感染対策向上加算3
データ提出加算2、4　ロ（医療法上の許可病床数が200床未満）
入退院支援加算 1（一般病棟等）
回復期リハビリテーション病棟入院料2
地域包括ケア病棟入院料 1
医療DX推進体制整備加算

○特掲診療料の施設基準等
別添1の「第14の2」の1の(3)に規定する在宅療養支援病院
在宅時医学総合管理料
神経学的検査
CT撮影
脳血管リハビリテーション料(I)
運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)
緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
酸素の購入価格
外来・在宅ベースアップ評価料(I)
入院ベースアップ評価料47

医療設備概要

【放射線部門】
一般撮影装置
一般ポータル X 線装置 IMC-125
CT 装置
骨密度測定装置
受付･画像処理装置

【その他医療機器】
眼底カメラ検査装置
眼球運動検査装置
無反射視力検査
超音波検査装置
肺機能検査装置
心電計
多項目自動血球装置
生化学自動分析装置

上町いまきいれ病院

Ⅲ−2

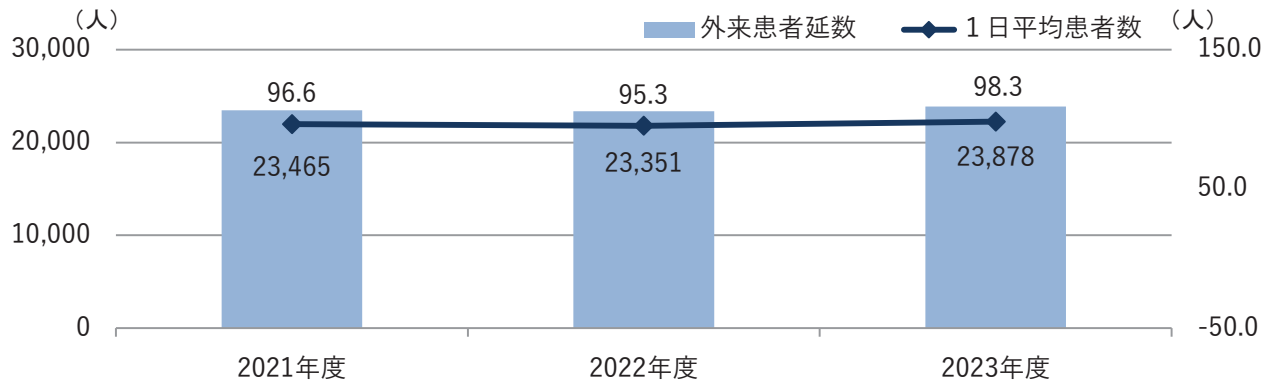
病院統計

(1) 外来患者数（複数診療科受診を各々１とした場合）

単位：人

	2021/令和３年度		2022/令和４年度		2023/令和５年度	
診療科名	患者数	１日平均患者数	患者数	１日平均患者数	患者数	１日平均患者数
総合内科	2, 378	9. 8	3, 387	13. 8	4, 146	17. 1
糖尿内科	3, 021	12. 4	2, 772	31. 2	2, 653	10. 9
脳神経内科	3, 421	14. 1	2, 977	12. 2	2, 668	11. 0
整形外科	6, 159	25. 3	5, 909	24. 2	6, 470	26. 6
眼科	8, 486	34. 9	8, 306	35. 3	7, 941	32. 7
合計	23, 465	－	23, 351	－	23, 878	－
１日平均	－	96. 6	－	95. 3	－	98. 3
救急車患者数	6	－	10	－	13	－

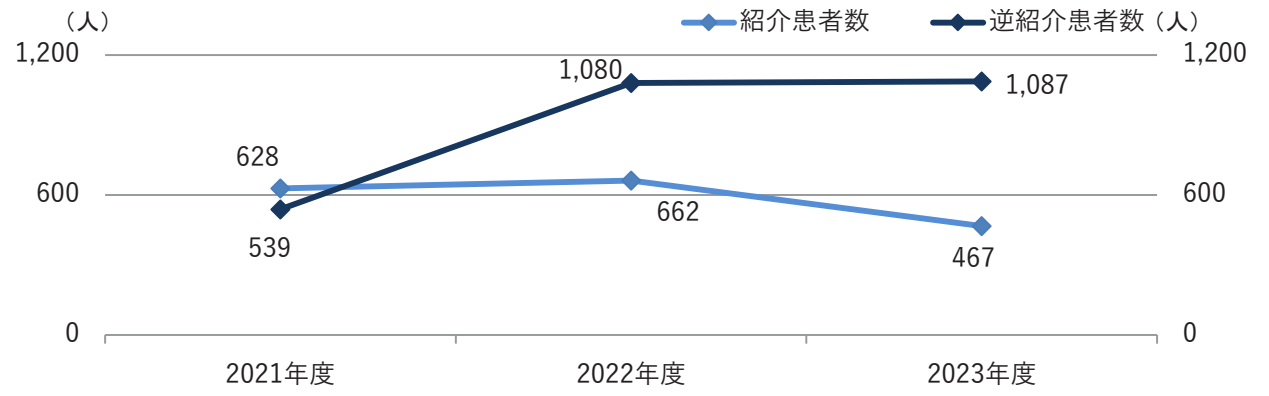
■外来患者数と１日平均患者数



(2) 紹介率・逆紹介率

	2021/ 令和３年度	2022/ 令和４年度	2023/ 令和５年度
紹　介　率（%）	31. 3%	27. 3%	17. 9%
逆 紹 介 率（%）	26. 8%	44. 5%	41. 6%

■紹介患者数・逆紹介患者数

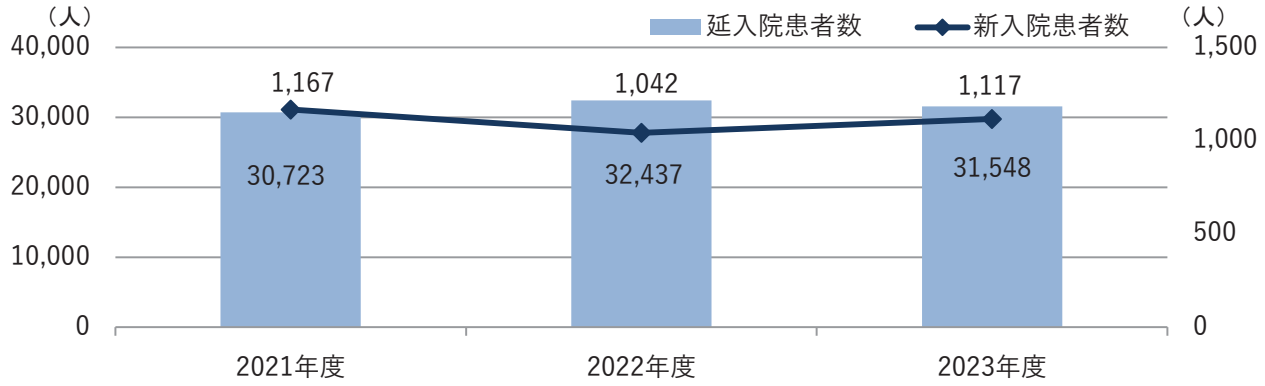


(3) 新入院患者・延入院患者数

単位：人

	2021/令和3年度		2022/令和4年度		2023/令和5年度	
診療科名	患者数	1日平均患者数	患者数	1日平均患者数	患者数	1日平均患者数
総合内科	150	5, 176	209	9, 100	246	10, 372
脳神経内科	268	13, 775	203	12, 181	232	12, 026
整形外科	217	9, 698	169	8, 959	153	7, 635
眼科	532	2, 074	461	2, 197	486	1, 515
合計	1, 167	30, 723	1, 042	32, 437	1, 117	31, 548
1月平均	97. 3	2, 560	87	2, 703	93. 1	2, 629. 0
1日平均	3. 2	84. 2	2. 8	85. 9	4. 6	86. 4

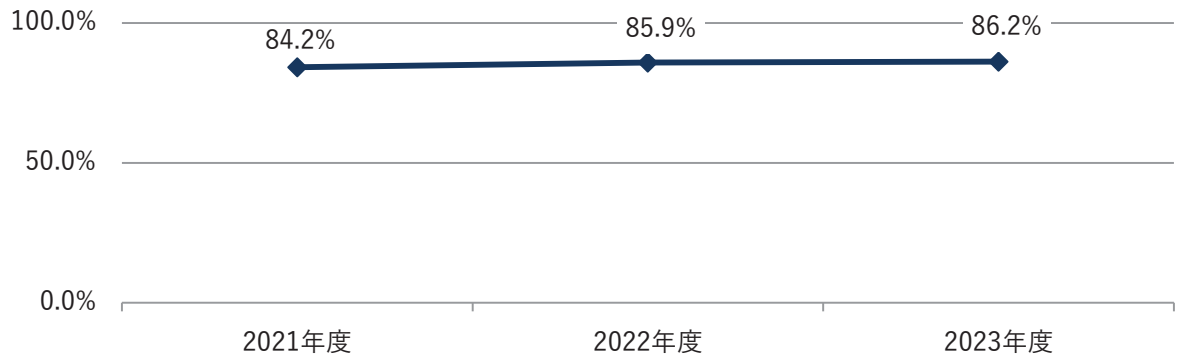
■新入院患者・延入院患者数



(4) 入院に関する実績比較

	2021/令和3年度	2022/令和4年度	2023/令和5年度
定床	100床	100床	100床
新入院数	1, 167人	1, 042人	1, 117人
退院数	1, 163人	1, 038人	1, 118人
在院患者延数	30, 723人	32, 437人	31, 548人
1日平均在院患者数	84. 2人	85. 9人	86. 2人
平均在院日数	26. 4日	30. 4日	28. 4日
病床稼動率	84. 2%	85. 9%	86. 2%

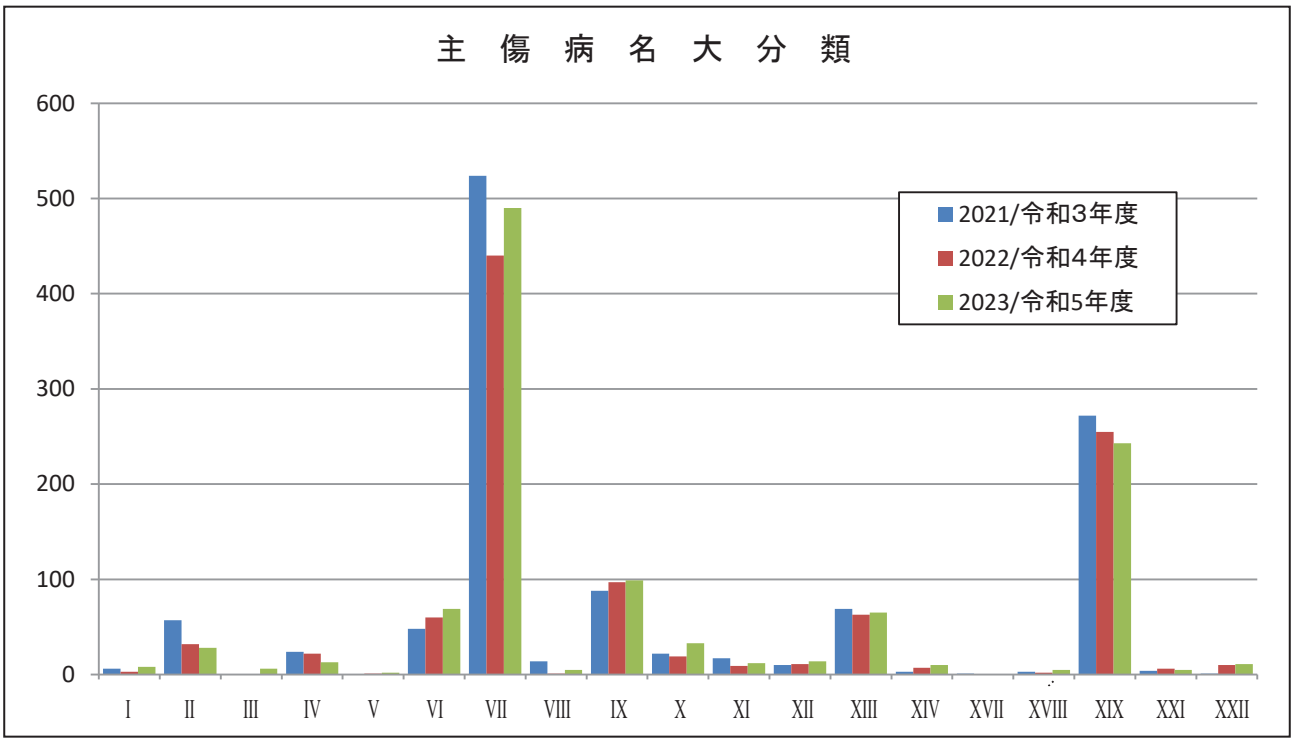
■病床稼動率



(5) 眼科手術件数

	2021/ 令和 3 年度	2022/ 令和 4 年度	2023/ 令和 5 年度
眼科	1, 126 件	917 件	1, 135 件

(6) 退院患者 ICD 大分類



コード	大分類項目	2021/ 令和 3 年度	2022/ 令和 4 年度	2023/ 令和 5 年度
Ⅰ	感染症及び寄生虫症	6	3	8
Ⅱ	新生物	57	32	28
Ⅲ	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	0	6
Ⅳ	内分泌、 栄養及び代謝疾患	24	22	13
Ⅴ	精神及び行動の障害	0	1	2
Ⅵ	神経系の疾患	48	60	69
Ⅶ	眼及び付属器の疾患	524	440	490
Ⅷ	耳及び乳様突起の疾患	14	1	5
Ⅸ	循環器系の疾患	88	97	99
Ⅹ	呼吸器系の疾患	22	19	33
Ⅺ	消化器系の疾患	17	9	12
Ⅻ	皮膚及び皮下組織の疾患	10	11	14
XIII	筋骨格系及び結合組織の疾患	69	63	65
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	3	7	10
XVII	先天奇形、 変形及び染色体異常	1	0	0
XVIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3	2	5
XIX	損傷、 中毒及びその他の外因の影響	272	255	243
XXI	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	4	6	5
XXII	特殊目的用コード	1	10	11
	合計	1,163	1,038	1,118

上町いまきいれ病院 Ⅲ−3

部門報告

診療部

- ●内科・脳神経内科・糖尿病内科・整形外科
- ●眼科

看護部

診療・患者支援部門

- ●薬剤課
- ●放射線課
- ●臨床検査課
- ●リハビリテーション課
- ●在宅診療課
- ●栄養管理課
- ●視能矯正課
- ●地域医療支援センター

事務部

内科/脳神経内科/糖尿病内科/整形外科/眼科

脳神経内科　院長／丸山芳一、副院長／林茂昭(回復期病棟専従医)(報告)、非常勤医師／臼元亜可理
内　科　部長／花園幸一、久保忠弘
糖尿病内科　非常勤医師／濵﨑秀崇（～2024年3月）
整形外科　山内常一郎、会長／今給黎尚典、非常勤医師／土屋太志郎
眼　科　医長／嶌嵜創平（～2024年3月）、嶌嵜薫（～2024年3月）、医長（2024年4月～）／古江惠理

2023年度 トピックス

- 職員定期健康診断を外部委託より自院での健診開始。

2023年度 診療実績

外来（括弧内は前年）

総数	23,878人（23,351人）	
初診	2,616人（2,553人）	
再診	21,262人（20,798人）	
整形外科	6,470人	1日平均：26.6人
	(5,909人	1日平均：24.1人)
脳神経内科	2,622人	1日平均：13.0人
	(2,977人	1日平均：12.2人)
内科	3,766人	1日平均：15.5人
	(3,387人	1日平均：13.8人)
糖尿病内科	2,699人	1日平均：27.7人
	(2,772人	1日平均：11.3人)
眼科	7,941人	1日平均：32.6人
	(8,306人	1日平均：33.9人)
救急車患者数	13人	

入院（括弧内は前年）

回復期病棟	
入院数	831人（814人）
延患者数	18,132人（18,301人）
月平均(延数)	1,511人（1,525人）
地域包括病棟	
入院数	1,256人（1,179人）
延患者数	14,530人（14,136人）
月平均(延数)	12,11人（1,178人）

総括

外来に関しては、外来患者数の増加を目標に、外来患者だけでなく検診数を増やすなどを目標にしていた。近隣の方へかかりつけ医としての認知度を上げていく取り組みとして広報活動として、2023年10月よりInstagram開設、広告記事掲載など行った。コスト削減の目的もあり職員定期健康診断を自院にて開始した。

回復期病棟に関しては、林副院長を回復期病棟専従医として体制強化加算を2022年12月より算定開始し、特に支障はなく算定可能であった。強化加算算定はできたものの、リハビリテーションのスタッフの不足があり、リハビリ提供単位数は目標とした6単位には近づいたが、6単位/年を超えるまでには至らなかったことが反省点である。また、2022年度に問題となっていた空床期間の短縮を意識して取り組んだが、十分な短縮は得られなかった。退院患者が重なる時期もあり、空床が一時的に多くなる月がみられ、今後も引き続きベッドコントロールの強化が必要と考えている。

地域包括病棟入院料1の基準は2022年4月より算定開始しており、緊急入院：9人/3ヵ月以上、在宅復帰率：72.5%以上、在宅訪問看護回数：60回以上/3ヵ月などの施設基準は、問題なくクリアできていた。地域包括病棟の問題点としては、眼科入院枠を考慮してベッドコントロールを行うため、眼科退院後に空床が多くなってしまうことが生じていることであった。手術日の関係で入院が週はじめにあり退院が週末に集中していることで、空床が発生し稼働率の低下が生じていた。今後は入院日の分散化などを行い、稼働率の維持をはかっていくことが課題となっている。

次年度の目標

- 第三者評価である病院機能評価を受審予定（2024年7月）
- 外来患者数の増加をはかっていく。
- 病床利用率の向上のため、いまきいれ総合病院との連携体制を強化し、緊急入院の受け入れ、空床時の早期受け入れをはかっていく。
- いまきいれ総合病院からの受け入れがスムーズになるように現状より在院日数の短縮を図る。
- 回復期病棟のリハビリ提供単位数の増加（目標6単位以上）。

眼科

医長／嶌嵜創平（～2024年3月）
医師（～2024年3月）、医長（2024年4月～）古江惠理、医師／嶌嵜薫（～2024年3月）
非常勤医師／小菅正太郎、友寄英士、横山康太、徳永義郎、吉永就正

2023年度 トピックス

上町いまきいれ病院眼科では、入院手術を基盤とし安定した運用を行えた。遠隔地からの紹介を多数受け入れ、負担の少ない高度な医療の提供により、地域医療へ貢献することができた。

大学医局より手術顧問として医師を招聘し、難症例を含めその対応にあたり、早期手術を実施することができた。

総括

前年度からの運用を継続しつつ、鹿児島大学からの常勤医派遣も加わり、体制の強化を図った。昭和大学と鹿児島大学、当院との連携を行い、地域の中核病院を担うべく努めた。感染症対策を取りながら、与えられた枠組みの中で入院手術の稼働を維持し、患者や関連施設のニーズにも一定の対応ができたのではないかと考える。

2023年度 診療実績

外来　7,941 人
入院　486 人

《手術件数》

白内障手術（含多焦点眼内レンズ使用）	802 件
硝子体手術（含増殖性硝子体網膜症手術）	27 件
硝子体内注射	158 件
その他（外眼部手術･外来処置など）	143 件

【院外活動】
・いまきいれ総合病院新生児内科　往診
・キラメキテラスヘルスケアホスピタル　検診（眼底読影）

次年度の目標

- 関連医療機関との連携
- 広報活動と新患獲得
- 病床稼働率の安定化
- 日帰り手術体制の拡充

看護部

看護副部長／山下真理恵

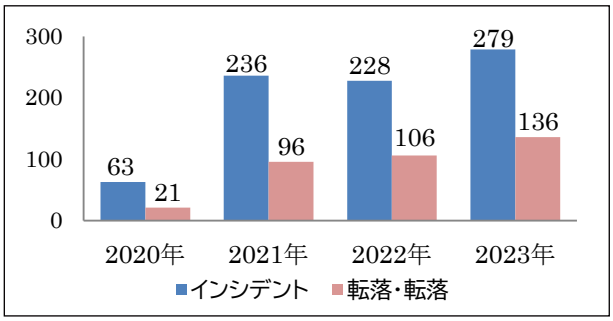
2023年度 トピックス

4 月～病院機能評価受審準備：マニュアル作成等
4 月～回リハ看護・介護 10 か条に対するスタッフの意識改革開始
5 月：看護週間
（全看護職員 1 ～ 2 分スピーチ）
6 月：地ケアカフェ開催　（6 月・10 月）
2 月：看護補助者処遇改善手当て（6000 円 / 月）
3 月：看護補助者外来～病棟異動　3 名
（地ケア：看護補助者適正配置加算要件）
3 月：南日本新聞リビング掲載

2023年度 実績

1. 看護関連指標
1）看護職員入職：なし
2）看護職員退職者：4名（退職率　6.3%）
3）看護補助者入職者：1名
4）看護補助者退職：3名（退職率　16%）
5）年休取得率：46%
6）産休 / 育児休暇取得者：1名 /1名
7）時間外勤務：4.18時間 / 人 / 日
2. 資格取得・研修修了者（2024年3月現在）
1）鹿児島県看護協会会員：62名
2）鹿児島県看護連盟会員：10名
3）アドバンス助産師：1名
4）第2種滅菌技士：2名
5）介護福祉士：3名
6）看護補助認定実務者試験合格者：3名
7）認定看護管理者教育課程
セカンドレベル修了者：1名
ファーストレベル修了者：5名
8）看護補助者活用推進研修：全師長受講
9）臨地実習指導者講習会：5名
10）認知症関連研修（加算対象）：25名
11）鹿児島県糖尿病療養指導士：5名
12）日本口腔ケア学会4級認定：1名

1. ケア関連指数
1）インシデント件数：279件
2）転倒転落件数　　：136件



総括

2023年病院ビジョンから看護部目標へ、そして部署目標を掲げそれぞれに活動をはじめた。
部署の役割を果たすために、
回リハ：看護・介護の10箇条の意識改革開始
見守りのできる、デイルームやリハビリ室（窓ぎわ）での昼食時間環境作り
地ケア：地域連携、他施設との顔の見える関係性作りの地ケアカフェの開催
外来：南日本リビング掲載で外来紹介を行った。

外来患者数もなかなか目標達成に至らず今後の課題でもある。また、今年度は退職率も増加し特に看護補助者の人材不足には悩まされる年でもあった。退職理由としては、育児・介護による家庭の事情での退職となっているが、なかには、給料面についての意見もある。看護部としては、育児・介護を抱えながら勤務する職員が多いことからも、看護にやりがいを持って働き続けられる職場環境を作ることが今後の課題である。

次年度の目標

1　働きやすい職場の整備
2　看護の立場で病院経営に参画する
3　専門性を高め、自律できる人財を育成する

薬剤課

主任／神門優子

2023年度 トピックス

1　2023年度は2024年の病院機能評価に向けて業務の見直し、体制を整えていく年となった。
各種マニュアル（調剤内規など）の見直しを行った。
また、劇薬・ハイリスク薬（新たに）の表示なども薬剤課・病棟・外来で統一し、ストック薬・救急カートの見直しを行い、医薬品管理の更なる徹底に努めた。
服薬指導も必要に応じて行っている。

2　眼科のオペに必要な点眼薬・院内処方のクリーンベンチでの調製など（週一回）を行い、眼科とも協力している。

3　地域連携：高麗町薬局・近隣の薬局と薬薬連携を3ヵ月に１回（Zoom）で行い、連携を図っている。
（がん薬薬連携研修会：3カ月に1回）

4　部門のレベル向上･認定薬剤師の更新
薬剤師研修センター認定薬剤師
糖尿病療養指導士

5　各種委員会など
褥瘡委員会（2カ月に1回）
褥瘡回診（週１回）
薬事委員会（４カ月に1回）
医療安全委員会（月１回）
感染ラウンド（週1回）
感染委員会（月1回）
責任者会議（月1回）
医療情報システム委員会（月1回）
クリニカルパス委員会（2カ月に1回）
労働安全衛生委員会（月1回）
防火対策委員会（年2回）
コーディング委員会（年2回）
医療ガス安全管理委員会（年1回）
薬剤ワーキング（2カ月に1回）

2023年度 実績

1. 内服・外用の調剤
　・入院処方箋枚数　992 枚 / 月
　・外来処方箋枚数　9 枚 / 月
2. 注射調剤
　・注射処方箋枚数　320 枚 / 月
3. 持参薬鑑別　91 件 / 月
4. 院内点眼薬作成　237 本 / 月

2024 年 3 月　院内感染研修会

総括

今年度は院内の研修会を1回行い、病院機能評価に向けて院内採用薬の見直し、各種マニュアルの見直しなどを行い、各種部署と協力できた。

次年度の目標

2024 年の機能評価受審に向けて、さらに業務・マニュアルの見直しなど続けていきたい。

放射線課

副技師長／四本斉

2023年度 トピックス

移転して3年大きなトラブルもなく順調に業務が行えて行えております。 前年度件数にばらつきがあった骨密度も安定して検査数を確保しています。

勤務体制は常駐技師1名、受付（午前のみ）1名、そして高麗町の技師から1人出向してもらい技師2人、受付1人の3人体制で業務にあたっています。

業務内容は一般撮影、 骨密度検査、 CTなどの撮影業務のほか、CD作成、取り込み等を行っています。月平均2件ほどで少ないですが夜間、 休日のオンコールにも対応しています。 基本当院技師が行きますが、 対応できないときは高麗町勤務の技師の方々に協力をいただいています。 また、 撮影業務だけでなく夜間、 休日に病棟機器トラブル時に呼ばれた際も病院に出向き対応しています。 可能な限り待たせないよう迅速な対応を心掛けています。

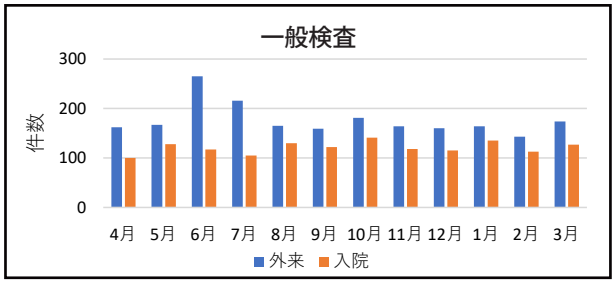
CT装置は昨年度末に新装置を導入し診断の妨げになるような異常陰影のない画像が提供できるようになりました。 件数も外来、 入院合わせて平均して70件／月ほど撮影しております。造影検査も増えてきました。

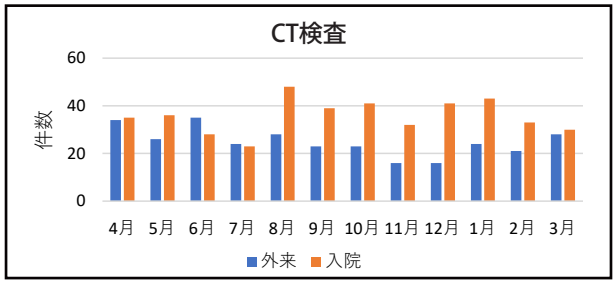
また、 こちらでは医療機器管理責任者も兼任しており院内全ての医療機器について点検、 修理、 購入の管理を行っています。 現在外来、 病棟にある医療機器も古いものが多く、 なかにはメーカー修理の対応が終了している機器も出てきました。

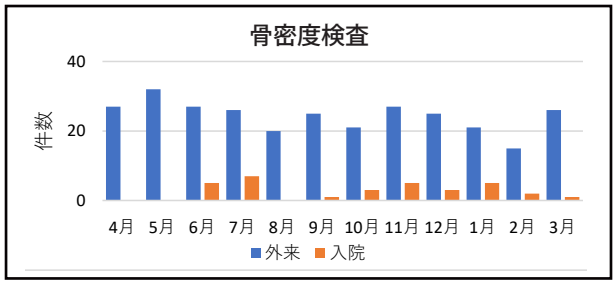
自分で修理できるものは修理したり、 分からないところは本院中央管理室の方々にアドバイスをもらい使用部門が困らないよう可能な限り当日対応で業務にあたっています。

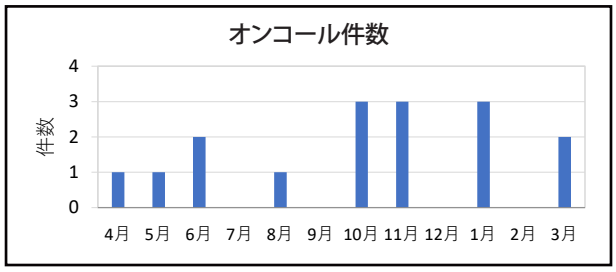
医療機器の研修会も行いました。 今回はメーカーにお願いして人工呼吸器の取り扱いについて3回行いました。 人工呼吸器だけでなく、 生体モニタなど院内の医療機器についての研修を定期的に企画していきます。

2023年度 実績









総括

一般撮影は例年通り、 CTは機種変更のおかげで増加傾向にあります。 骨密度検査についても外来スタッフの協力により件数は増加傾向にあります。

院内で使用している血圧計などの機器がメーカー対応含め限界に近いものが多く、 修理対応できないものも出ている状況です。 徐々に新しい物品に変更していくことも考慮しないといけません。

一般撮影の装置も20年目を迎え故障時の対応が難しくなってきています。 これから先、 更新も視野に入れなければならないと考えます。

次年度の目標

各モダリティ装置稼働率をあげ、件数増加に努める。

CT装置も新しくなりました。 件数は増えてきたとはいえ入院患者の件数が多い状況です。 外来検査数を増やし増収に繋がるよう外来と協力して努力する。

骨密度についてももう少し1日の件数を増やしていきたいと考えます。

臨床検査課

副技師長／原薗真由美

2023年度 トピックス

- 上町検査課ではコロナやインフルエンザなどの用手検査を含む生化学・血液一般等の緊急検体検査と生理学的検査を臨床検査技師 2 名で行っています。昨今の状況により 2023 年度検査件数も増加しています。
- 2023 年度より上町職員（200 名弱）の職員健診を院内で実施することになり、患者中心の診療に配慮しながら上町職員一致協力し実施することができました。
- 日々の内部精度管理実施や外部精度管理へ参加し良好な結果が得られ、検査データの標準化に努めています。
- 2024年度の病院機能評価受審に向けての準備が始まり、まずパニック値運用の見直し周知徹底を行い、10月には輸血後感染症検査案内の整備運用開始、その間に検査マニュアルや試薬管理・機器管理マニュアル等の見直しなど内容に沿った課題に取り組みながら進めているところです。
- 院内活動としましては感染対策向上加算取得のためICTの一員として毎週のミーティングに参加し、院内の感染症報告や薬剤耐性菌報告を行い院内の感染防止対策に取り組んでいます。また、いまきいれ総合病院や連携施設との合同カンファレンス参加やJ-SIPHE（感染対策連携共通プラットフォーム）へのデータ報告を行い、地域ネットワーク内での自施設の状況把握に協力しています。
- 各種委員会
  感染防止対策委員会（月 1 回）
  ICT ミーティング / ラウンド（週 1 回）
  感染合同カンファレンス（年 4 回）
  医療安全対策委員会（月 1 回）
  診療録検討委員会（月 1 回）
  医療情報システム委員会（月 1 回）
  労働安全衛生委員会（月 1 回）
  広報委員会（月 1 回）
  責任者会議（月 1 回）
  クリニカルパス委員会（偶数月）
  個人情報保護推進委員会（年 4 回）
  防火対策委員会（年 2 回）

2023年度 実績

生化学免疫血清検査	58,217件
血糖検査	5,508件
HbA1c 検査	3,583件
血液検査	46,917件
検尿一般検査	4,413件
コロナ核酸・抗原定性検査	711件
用手法検査	765件
血液ガス検査	36件
生理学的検査	1,160件
細菌検査	154件
病理組織検査	7件
細胞診検査	2件
輸血関連検査	12件
合計	121,485件

次年度の目標

- 病院機能に応じた臨床検査運営を適切に実施する。
- 検査システム入れ替えを円滑に行う。
- 検査データの標準化に努め迅速かつ確実な検査結果を報告する。
- ICTの一員として迅速に感染状況を報告し院内感染防止対策に協力する。
- 他部署と情報共有し安全・安心な業務運営を行う。

リハビリテーション課

療法士長／前迫篤

2023年度 トピックス

2023年度は前年度より5名増え、療法士32名の体制で回復期リハビリテーション病棟（以下：回リハ）、地域包括ケア病棟（以下：地ケア）、外来の患者さんにリハビリテーションを提供した。

7月1日付けで徳永弘樹（言語聴覚士）と野村篤志（理学療法士）が主任に就任した。

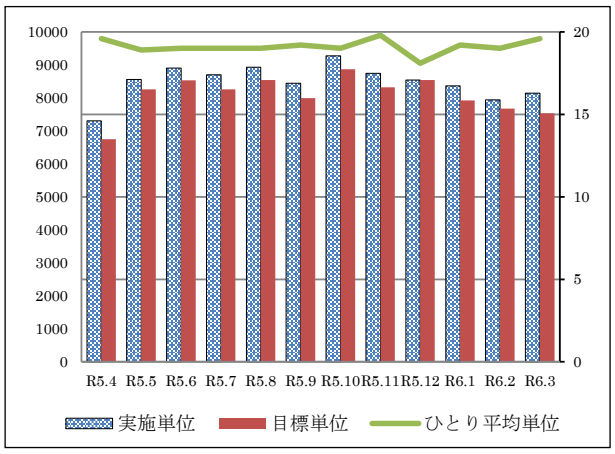
疾患別リハビリの割合は、回リハが脳血管リハ54％、運動器リハ44％、廃用リハ2％、地ケアが脳血管リハ24％、運動器リハ36％、呼吸器リハ15％、廃用リハ25％であった。

1年間のリハビリ提供単位数は平均で回リハが5.6単位、地ケアが2.3単位であった。回リハにおいて、昭和会中期経営計画の2023年度目標である5.5単位以上は達成できたが、当課目標の6.0単位以上には届かなかった。

質改善の取組みとして、はじめて地域住民を対象としたリハビリ講座を開催することができた。また、院内発表会にも2演題エントリーした。他にも多職種を交えた勉強会をリハビリ主催で開催することができた。

2023年度 実績

1.　回リハ病棟（出来高）

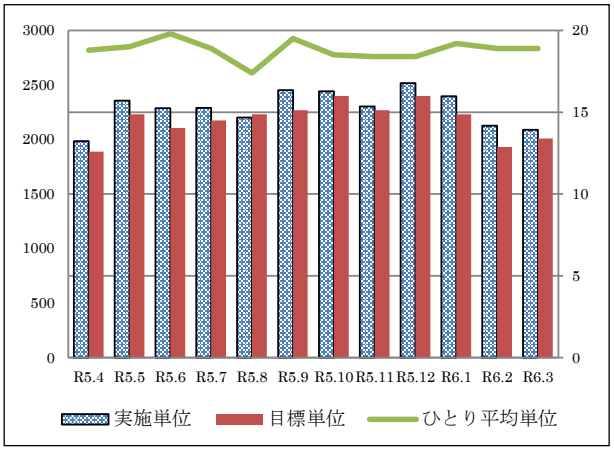


実施単位数：105％

療法士一人あたり年間所得平均単位数

：19.1（106％達成）

2.　地ケア病棟（包括）



実施単位数：105％

療法士一人あたり年間所得平均単位数

：18.8（104％達成）

3. 多職種合同勉強会

テーマ：人工股関節脱臼肢位（山下PT）

テーマ：移乗動作（東OT、笠野OT）

4. 地域住民に向けたリハビリ講座

テーマ：転倒予防（川崎PT）

5. 院内発表会

テーマ：口腔ケアチャートを用いた病棟でのケアへの取組み（徳永ST）

テーマ：コロナ禍で学んだ回復期リハビリの在り方（川崎PT）

総括

生産性と質の向上に取り組む1年であった。療法士1人ひとりの生産性は標準値を上回っているのに対し、リハビリ提供単位数は人員不足により成績不調であった。臨床業務に追われる日々のなか、質改善の取組みにも協力してくれたリハビリ職員全員に感謝したい。

次年度の目標

- 人材を確保し、適材適所の人員配置
- 高い生産性を継続
- リハビリ提供単位数6.0/月以上、実績指数30以上（回復期医療ニーズの対応強化）
- 病院機能評価受審に向けた取組み

在宅診療課

課長／生野雅子

2023年度 トピックス

在宅診療課では、現在保健師2名、看護師1名の合計3名で、主に訪問診察と訪問看護業務を実施しています。訪問診察は、長きに渡り在宅医療を牽引された脳神経内科部長（上町いまきいれ病院副院長）の林医師が回復期病棟専従となられたことから、2022年11月から新たに総合内科の久保医師へバトンタッチされ、院内業務で忙しい最中、在宅担当医として兼務されています。また、脳神経内科の臼元医師が非常勤として月に3回午前中に来られ、主に神経難病の患者さんを受け持たれています。更に秋にはいまきいれ総合病院の総合診療科部長の二木医師も応援に来ていただき、非常に助かりました。

地域包括ケア病棟の入院料加算2→1への算定引き上げを図るため、在宅療養支援病院（区分3）としての届け出を2023年2月に行いました。直近3カ月に訪問診察30件・医療保険の訪問看護60件以上の算定要件も順調にクリアできています。その他、介護保険の訪問看護にも対応しており、緊急訪問看護加算算定のため24時間連絡体制を取り、必要時は夜間・休日等の訪問看護にも対応し、患者さんが安心して療養生活が送れるよう努めています。

総括

訪問診察：昨年比 +87 件増。
訪問看護：昨年比 +48 件増。
今年度は先生方への訪問診察協力依頼を推進し、それに伴い訪問看護とも実績アップにつながりました。

次年度の目標

- 先生方と相談しながら、訪問診察件数のアップに努める。
- 地域包括病棟との連携を取りながら、介護者負担軽減のためのレスパイト入院の推進を図る。

2023年度 実績

訪問診療

訪問診療	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R 5 年 度	26	27	24	24	26	28	28	28	25	24	27	25	312

往診　3件

訪問看護（医療訪問看護+介護訪問看護合算）

訪問看護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R 5 年 度	131	134	124	123	134	125	138	123	138	120	125	135	1,550

その他の実績・各種委員会等

- 衛生管理者（保健師）としての業務　労働安全委員会月１回
  職場巡視を週１回実施し、巡視記録作成
- 介護保険実績を集計し居宅介護支援事業所への実績報告　担当者会議出席
- 在宅カンファレンス月１回
- 責任者会議月１回　報告書作成し実績発表
- 地域包括ケア病棟　リハビリカンファレンス週１回
- 広報委員会月１回
- 院内感染防止対策委員会月１回
- 医療安全　診療録検討委員会月１回
- 必要時、退院カンファレンス出席
- 寝たきり患者さんの入退院や受診送迎業務

栄養管理課

主任/久永亜里紗

2023年度 トピックス

【2023年度目標】
1　栄養管理・給食管理に関わるスタッフ教育の推進と充実
2　給食運営の質の向上
3　多職種連携の充実
4　人材確保と継続性

【スタッフ構成】(2024年3月現在)
管理栄養士　　3名
調理師　　6名　　調理補助　11名

【課内業務】
1　栄養管理･給食運営の充実
・衛生管理と食事の質向上
・献立の見直しと行事食の増加
・スタッフ教育と適正配置
・栄養課内症例検討会の実施
2　多職種連携の充実
・地域連携（栄養管理情報提供書）
・カンファレンス、回診参加
・病棟業務の負担軽減推進

2023年度 実績

(表1) 食数年間合計表

一般食	47,001 食
特別食	42,350 食
経管栄養	4,143 食

(表2) 栄養指導件数集計表

項目	年間実施件数
入院食事指導	139（非算定）
外来食事指導	49（算定）+1（非算定）

(表3) 資格等の取得状況

資格	人数
日本糖尿病療養指導士	1
鹿児島県地域糖尿病療養指導士	1

【講師派遣及びボランティア、発表活動】
・第40回市民健康まつり
2023年7月16日　スタッフ派遣　鶴田麻奈
・第4回かごしま臨床栄養連携研究会
2024年2月10日　運営スタッフ　鶴田麻奈

【学会・研修会参加状況】
・第66回　日本糖尿病学会学術集会
2023年5月11日～13日　現地　久永亜里紗
・給食施設従事者研修会
調理師・調理員向け
2023年9月6日　上出口春菜
栄養士・管理栄養士向け
2023年9月22日　鶴田麻奈

【実習生受け入れ】給食臨床医栄養学実習
・鹿児島県立短期大学　生活科学科　　1名

(表4) 昭和会栄養管理課合同教育研修会

	内容
R5.5月	食物アレルギーについて
6月	食中毒予防　回リハ症例検討 NICU研修会報告
7月	7N・7S症例検討
8月	6N・6S症例検討
9月	地ケア症例検討
10月	NICU/まぁる症例検討
R6.2月	透析予防指導1年間の活動報告 9S症例検討

次年度の目標

1　栄養管理・給食管理に関わるスタッフ教育の推進と充実
2　給食運営の質の向上
3　多職種連携の充実
4　緊急時における対応強化（災害・食中毒）

視能矯正課

技師長／川畑真澄

2023年度 トピックス

1 部署目標

『生産性向上を見据えた個人的キャリアデザインの形成』

2 活動報告

2021年10月の病院移転を契機に、眼科診療に特化した専門部署として視能矯正課が設置されることとなった。眼科に関する業務を包括的に担うべく、医師事務作業補助者も加入し組織化することで、より質の高い医療を提供するための診療補助ができたと考える。

また、関連する他職種へ向けた研修会の開催や日常運用の中心となり、総合力向上に寄与することができた。

3 部署構成

- 視能訓練士　4名
- 眼科検査助手（検査専任）　1名
- 眼科検査助手（秘書専任）　3名

総括

眼科診療の生産性向上と安心安全かつ円滑な運営に貢献できた。より専門的で包括的な診療支援を行うことを目的として、眼科に従事する医師事務作業補助者を眼科検査助手（ 秘書専任 ）として視能矯正課へ配置し、部署の基盤強化を図った。

来年度以降も眼科診療の中心として、その役割を遂行する。

2023年度 実績

1 検査業務

- 入力系視能検査 34,244件（含造影検査）
- 統合系視能検査　23件（含大型弱視鏡検査）
- 出力系視能検査　91件（含斜弱検査）
- その他　18件（含視能訓練）

2 対外業務

- 院内発表会ポスター発表「コロナと視環境～QOVL向上のために～」/川畑真澄/2023.12.12

次年度の目標

- 広報活動や啓発活動による新患獲得
- 検査プロトコルの見直しによる生産性向上
- 教育体制の構築と拡充

地域医療支援センター

副センター長／吉満実

2023年度 トピックス

2023年度は、回復期病棟の稼働率は年間90.5%でしたが、目標値は更に高い設定なので達成に向けて更なる取り組みが必要です。地域包括病棟の稼働率は80.9%でしたが、一般患者の入院依頼が多く、病床稼働アップのため一般病床のベッド数増を図る必要がでてきました。

入退院の数値は在院日数が地域包括病棟は短期入院が多いため、多くの退院支援、調整をスピーディーに実施していく必要性があります。

更なる退院支援の充実や稼働率アップに向けた取り組みのため、人員配置の見直し追加等検討中です。

2023年度 実績

1. 病床管理

	回復期病棟（54床）	地域包括病棟（46床うち眼科病床を10名で運用）
年間入院数	278	880
年間退院数	269	894
病床利用率	90.5%	80.9%

2. 退院支援

	回復期病棟（54床）	地域包括病棟（眼科を除く患者数）
退院数	269	349
退院支援実施	169	197
在宅等退院	181	254
転院（療養型等）	88	86

3. 在宅復帰率

回復期病棟	地域包括病棟
91.0%	81.4%

4. 加算算定状況

	回復期病棟	地域包括病棟
退院支援加算	169件	192件
介護連携指導	80件	70件
退院前共同指導	1件	5件

5. 事業所との面接等での連携

年３階以上連携施設	34ヵ所

6. 広報活動

広報活動においては、令和5年9月よりInstagramの掲載、令和6年4月よりホームページリニューアル、同年5月に第1号の広報誌『上町ライフ』を発行し地域への広報活動も行っています。

総括

いまきいれ総合病院（急性期病院）と上町いまきいれ病院（回リハ・地ケア）に分離運営されて4年目に突入し、上町は主に急性期治療を終えた患者さんを受け入れ、リハビリを中心に在宅復帰を担う医療機関として運営しています。

いまきいれ総合病院と連携を図り、本院の在院日数の短縮化を図ることが上町いまきいれ病院の役割として重要な部分と考え、転院依頼の患者さんの早期受け入れの調整等、双方の連携室で協力体制を整えてきました。また、他の医療機関からの受け入れも積極的に行っています。回復期病棟は各々の急性期病院との連携、地域包括病棟は在宅支援診療所や施設との連携、レスパイト入院等のケアマネとの連携を図り、患者を受け入れ、リハビリ実施と在宅調整を行い自宅退院の支援等を行っています。

5類感染症になったとはいえ、感染対策は必要で連携活動は困難でしたが、次年度以降は他の医療機関の訪問活動等を実施し、上町いまきいれ病院を地域のリハビリ拠点病院として認識を深めていただけるよう努力したいと思います。

2024年7月に病院機能評価の初回受審のため、質の向上やマニュアル作成も含めた対策を取りたいと思います。

次年度の目標

- 病床の稼働率向上のためのベッドコントロール
- 回復期病棟重症度40%患者の確保（重症度確保のベッドコントロール）
- 地域包括病棟の緊急入院患者確保（外来・地域の診療所・本院救急外来）
- 他の医療機関との連携（急性期・在宅支援診療所）
- 退院支援のためのケアマネや在宅サービス機関との連携
- 病院機能評価受審対策（マニュアル作成及び実績作り）

事務部

事務長／濵田敏彦

2023年度トピックス

事務部として2023年の次年度目標としておりました、

職員健康診断の施設内実施　年２回

地下１階領域の湿気対策

2022年10月導入の空調に特化した節電・省エネシステムにより、2023年9月分より電気料金の削減効果あり。

次年度の目標

病院機能評価受審　2024年7月予定

中期計画による目標設定

【入院】

回復期病棟【54床】

平均病床利用　52.5床　97.2%/月

新規入院数　23.6人/月

平均在院日数　63.7日/月

入院患者１日のリハビリテーション提供単位数

6単位

地ケア病棟【46床】

平均病床利用　42床　91.3%/月

内科・脳内・整形　(40床)

平均病床利用　36.9床　90.2%/月

新規入院数　39人/月

平均在院日数　27.6日/月

緊急入院数　6人/月

眼科　(6床)

平均病床利用　5.1床　85%/月

新規入院数　50人/月

手術件数　72件/月

【外来】

眼科手術件数　29件/月

在宅訪問診察・往診　25.8件/月

訪問看護件数(介護含む)　133件/月

消耗品等のコスト削減

いまきいれ子ども発達支援センターまぁる

IV

施設概要・報告

いまきいれ子ども発達支援センターまぁる 施設概要

（令和6年3月現在）

名　称	公益社団法人昭和会　いまきいれ子ども発達支援センターまぁる Imakiire child development support center Maru
開設者	代表理事 今給黎 和幸（いまきいれ かずゆき）
センター長	丸山 有子　（まるやま　ゆうこ）
管理者	渡辺 貴子　（わたなべ　たかこ）
所在地	〒890-0054　鹿児島市荒田１丁目 15 番２号（かごしまし あらた）
代表電話	099-202-0325
代表 FAX	099-202-0326
施設開設日	2022 年４月１日　事業所番号：4650101373
規　模	福祉型児童発達支援センター テナントビル３階建 １階：エントランスホール ２階：指導訓練室３室、調理室１室、静養室１室、子ども用トイレ、多目的トイレ等 ３階：遊戯室１室、相談室１室、事務室兼医務室１室、屋外遊戯場１室等 １日の定員人数 12 名
職員数	14 名（兼任５名含）
有資格者	

	常勤	非常勤
医師（新生児科医師・小児科医師）		２名
看護師	１名	
作業療法士	１名	１名
公認心理士	２名	
保育士	４名	
管理栄養士		２名
調理師		１名

施設基準届出一覧

○福祉型児童発達支援センター　2022年4月1日　事業所番号：4650101373

施設概要

3F	そらのへや（遊戯室）　子育て相談室 屋外遊技場　事務室
2F	ほしのへや（指導訓練室）　はなのへや（指導訓練室） ことりのへや（子どもリハビリ室）　もりのへや（静養室）　給食室
1F	エントランス

いまきいれ子ども発達支援センターまぁる

センター長／丸山有子
管理者兼副センター長／渡辺貴子（報告）
児童発達支援管理者／上口紗矢香

2023年度 トピックス

いまきいれ子ども発達支援センターまぁるが開設し2年目を迎えた。1日の利用定員を12名から20名に増やし、年間登録者数も73名と順調に増えた結果となった。また年度末に親子の満足度調査を行ったが、95%という満足支持を得ることができた。

発達支援センターの役割として、地域の発達支援事業所を招いての公開療育も実施した。参加希望施設が多くやむなく12施設に絞ったが、好評な結果を得ることができ今後の連携にもつながった。

今年度より、地域貢献事業として「キラメキ健幸ひろば」をキラメキテラスヘルスケアホスピタル、A-COOPと協同で3回実施した。17組の親子（計43名）が参加し、地域の子育て相談ができる場としての第1歩を踏み出した。

2023年度 診療実績

1日の定員数	：20人	
年間利用登録者人数	：73人	（目標値70人）
稼働日数	：256.5日	
利用者延人数	：4,320人	（目標値4,072人）
年間稼働率	：84%	（目標値84%）

※利用者延人数と稼働率グラフは次頁

発達検査実施数：27人
効果判定：親子の満足度調査　満足回答95%
研修：病院内研修4名参加、園外研修:10名参加

地域との連携

- いまきいれ総合病院フォローアップ外来との連携会議：11回実施
- いまきいれ総合病院新生児フォローアップ外来との連携会議：11回実施
- 保健師等との連携会議：12回実施
- 児童発達支援事業所等への研修会（公開療育含）：3回実施（計36施設参加）
- 児童発達支援センターとの連携会議：1回

総括

開設2年目は、定員数を2倍近く増やしたが、利用登録者数、利用者延人数ともに年間目標値を超えることができた。家族の満足度も高く、発達支援センターとして量および質ともに満足できる支援ができているものと思われる。

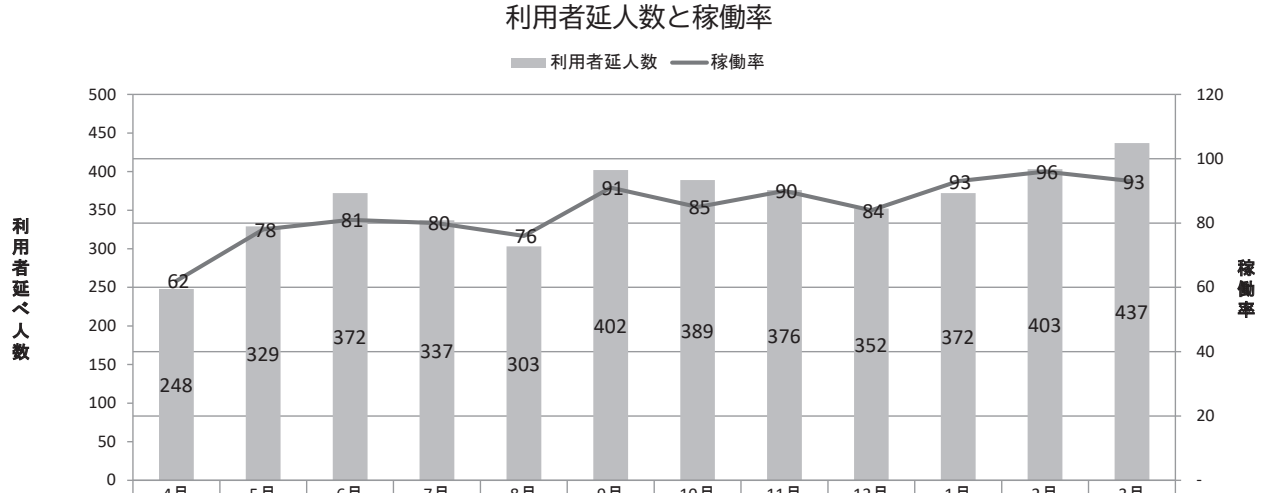
職員の質向上として、NICUや新生児フォローアップ外来での病院内研修だけでなく、鹿児島女子短期大学助教授今村幸子先生のご協力のもと勉強会の定期開催も実施できた。スタッフは若手が増えたものの適切な支援の提供ができるよう、皆で努力している。

保育士や心理士養成校3校から実習生4名を受け入れた。医療と福祉の両方を学べる当法人の実習は、幅広い人材育成の場として役立つことができた。

児童発達支援センターの役割として、地域の発達支援事業所の質向上のための「研修会」開催や地域の子育て世代への相談の場としての「健幸ひろば」の開催ができ、地域に貢献できる事業を展開できたと思う。

次年度の目標

1 目標として年間利用登録者数70名、年間稼働率90%とし、発達支援センターの持続した安定した運営を図る。
2 安心・安全で適切な支援ができるようスタッフの病院内研修や園外研修、勉強会の充実を図る。
3 児童発達支援センターの役割として、研修会や公開療育の提供、また外部講師を招いての「ペアレントトレーニング研修会」を実施する。
4 保育士や心理士養成校の実習施設として充実を図る。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者延人数	248	329	372	337	303	402	389	376	352	372	403	437
稼働率	62	78	81	80	76	91	85	90	84	93	96	93

研究実績 V

■ 各診療科・各部署別　研究実績

- 論文・誌上発表
- 学会発表　他

■ その他

- メディア掲載
- 公益社団法人昭和会の1年
  - ・能登半島地震DMAT派遣活動報告
  - ・キラメキテラス連携の会

【診療部門】

救急･総合診療科/救急科

【学会発表】
1. 覚本雅也、西山淳
アルカリ洗剤服用により生じた喉頭浮腫、腐食性食道炎に対し人工呼吸器管理により良好に治癒しえた１例
第27回日本救急医学会九州地方会　2023年5月13日　福岡市

【開催】

西山淳	第60・61回BLSコース(日本救急医学会認定)	2023年6月17日	いまきいれ総合病院
西山淳	エマルゴトレインシステム演習コース	2023年8月5日	いまきいれ総合病院
西山淳	第62回BLSコース(日本救急医学会認定)	2023年8月10日	いまきいれ総合病院
西山淳	第63回BLSコース(日本救急医学会認定)	2024年2月28日	キラメキテラスヘルスケアホスピタル
西山淳	第17回ICLSコース(日本救急医学会認定)	2024年3月7日	いまきいれ総合病院

【指導医】

西山淳	第1回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	2023年7月5日	鹿児島市消防総合訓練研修センター
西山淳	第2回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	2023年9月26日	鹿児島市消防総合訓練研修センター
西山淳	第3回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	2023年12月20日	鹿児島市消防総合訓練研修センター
西山淳	第4回薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会	2024年3月19日	鹿児島市消防総合訓練研修センター

【院外活動】

西山淳	鹿児島救急集中治療研究会　世話人	2023年6月30日	TKPガーデンシティー鹿児島中央
西山淳	鹿児島県ドクターヘリ検証会　検証医	2023年12月16日	鹿児島市立病院
西山淳	令和5年度薩摩地域救急業務高度化協議会　委員	2024年2月6日	鹿児島市消防総合訓練研修センター
西山淳	救急講義　講師	2024年2月8･19日	鹿児島県消防学校
西山淳	鹿児島マラソン2024　救護所	2024年3月3日	花倉救護所

【メディア】

西山淳	南日本新聞　熱中症 上手な水分補給法は？	2023年7月26日

血液内科

【論文・誌上発表】
1. Kosuke Obama, Hana Yamamoto, Hirosaka Inoue.
Behçet's disease-like clinical manifestations of chronic lymphocytic leukemia during good response to ibrutinib. EJHaem 2023 Jun 29;4(3):859-860.

2. Kosuke Obama.
Why is red cell distribution width a prognostic factor for peripheral T-cell lymphoma? Leuk Lymphoma. 2023 Dec;64(12):2054-2055

3. Kosuke Obama, Hana Yamamoto, Hirosaka Inoue.
Complete remission of aggressive Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma following withdrawal of tacrolimus and low-dose anticancer drugs. EJHaem. 2023 Aug 8;4(4):1160-1163.

【学会発表】
1. 小濵浩介、山本花、井上大栄
Complete remission of aggressive Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma following withdrawal of tacrolimus and low-dose anticancer drugs.
第85回日本血液学会学術集会　2023年10月13～15日　東京

2. 新名識穂（初期臨床研修医）、山本花、井上大栄、小濵浩介
免疫グロブリン大量療法とfostamatinibのシーケンシャル投与で病態の安定が得られた難治性重症特発性血小板減少性紫斑病
第344回内科学会九州地方会　2024年1月27日　福岡

【座長等】

小濵浩介	鹿児島サークリサHybrid講演会	コメンテーター	サノフィ	2023年6月　鹿児島
小濵浩介	鹿児島サークリサHybrid講演会	コメンテーター	サノフィ	2023年12月　鹿児島

【受賞】
新名識穂（初期臨床研修医）　第344回内科学会九州地方会　初期研修医奨励賞
小濵浩介　第344回内科学会九州地方会　初期研修医指導医賞

糖尿病内科

【学会発表】
1.池田真紀、山元聖明、西尾善彦
　急性膵炎の発症が先行し，劇症1型糖尿病と考えられた1例
　第61回日本糖尿病学会九州地方会　2023年12月1日～2日　熊本

【座長】
山元聖明　Online Insight Meeting 2023年4月17日
山元聖明　Diabetes Update in 鹿児島 2023年8月29日
山元聖明　糖尿病治療目標を再考する 2023年10月13日
山元聖明　37回鹿児島糖尿病カンファレンス 2023年11月22日

【講師】
山元聖明　DUAL Seminar in かごしま 2023年5月26日
山元聖明　MSD株式会社社内学術研修 2023年9月26日
山元聖明　第29回鹿児島市域糖尿病医療連携体制講習会 2023年11月21日
山元聖明　DiaMond Seminar in 鹿児島 2024年1月24日

【広報活動】
山元聖明　糖尿病内科　当院医療機関向け広報誌connect第8号 2023年10月

消化器内科

【学会発表】
1.山﨑晃裕、岩屋博道、井手雄太郎、奈良博文、今給黎和幸、吉永英希、船川慶太
　胆道鏡で特徴的な胆管像を呈したステロイド抵抗性irAE硬化性胆管炎の1例
　第59回日本胆道学会学術集会、2023年9月14日～15日、京王プラザホテル札幌

2.井手雄太郎、岩屋博道、山﨑晃裕、今給黎和幸、吉永英希
　ステロイドミニパルス療法後に再燃し、経口ステロイドを導入した好酸球性胆道炎の1例
　第59回日本胆道学会学術集会、2023年9月14日～15日、京王プラザホテル札幌

3.岩屋博道、山﨑晃裕、吉永英希、井手雄太郎、今給黎和幸
　再発性総胆管結石に対する電気水圧衝撃波結石破砕術後に穿孔を来した一例
　第59回日本胆道学会学術集会、2023年9月14日～15日、京王プラザホテル札幌

【多施設共同研究】
1.Bilio-Pancreatic Stenting研究会より
　「非切除肝門部悪性胆道閉塞に対するメタリックステントの留置方法を比較検討する多施設共同無作為比較試験（片葉ドレナージVS両葉ドレナージ)」
　「ERCP後膵炎に関する多施設共同前向き観察研究」

2.埼玉医科大学との共同研究、難治性疾患克服事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」

循環器内科

【論文・誌上発表】
1.Saito Y, Tanaka A, Ishizu T, Yoshida H, Kubota Y, Nanasato M, Matsuhisa M, Ohya Y, Kobayashi Y, Node K; PRIZE Study Investigators.
　Factors associated with carotid intima-media thickness progression in patients with asymptomatic hyperuricemia: insights from the PRIZE study.Sci Rep. 2023 Jul 5;13(1):10927.

2.Imamura S, Miyata M, Ogawa M, Oketani N, Hamasaki S, Hirahara N, Ninomiya Y, Ohishi M.
　Effect of Oral Care on Endothelial Dysfunction in Patients with Acute Coronary Syndrome.
　Int Heart J. 2024;65(3):386-394.

【学会発表】
1.堀内しおり（初期臨床研修医）、志岐健三郎、有馬良一、手塚綾乃、濱崎秀一
ビタミン欠乏と高ホモシステイン血症を伴い血栓塞栓症を発症した若年男性2例
第7回鹿児島循環器カンファレンス　2023年11月18日　鹿児島

【講演】
松本紀彰　高齢者の心不全患者におけるSGLT2阻害薬の腎機能に及ぼす影響について
高麗町連携カンファレンス　2023年7月5日
有馬良一　当院の心不全診療における取組み
患者のQOLを考える会～診療科の垣根を越えて～　2023年12月8日

【講演】
濱崎秀一　鹿児島市内科医会学術講演会　2023年5月26日
志岐健三郎　高麗町連携カンファレンス　2023年7月5日
濱崎秀一　高麗町連携カンファレンス　2023年7月5日
濱崎秀一　患者のQOLを考える会～診療科の垣根を越えて～　2023年12月8日

呼吸器内科

【学会発表】
1.園田康貴（初期臨床研修医）、鶴薗健太郎、内田浩子、亀之原佑介、入來豊久、岩川純
不整形な浸潤影を呈した肺葉内肺分画症の一例
第91回日本呼吸器学会 九州支部秋季学術講演会　2023年10月27日　宮崎

2.垣内洋祐[1]、猿渡功一[2]、時任高章[3]、入來豊久[4]、岩川純[4]、坂田能彦[5]、神宮直樹[5]、佐伯祥[6]、稲葉恵[6]、高木僚[2]、美園俊祐[7]、末次隆[7]、東公一[3]、水野圭子[7]、坂上拓郎[2]
独立行政法人地域医療機能推進機構人吉医療センター呼吸器内科[1]、熊本大学病院呼吸器内科[2]、久留米大学内科学講座呼吸器神経膠原病内科[3]、いまきいれ総合病院呼吸器内科[4]、済生会熊本病院呼吸器内科[5]、熊本中央病院呼吸器内科[6]、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科呼吸器内科[7]
75歳以上の局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線治療後のデュルバルマブ維持療法の有効性と安全性の検討
第64回日本肺癌学会学術集会　2023年11月2日～4日　幕張メッセ　千葉

【講演・座長】
岩川純　慢性咳嗽　診断と治療　当科の考え方
杏林製薬社内勉強会　2023年6月22日　鹿児島市

【講演】
入來豊久　肺線維症診療に関する課題を考える
第第11回鹿児島呼吸器疾患診療研究会　2023年8月18日　鹿児島
岩川純　当院の抗菌薬適正使用支援チームAST活動と当科の非結核性抗酸菌症治療の考え方
インスメッド社内勉強会　2023年10月5日　鹿児島
岩川純　小細胞肺がんと免疫チェックポイント阻害剤
大隅地区肺癌研究会　2023年10月12日　鹿児島
亀之原佑介　当院の間質性肺炎診療について
荒田地区 間質性肺炎セミナー～地域医療連携を考える～　2024年2月16日　鹿児島
入來豊久　アリケイスの適正患者について考える　②当院のクリニカルパスの紹介
肺NTM講演会～肺MAC症診療の新展開～　2024年3月22日　鹿児島

【座長】
亀ノ原佑介　COPD目からウロコの吸入支援吸い方ひとつで最大1.7倍の効果
演者　井本 久紀　霧が丘つだ病院慢性呼吸器疾患認定看護師
出水郡薬剤師会生涯教育研修会　2023年7月27日　鹿児島
岩川純　特別講演 Chemo-IOにおける個別化治療－IMpowerレジメンを中心に－
演者：立原素子神戸大学大学院医学研究科　呼吸器内科学分野　特命准教授
基調講演 当院の肺がんの病理検査とバイオマーカー検査について
演者：有村郷司　いまきいれ総合病院　病理課
第4回lung cancer immunotherapy online seminar 肺癌連携の会　2023年11月6日

岩川純　特別講演 間質性肺疾患における地域医療連携
演者：阿部 信二　東京医科大学 呼吸器内科学分野 主任教授
荒田地区 間質性肺炎セミナー～地域医療連携を考える～　2024年2月16日　鹿児島

入來豊久　当院の間質性肺炎診療について
演者：亀之原佑介　いまきいれ総合病院　呼吸器内科
荒田地区 間質性肺炎セミナー～地域医療連携を考える～　2024年2月16日　鹿児島

脳神経内科

【論文・誌上発表】

1. 石田絢（初期臨床研修医）、武井藍、甲斐太、吉村道由
橋背側出血により左末梢性顔面神経麻痺とBruns眼振を呈した症例
鹿児島市医報 2023;62:14-17

【学界発表】

1. 山下悠亮、小田健太郎、甲斐太、吉村道由
眼瞼下垂を欠く複視で発症し、11年後に全身型に移行した若年発症抗 MuSK 抗体陽性重症筋無力症の一例
第243回日本神経学会九州地方会 2024年3月2日　福岡 ハイブリッド開催

【講演】

甲斐 太　当院でのサフィナミドの使用経験～特に100mg へ増量による期待～
サフィナミドPremium Digital Seminar 2023年2月13日 エーザイ web開催

甲斐 太　抗AQP4抗体高値が持続しているがサトラリズマブ導入により経口ステロイド剤の減量に成功しているNMOSDの1例
Kagoshima NMOSD Expert Conference2023　2023年7月19日 中外製薬 web開催

甲斐 太　脳梗塞のプレホスピタルケア
救急隊・いまきいれ総合病院合同カンファレンス 2023年7月28日　院内

【講師】

吉村道由　第20回 神経筋診断セミナー
2023年9月16日（土）～17日（日）帝京平成大学池袋キャンパス

外科

【学会発表】

1. 宇都宮麻子、濱田由紀、林知実、小倉芳人
腹腔鏡下に治療したダグラス窩内ヘルニアの１例
令和５年度鹿児島市外科医会春季例会　2023年５月18日　鹿児島

2. 林知実、川俣有輝、野田昌宏、小倉芳人
膀胱ヘルニアに対する術前CTの有用性とTAPP手技の工夫
第21回日本ヘルニア学会　2023年5月26～27日　東京

3. 濱田由紀、宇都宮麻子、林知実、小倉芳人
直腸癌との鑑別に難渋した前立腺癌直腸転移の一例
第48回日本大腸肛門病学会九州地方会　2023年7月29日　鹿児島

4. 宇都宮麻子、濱田由紀、林知実、小倉芳人
外傷性小腸穿孔をきたした会陰ヘルニア1例
第86回鹿児島臨床外科学会総会　2023年8月5日　鹿児島

5. 林知実、宇都宮麻子、濱田由紀、小倉芳人
術前CTを用いた臍動脈索と下腹壁動脈の位置関係による手術難易度の検討
第16回九州ヘルニア研究会　2023年9月2日　大分

6. 恒吉弥沙、小倉芳人、濱田由紀、林知実
主膵管に近接した非機能性神経内分泌腫瘍の1切除例
令和5年度鹿児島市外科医会秋季例会　2023年11月9日　鹿児島

7. 小倉芳人、宇都宮麻子、濱田由紀、林知実
主膵管に近接した非機能性神経内分泌腫瘍の1切除例
第85回日本臨床外科学会総会　2023年11月16～18日　岡山

8.林知実、川俣有輝、椎葉忠恕、宇都宮麻子、濱田由紀、野田昌宏、小倉芳人
胃粘膜下腫瘍に対しLECSを行い遺伝子検査にて胃蔓状線維粘液腫と診断できた1例
第36回日本内視鏡外科学会総会　2023年12月7～9日　横浜

9.林知実、宇都宮麻子、濱田由紀、小倉芳人
腹腔鏡下に治療したダグラス窩内ヘルニアの1例
第36回日本内視鏡外科学会総会　2023年12月7～9日　横浜

10.恒吉弥沙、林知実、濱田由紀、小倉芳人
臀部外傷を契機に小腸穿孔を来した直腸癌術後会陰ヘルニア一例
第60回九州外科学会　2024年3月8～9日　大分

呼吸器外科

【学会発表】

1.今給黎尚幸、二又卓朗、米田敏、徳石恵太、佐藤寿彦
民間病院におけるロボット支援下手術の導入と現状
第40回日本呼吸器外科学会総会 2023年7月13～14日　新潟

2.今給黎尚幸、二又卓朗、米田敏、佐藤寿彦
右下葉肺癌における#12uリンパ節郭清の意義～RATSによるリンパ節郭清の適応と限界～
第76回日本胸部外科学会　2023年10月19～21日　仙台

3.二又卓朗、今給黎尚幸、米田敏
当院におけるPD-L1陽性非小細胞肺癌に対する術後補助療法アテゾリズマブ投与9例の検討と珍しい合併症の1例
第64回日本肺癌学会学術集会　2023年11月2～4日　幕張

4.二又卓朗、今給黎尚幸、米田敏
肺癌術後補助化学療法としての免疫チェックポイント阻害薬の適応拡大と外来化学療法を通じたサージカルオンコロジストとしての学び
第85回臨床外科学会総会　2023年11月16～18日　岡山

5.二又卓朗、今給黎尚幸、米田敏
U-VATS右S1区域切除
第2回九州次世代の会　2023年11月25日　福岡

6.二又卓朗、今給黎尚幸、米田敏
RATS・単孔式時代における若手外科医の手術手技教育～当院における外科専門医Certificate取得・執刀開始までの経験から～
第36回日本内視鏡外科学会　2023年12月7～9日　横浜

7.今給黎尚幸、二又卓朗、米田敏
民間病院で呼吸器外科医が行う肺癌診療における創意工夫～RATSおよび単孔式VATS導入、サージカルオンコロジストの役割～　第64回日本肺癌学会九州支部学術集会　2024年3月1～2日　宮崎

8.二又卓朗、今給黎尚幸、米田敏
転移性肺腫瘍に対して胸腔鏡下複雑亜区域切除術（S1+2c＋S3a＋S4a）を施行した1例
第1回JATS-NEXT　2024年1月27日　大阪

9.二又卓朗、今給黎尚幸、米田敏
悪性胸膜中皮腫（malignant pleural mesothelioma：MPM）に対する胸膜切除/肺剥皮術（P/D）＋横隔膜再建術の当科1例目の苦い経験
第64回日本肺癌学会九州支部学術集会　2024年3月1～2日　宮崎

【講演】

二又卓朗　肺がん周術期治療のICについて　中外製薬講演会
今給黎尚幸　肺癌周術期治療について　中外製薬講演会
今給黎尚幸　第3回Lung Cancer Immunotherapy Online Seminor　Web講演

血管外科

【学会発表】
1.平林葉子
静脈疾患を診る女性医師から
パネルディスカッション1 活躍する女性医療者 ー私だからできる、私ならできる
第43回日本静脈学会総会　2023年7月6日　愛媛

2.平林葉子
Lemierre症候群が疑われた1例
第64回日本脈管学会総会　2023年10月26日　神奈川

【講演】
平林葉子　脈管治療センターでの取り組み　地域連携で脈管疾患を考える会　2023年9月13日　鹿児島

【院内講演】
平林葉子　足のむくみ　健康経営セミナー女性健康講座　2024年3月　web配信

【座長】
牛島孝　脈管治療センターでの取り組み　地域連携で脈管疾患を考える会　20203年9月13日　鹿児島
平林葉子　第16回日本静脈学会瀬戸内西日本支部総会　2024年2月18日　兵庫

整形外科

【学会発表】
1.宮口文宏
DISHや骨粗鬆症の椎体骨折に対して後弯矯正や椎体骨折の転位矯正が可能な新しい胸椎椎弓根スクリュー刺入方法
第52回日本脊椎脊髄病学会　2023年4月13日～15日　札幌コンベンションセンター　札幌

2.北川博之
外傷による椎間板損傷は脊椎局所後弯のリスクとなるか？
第146回西日本整形・災害外科学会学術集会　2023年11月3日～4日　沖縄

3.宮口文宏
PETLIFにNavigation system を用いてどこまで椎間板掻把可能か
第26回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 2023年11月16日～17日　福岡

4.宮口文宏、川畑直也、谷口昇
Navigation systemを併用したPED(FESS)を用いて頚椎椎間孔形成術を施行した１症例
第98回西日本脊椎研究会　2023年11月18日　福岡

【講演】
宮口文宏　スクリューの逸脱を防ぎ、隣接椎間障害を避け、高度な矯正を行うこともできる胸椎椎弓根スクリューの新たな挿入方法
第26回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 モーニングセミナー　2023年11月16日～17日　福岡

新生児内科

【論文・誌上発表】
1.久保雄一
極低出生体重児へのアミドトリゾ酸ナトリウムの経腸投与によるヨウ素負荷の前方視的検討
日本新生児成育医学会雑誌 35(3): 581-581, 2023.

【学会発表】
1.久保雄一
極低出生体重児へのアミドトリゾ酸ナトリウムの経腸投与によるヨウ素負荷の前方視的検討
第67回日本新生児成育医学会・学術集会口頭発表　2023年11月３～５日　横浜

2.久保雄一
重症慢性肺疾患のため在宅High Flow Nasal Cannula で退院した超低出生体重児２例の報告
第35回日本慢性肺疾患研究会　2023年６月14日

3.久保雄一
The risk factors and the causes for death in infants with congenital chylothorax.
The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies　ポスター発表
2023年10月7～9日

【院外活動】
丸山有子　鹿児島県医師会理事就任（2022年6月～）

小児科

【論文・誌上発表】
1.今給黎亮
背部痛を伴いMRIで禁周囲の異常信号を認めたIgA血管炎の6歳女児
鹿児島市医報 2023年62巻11号 p.13-16

【学会発表】
1.迫貴文、今給黎亮、小木曽文乃、玉田泉、堀之内兼一、島子敦史
不十分な固定によりエピペン使用時に大腿切創を来した4歳男児
第182回日本小児科学会鹿児島地方会　2023年6月4日　鹿児島市
2.神村未来、関祐子、柿本令奈、堀口達史、三浦希和子、徳永美菜子、森田智、岡本康裕
尿路結石を合併した小児 Cushing 病
第56回日本小児内分泌学会学術集会　2023年10月20日　大宮市
3.今給黎亮、柿本令奈、玉田泉、堀之内兼一、島子敦史
MRIでの信号変化を伴う激しい背部痛を合併したIgA血管炎
第184回日本小児科学会鹿児島地方会　2024年2月4日　鹿児島市

【講演】
柿本玲奈　成長曲線と肥満曲線について
姶良地区学校医向勉強会　2023年4月19日　姶良市
今給黎亮　舌下免疫療法の実際
鹿児島県小児科医会学術講演会　2023年5月13日　鹿児島市
今給黎亮　当院のアトピー性皮膚炎診療と問診票から見えてくる課題
第32回鹿児島小児アレルギー研究会　2023年5月20日　鹿児島市
今給黎亮　アレルギーと感染症の対策
令和５年度保育教諭等研修会　2023年11月7日　鹿児島市
今給黎亮　鹿児島県の小児アトピー性皮膚炎治療
小児アトピー性皮膚炎治療Up to Date　2024年1月24日　鹿児島市
今給黎亮　アレルギーと感染症の対策
第27回幼稚園等教育改善研究会　2024年1月25日　鹿児島市
今給黎亮　食物アレルギーについて
姶良伊佐地域振興局管内給食施設連絡協議会　2024年3月14日　姶良市
今給黎亮　アトピー性皮膚炎の治療意義（乳幼児・学童期以降）
第4回南九州小児科アレルギー研究会　2024年3月23日 宮崎市

【座長】
今給黎亮　どうするアレルギー対応　～歴史をふりかえりながら～
第33回全国病児保育研究大会in鹿児島　2023年7月16日　鹿児島市
島子敦史　一般演題C(ポスター)
第33回全国病児保育研究大会in鹿児島　2023年7月17日　鹿児島市
今給黎亮　一般口演15「喘息・診断・治療
第60回日本小児アレルギー学会学術大会　2023年11月19日　京都市

【院外活動】
島子敦史　鹿児島市医師会学校心臓検診協力医
柿本玲奈　鹿児島県医師会成長曲線小委員会
柿本玲奈　鹿児島県小児慢性特定疾患審査会
今給黎亮　食物アレルギーの診断・管理の基本的知識の習得
第2回宮崎県小児アレルギースキルアップセミナー　2024年1月20日　宮崎市

泌尿器科

【学会発表】

1. 上野貴大
   ペンブロリズマブ+レンバチニブ併用療法後に手術を行い、完全寛解が得られた転移性腎細胞癌の1例
   第146回日本泌尿器科学会鹿児島地方会　2023年7月8日
2. 上野貴大
   根治切除不能腎癌に対しニボルマブ+イピリムマブ併用療法を行い、重篤な肝障害を発症し不幸な転帰をたどった2例
   第147回日本泌尿器科学会鹿児島地方会　2023年12月3日
3. 水間浩平
   ロボット手術時代の完全鏡視下腎尿管全摘術
   第147回日本泌尿器科学会鹿児島地方会　2023年12月3日

【講演】

水間浩平　尿漏れについて
　　いまきいれ総合病院 市民公開講座　2024年2月24日　サンエールかごしま
立和田得志　前立腺癌の治療について
　　いまきいれ総合病院 市民公開講座　2024年2月24日　サンエールかごしま

頭頸部･耳鼻咽喉科

【原著】

1. 峠早紀子、花牟禮豊、積山幸祐、山下 勝
   頸部 CT 画像242例による茎状突起の長さに関する解剖学的計測および茎状突起過長症症例の検討
   日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報　2023年 126巻 9号 1061-1067
2. 三橋亮太、佐藤公宣、田中久一郎、永田圭、深堀光緒子、栗田卓、佐藤文彦、川口壽比古、黒岩大海、宮崎瑞穂、小野剛治、千年俊一、梅野博仁
   TEES導入前後の緊張部型真珠腫新鮮例の治療成績の検討
   耳鼻と臨床　69巻3号 Page160-168　2023年5月
3. 三橋亮太、田中久一郎、永田圭、深堀光緒子、佐藤公宣、佐藤文彦、森龍祐、仲田泰崇、千年俊一、梅野博仁
   手術治療を行った外リンパ瘻28症例の検討
   耳鼻咽喉科臨床 補冊(0912-1870)補冊163 Page1-5　2023年11月
4. 三橋亮太、田中久一郎、深堀光緒子、永田圭、佐藤公宣、佐 文彦、平木陽、千年俊一、梅野博仁
   後天性一次性真珠腫症例の手術成績の検討
   耳鼻咽喉科臨床 補冊(0912-1870)補冊163 Page6-11　2023年11月

【学会発表】

1. 下薗知己、永田圭、積山幸祐、花牟禮豊 福田勝則、昇卓夫
   臨床経過より浸潤型が疑われた蝶形骨洞真菌症の1例
   第48回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術集会　2023年6月3日　鹿児島
2. 下薗知己、花牟禮豊、積山幸祐
   頸部に生じたundifferenciated pleomorphic sarcomaの1例
   第33回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会　2024年2月1日　愛媛

【座長】

積山幸祐　第48回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術講演会　一般演題　2023年6月3日
花牟禮豊　鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会
　　日耳鼻鹿児島県地方部会合同学術講演会　特別講演1　2024年1月20日

麻酔科

【論文】

1. Eriko K,Makoto F,Ryozo S,et al.
   Three-dimensional topography of rat trigeminalganglion neurons using a combination of retrograde labeling and tissue-clearing techniques.
   Jornal of Comparative Neurology, 2024

2.Yuki K,Ryozo S,et al.
Tracheostomy Tube Exchange Failure Under General Anesthesia: A Case Report and Retrospective Analysis
Anesthesia Progress, 2023

【口演】
西村絵実、園田拓郎（鹿児島市医師会病院）
「痛みの日記」により痛みの認知が改善した1症例　第65回鹿児島麻酔懇話会　2024年2月25日

【講演・講義】
千堂良造　2023年度第2回精密触覚機能検査研修会 講師
千堂良造　一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術集会 教育セミナー2：Red Flagを探せ　シンポジスト
千堂良造　一般社団法人日本口腔顔面痛学会学術集会 ハンズオンセミナー：ブロック治療に関する超音波エコー　インストラクター
千堂良造　鹿児島県歯科医師会 デンタルスタッフ教育講座：小児歯科学、患者・文書・物品の管理 講師
西村絵実　いまきいれ総合病院　緩和ケア研修会 講師　2023年7月8日
西村絵実　済生会川内病院　緩和ケア研修会　講師　2023年7月16日
西村絵実　南風病院　緩和ケア研修会　講師　2023年11月19日

放射線診断科

【論文・誌上発表】
1.鉾立博文、永山照明、濵田智太郎、浮田啓一郎、飯伏順一
新病院移転に伴い再構築した画像検査体制の狙いと開院２年を振り返っての成果
新医療　2023年4月号　p54-58

緩和ケア内科

【論文・誌上発表】
1.大瀬克広
特集：かごしま国体「かごしま国体とスポーツドクター」 鹿児島県医師会報令和5年9月号3-4
2.大瀬克広
＜論説と話題＞かごしま国体に向けて　鹿児島市医師会報　令和5年第62巻第9号24-28

【学会発表】
1.大瀬克広、原口哲子、小玉哲史、早崎玲子、岩山友紀
医学部生における看取り教育の課題
第5回日本緩和医療学会九州支部学術集会　2023年11月3日　ハイブリッド開催　鹿児島

【講演】
大瀬克広　自分らしく生きるために
いまきいれ総合病院がん拠点病院出前講座　2023年7月13日　上荒田公民館
大瀬克広　がん教育への関わり～医療従事者の立場から～
鹿児島県がん教育外部講師研修会　2023年7月29日　鹿児島県民総合保健センター
大瀬克広　がん教育への関わり～医療従事者の立場から～
鹿児島県教育委員会がん教育外部講師連携支援事業に係る令和5年度教育指導者研修会
2023年8月25日　かごしま県民交流センター
大瀬克広　鹿児島県における国体選手の医・科学サポート
特別国民体育大会（燃ゆる感動かごしま国体）ドクターズ・ミーティング
2023年9月16日　サンロイヤルホテル
大瀬克広　特別国民体育大会（燃ゆる感動かごしま国体）における陸上競技医事サポート報告」
日本陸上競技連盟全国医事部長会議　2024年1月27日
東京　国立オリンピック記念青少年総合センター
大瀬克広　チームで取り組むACP　医療法人青仁会池田病院ACP研修会　2024年2月15日　鹿屋
原口哲子　大隅地域の緩和ケア連携
第一三共株式会社主催　緩和ケアセミナー　2023年11月29日枕崎市枕崎サザンリージョン病院
原口哲子　PCAポンプの使い方　いまきいれ総合病院地域連携がん拠点病院会議　2023年12月1日
原口哲子　高校生に対するがん教育
鹿児島県高等学校保健体育研究授業　2023年12月13日　鹿児島市甲南高校

小玉哲史　こんながん教育やってます～医療者の立場から～
鹿児島県がん教育外部講師研修会　2023年9月16日　鹿児島県民総合保健センター
小玉哲史　より良い睡眠と不眠症のはなし
いまきいれ総合病院出前講座　荒田校区コミュニティ協議会　2023年12月6日　荒田公民館

【講師・ファシリテーター】
小玉哲史　いまきいれ総合病院緩和ケア研修会　企画責任者、講師「コミュニケーション」2023年7月8日
大瀬克広　いまきいれ総合病院緩和ケア研修会
講師・ファシリテーター「緩和ケア研修会の目的」　2023年7月8日
原口哲子　いまきいれ総合病院緩和ケア研修会　講師・ファシリテーター「全人的苦痛」　2023年7月8日
小玉哲史　済生会川内病院緩和ケア研修会　講師・ファシリテーター―「コミュニケーション」
2023年7月16日
原口哲子　県民健康プラザ鹿屋医療センター緩和ケア研修会　企画責任者　2023年9月19日
小玉哲史　県民健康プラザ鹿屋医療センター緩和ケア研修会
講師・ファシリテーター―「コミュニケーション」2023年9月17日
大瀬克広　県民健康プラザ鹿屋医療センター緩和ケア研修会　講師・ファシリテーター―「地域連携」
2023年9月19日
原口哲子　県立薩南病院緩和ケア研修会　講師・ファシリテーター―「地域連携」
大瀬克広　がん教育（三島硫黄島学園、三島竹島学園、三島大里学園、三島片泊学園）2023年11月7日
小玉哲史　鹿児島医療センター緩和ケア研修会　講師・ファシリテーター―「コミュニケーション」
2024年1月6日
大瀬克広　鹿児島大学緩和ケア研修会　講師・ファシリテーター―「地域連携」2024年2月10日

歯科・歯科口腔外科

【論文･誌上発表－原著】
1. Ogata, K., Koga, T., Zaima, H., Katase, N., Sumi, M., & Ohba, S.
A case of epidermoid cyst arising in the masticator muscle space with bone absorption. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology.(2023)
2. Shido, R., Morita, Y., Nishioka-Sakamoto, K., Narahara, S., Koga, T., Yoshida, N., & Ohba, S.
Occlusal Plane Angle as a Key Factor for Chin Protrusion After Mandibular Osteotomy in Skeletal Class III. Journal of Craniofacial Surgery, 34(8), 2343-2346.(2023)

【学会発表】
1. 堂満愛弓、古賀喬充
口腔粘膜に生じた開口部形質細胞症の1例
日本歯科衛生学会第18回学術大会　2023年9月18日　静岡

【講演】
古賀喬充　当科で行う顎矯正手術　きたぞの歯科矯正　2023年12月2日　鹿児島

【院外活動】
1. きらキラ保育園歯科検診（2023年7月）
2. いまきいれ総合病院情報誌「うららか」2023年夏号周術期等口腔機能管理、掲載

【診療支援部門】

薬剤課

【学会発表】
1. 髙橋武士　久津輪久世
　発熱性好中球減少症における緑膿菌感受性率と抗菌薬の選択に関する統計解析
　第71回日本化学療法学会西日本支部総会
　第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会 合同学会　2023年11月9日～11日　富山県

【講演】
岡﨑直樹　外来がん治療認定薬剤師取得までの道のり～認定薬剤師が多職種連携で取り組む副作用マネジメント
　第267回鹿児島県病院薬剤師会研修会/第46回鹿児島県病院薬剤師会がん薬物療法講習会
　2023年10月27日　大鵬薬品工業株式会社　九州支店鹿児島出張所会議室　web配信
髙橋真理　いまきいれ総合病院のタスクシフト・タスクシェアの取り組み
　日本化薬株式会社　南九州営業所　社内研修会　2024年3月22日

【座長】
岡﨑直樹　若手薬剤師のためのがん薬物療法セミナー　2023年4月26日
髙橋真理　第263回鹿児島県病院薬剤師会研修会　特別講演Ⅰ　2023年6月3日　鹿児島県医師会館
髙橋真理　第7回鹿児島県病院薬剤師会学術大会　シンポジウム3感染症　2024年１月27日
　鹿児島大学桜が丘キャンパス

【講師】
2023年度 がん化学療法薬薬連携研修会～周辺の保険薬局との合同研修会～
今吉賢成　オピオイドの適正使用について　2023年5月17日
小田原佳史　膵臓がんの治療選択 2023年8月16日
前田康輔　肝臓がんの薬物療法 2023年11月15日
髙橋武士　癌化学療法・発熱性好中球減少症に対する薬剤師の役割 2024年2月21日

【院外活動】
岡﨑直樹　日本臨床腫瘍薬学会　認定制度委員会 技能評価小委員会委員（2023年8月より）
岡﨑直樹　日本臨床腫瘍薬学会「外来がん治療認定薬剤師」認定面接試験（WEB面接）試験官 2024年2月4日
下堂薗権洋　鹿児島県病院薬剤師会監事（2022年6月より）
髙橋真理　鹿児島県病院薬剤師会理事（2013年4月より）
髙橋真理　鹿児島県病院薬剤師会副会長（2020年6月より）

【受賞】
髙橋真理　薬事功労者　県知事表彰　2023年10月

中央臨床検査課

【学会発表】
1. 平原千代子
　採血室運用報告　第19回鹿児島県医学検査　2024年2月18日
2. 小原旅人
　血液培養より検出されたSchaalia odontolyticusの一症例　第19回鹿児島県医学検査　2024年2月18日

臨床工学課

【学会発表】
1. 大木場雄大
　輸液ポンプ一斉更新後のインシデントと対策について
　第18回九州沖縄臨床工学会　会期：2023年11月4～5日　久留米市
2. 吉元健
　輸液ポンプ一斉更新における臨床工学技士の取り組み
　第30回鹿児島臨床工学会　2024年1月21日　鹿児島市

3.齊之平翔大
「酸素で～るSV」の導入と使用評価
第30回鹿児島臨床工学会　2024年1月21日　鹿児島市

4.船木聖仁
臨床工学技士業務におけるタスクシフト/シェア～スコピスト業務について～
第14回手術室臨床工学技士会（OR-CET）情報交換会　2024年2月18日　岡山市

中央放射線課

【学会発表】
1.小屋俊彰
当院の品質管理についての検討　2023年8月19日　第25回鹿児島県放射線治療技術研究会

2.川畑朋之
当院の放射線治療室の施設紹介　2023年8月19日　第25回鹿児島県放射線治療技術研究会

2.尾堂聡
当院における肺がん術前プロトコール　2023年9月21日　第56回鹿児島CT研究会

【講演】
池田真一　基礎講座「脂肪抑制の基礎」　2023年8月25日　第26回鹿児島MRI研究会
浮田啓一郎　肝の腫瘤性病変～エコーで見るMRIで見る～
鹿児島消化器画像・超音波研究会　2024年2月7日　鹿児島

【講師・ファシリテーター】
浮田啓一郎　業務拡大に伴う統一講習会 日本診療放射線技師会　2023年8月6日、11日　鹿児島市
浮田啓一郎　厚生労働省告示第273号研修（告示研修）　日本診療放射線技師会　2023年9月17日　鹿児島市
池田真一　厚生労働省告示第273号研修（告示研修）　日本診療放射線技師会
2023年7月9日、12月3日、2024年1月21日　鹿児島市

【座長】
丸尾美由紀　令和5年度鹿児島さくらRT研修会

【院外活動】
松下芳正、浮田啓一郎、林幸志郎
令和5年度鹿児島県原子力防災訓練 鹿児島県　2024年2月10日　鹿児島
濱田智太郎　能登半島地震　DMAT災害派遣　2024年1月29日

リハビリテーション課

【学会発表】
1.木原智美（作業療法士）
肺癌鎖骨上窩リンパ節転移により腕神経叢障害を呈した一例
第57回日本作業療法学会　2023年11月9日～2023年11月11日　宜野湾市

2.宮之原俊一（作業療法士）
自然閉鎖した座骨部褥瘡患者の臨床記録
第25回日本褥瘡学会学術集会　2023年9月1日～2023年9月2日　神戸市

3.内田有理香（理学療法士）
当院に呼吸器疾患で入院した90歳以上の患者における有酸素運動の実施状況の調査
九州理学療法士学術大会2023in熊本　2023年11月25～26日　熊本市

4.前村弥秀（理学療法士）
アドヒアランス不良のためHOT導入に難渋した症例の検討
第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会　2023年12月1日～2023年12月2日　仙台市

5.別府詩音（理学療法士）
呼吸困難を主としたミトコンドリア脳筋症に対して有酸素運動が有効であった一例
第37回鹿児島県理学療法士学会　2024年2月23日　霧島市

【講演】
谷吉航　スキンテア（皮膚裂傷）の防止と患者対応について学ぼう！
公益社団法人鹿児島県診療放射線技師会　2024年2月29日
【座長】
永田明日翔　一般演題発表・口述Ⅰ　第37回鹿児島県理学療法士学会 2024年2月23日 霧島市

栄養管理課

【学会発表】
1.鈴木聖子、上平田美樹、三宅健治
当院における周術期栄養管理加算算定についての検討
第38回　日本臨床栄養代謝学会学術集会　2023年5月9日～5月10日　神戸

病理課

【講演】
有村郷司　当院の肺がんの病理検査とバイオマーカー検査について
第4回Lung Cancer Immunotherapy Online Seminar　2023年11月6日　いまきいれ総合病院

【看護部門】

看護部

【学会発表】
1.羽根田歩、松下可奈
体位制限のある患者のストーマケアへの挑戦
九州ストーマリハビリテーション研究会　2023年7月29日　鹿児島

2.出之口綾子、濵﨑秀崇
緩やかな糖質制限と有酸素運動・レジスタンス運動によるライフスタイル改善プログラムの有効性の検討
第3回日本ライフスタイル医学会学術集会　2023年10月1日　web開催

【講演】
出之口綾子　緩やかな糖質制限食と有酸素運動レジスタンス運動によるライフスタイル改善プログラムの有効性の検討　2023年12月23日　濱崎クリニック
赤坂美保　肺癌治療における看護師の役割 ～副作用対策と患者支援～
大隅地区肺癌講演会　2023年4月20日　鹿児島市
吉永紀公子　二次性骨折予防の当院の取り組みについて　アステラス　2023年6月22日　鹿児島市
吉永紀公子　大隅ＯＬＳの会 当院のOLS活動について　大隅ＯＬＳの会　2023年7月26日　鹿屋市
小田原敏行　医療現場における洗浄の基礎 第12回鹿児島滅菌供給を考える会　2023年8月26日　鹿児島市
赤坂美保　患者背景に合わせたアピアランスケア～皮膚障害を中心に～
大隅地区肺癌講演会　2023年10月12日　鹿児島市
赤坂美保　催吐性別制吐療法 ・効果が不十分なときの対応 ・アロカリス導入について
消化器がん化学療法セミナー　2023年10月14日　鹿児島市
河原尚美　自律した看護師をめざして！～対話を通したかかわり～
第11回PNS研究会　シンポジスト　2024年3月2日　福井

【院内講演】
東めぐみ　私の今までの実習指導ってなんだったんだろう　実習指導者講習会　伝達講習
2023年4月5日、11日、12日
東めぐみ　脳卒中とは。廃用症候群予防　脳血管障害患者の看護　2023年6月30日
東めぐみ　ヒューマンエラーをなくしていくために　医療安全研修　2023年7月28日
濵田緑　患者家族の思いのずれ　高齢 認知症 帰宅願望の強い患者の対応を振り返って　2023年9月28日

【座長】
梅北裕司　内視鏡介助“追求とこだわり”のススメ-真の「内視鏡チーム医療」目指して 慶應義塾大学
佐々木基先生　鹿児島県消化器内視鏡技師会/富士製薬工業株式会社　2023年9月22日　鹿児島
小田原敏行　第47回鹿児島県滅菌業務研究会　特別講演　2023年6月10日　鹿児島市

【院外活動】
平武晃幸　能登半島地震　DMAT災害派遣　2024年1月29日
熊迫智枝　能登半島地震　DMAT災害派遣　2024年1月29日
梅北裕司　鹿児島県消化器内視鏡技師会　会長（2019年4月～）

【受賞】
酒匂英子　鹿児島県看護協会長　2023年5月27日　鹿児島県看護協会
近藤ひとみ　鹿児島県看護連盟会長賞　2023年6月17日　鹿児島県看護連盟

【患者支援部門】

入退院支援センター

【講師】
岩山友紀　高齢者施設における看取りケア　睦園　2023年7月12日
岩山友紀　エンド･オブ･ライフにおける文化的配慮　ELNEC-Jコア･カリキュラム看護師教育プログラム
相良病院　2023年7月15～16日
岩山友紀　がん教育（三島硫黄島学園、三島竹島学園、三島大里学園、三島片泊学園）web開催　2023年11月7日
岩山友紀　PCAの基礎知識　地域連携会議研修会 医療用麻薬管理の最新技術～PCAポンプの実践研修～
2023年12月1日

【ファシリテーター】
岩山友紀　ELNEC-Jコア・カリキュラム看護師教育プログラム　相良病院　2023年7月15～16日

【医療安全部門】

褥瘡管理課

【学会発表】
1.下前百合香
ストーマ皮膚接合部･切開創離開部に単回使用陰圧創傷治療システム(PICO)を使用して管理した症例報告
第39回九州ストーマリハビリテーション研究会　2023年7月29日　鹿児島

【講演】
下前百合香　「高齢者施設における褥瘡予防」について
社会福祉法人厚生会 介護老人福祉施設 睦園 園内研修 2023年8月23日

【講師】
下前百合香　第33回九州ストーマリハビリテーション講習会
鹿児島県運営担当、実技指導・総合討論ファシリテーター 2023年11月17～18日

感染管理課

【講師】
立和名聖子　新型コロナウイルス感染症の対応について
社会福祉法人厚生会 介護老人福祉施設 睦園　園内研修　2023年9月20日　鹿児島市
立和名聖子　再就職支援セミナー「感染防止対策」
公益社団法人鹿児島県看護協会　2023年11月1日　鹿児島市

【事務部門】

人事総務経理課　病児保育室

【論文・誌上発表】
1.西郷今日子、吉村加奈子、鈴木詩織、井上葵
思春期のPrader-Willi症候群の患児への支援 - ホワイトボードを活用した療養環境の工夫 -
医療と保育 2023年21巻1号 p.45-51

【座長】
吉村加奈子　一般演題C(ポスター)　第33回全国病児保育研究大会in鹿児島　2023年7月17日　鹿児島市

【院内講演他】
吉村加奈子、西郷今日子、黒木正代、井上葵
医療保育の提供とその加算について

【いまきいれ子ども発達支援センターまぁる】

【学会発表】
1.渡辺貴子
早期支援をつむぐ　～医療と福祉の共同事業モデル～
九州作業療法学会2023 in鹿児島　2023年7月8日～9日

2.渡辺貴子
医療的ケア児の現状と未来～
リハビリテーションフェスティバルかごしま　シンポジウム１　2024年2月25日

【パネリスト】
渡辺貴子　　リハビリテーションフェスティバルかごしま　シンポジウム１　2024年2月25日

【院外活動】
渡辺貴子　　鹿児島県作業療法士協会発達支援K-OTチーム委員

【公益社団法人昭和会】

経営企画課

【学会発表】
1.山内久法、梅北裕司、坂口聖治、古賀亜希子、畑中幸子、染川麻美、池ノ上康治、水流遙香、河原尚美、岩川純
ワンクリックパスで実現する病院版”三方よし”を目指して
第23回日本クリニカルパス学会学術集会 2023年11月10日 さいたま市

【講演】
山内久法　　医療や看護のDXについて　かごしま看護管理研究会　2024年1月26日　鹿児島

【メディア掲載】

誌面掲載

まちづくりと病院　case1
市の中心、再開発地区に 2 病院が移転・新設地域包括ケアシステムを動かす拠点に
機関誌JAHMC 2023 November vol.34 No.11 p5-7

2023年5月17日	南日本新聞	入退院支援を強化
2023年5月21日	南日本新聞	鹿児島市で初のサロン　肺がん患者つながろう
2023年6月5日	南日本新聞	肺がん患者がサロン　初の開催　悩み、治療 語り合う
2023年6月8日	南日本新聞	コロナ5類移行１ヶ月直接の面会　家族「安心」 いまきいれ総合病院　濱崎秀一院長、新生児内科丸山有子部長
2023年7月26日	南日本新聞	上手な水分補給法は？　救急科 西山淳部長
2023年8月1日	南日本新聞	8・6水害30年あの日を語る「野戦病院のような一夜」 元今給黎総合病院院長 長野芳幸先生
2023年9月7日	南日本新聞	救急医療で連携協定締結

テレビ放送

2023年5月1日	news every かごしま キラメキ南国ビル２階に　「入退院支援センター」移設オープン	KYT 鹿児島讀賣テレビ
2023年5月1日	Jチャンプラス いまきいれ総合病院入退院支援センター移設オープン	KKB 鹿児島放送
2023年5月26日	かごピタ　キラメキテラス中継	KYT 鹿児島讀賣テレビ
2023年6月16日	かごnewマルシェ　入退院支援センター	KTS 鹿児島テレビ
2023年6月23日	キニナルみなみ　入退院支援センター	MBC 南日本放送
2024年2月20日	news every かごしま 徳之島出身の相撲少年　がん患う母のため「優勝して恩返しを」 消化器外科　小倉芳人部長	KYT 鹿児島讀賣テレビ

2023年5月1日　いまきいれ総合病院 入退院支援センター（PFM）が南国きらめきビル2階に移設オープン

移設時にメディアの取材を受けました。

2023年11月2日　ラグビーワールドカップ中村亮土選手がいまきいれ総合病院を訪問

当院職員のご子息である中村選手は職員から歓迎を受け、今給黎理事長、濱崎院長、寺原産婦人科顧問等と歓談されました。

2023年11月10日　いまきいれ総合病院 日本医療機能評価機構病院機能評価一般病院２（3rdG:Ver.3.0）認定

2024年3月23日　瑶子女王殿下がいまきいれ総合病院を御視察されました

NPO 法人 日本ユニバーサル・サウンドデザイン協会の名誉総裁であられる三笠宮家の瑶子女王殿下が、「快護生活フェス！福祉機器展＆セミナー in かごしま」に御臨席および地方事情御視察のため 3 月 22 日（金）から 24 日（日）に鹿児島県にお成りになり、協会の中石真一路理事長、西田伊豆美理事と、いまきいれ総合病院を御視察されました。

荒田校区コミュニティ協議会との合同開催

公益社団法人昭和会の理念のひとつは「地域貢献」です。地域に根ざしたまちづくりの一環として、いまきいれ総合病院といまきいれ子ども発達支援センターまぁる（以下、まぁる）では、キラメキテラスヘルスケアホスピタル、荒田校区コミュニティ協議会と合同で健康教室、キラメキ健幸ひろばを開催しました。

2024年3月23日　荒田地区コミュニティ健康教室　場所：荒田校区公民館

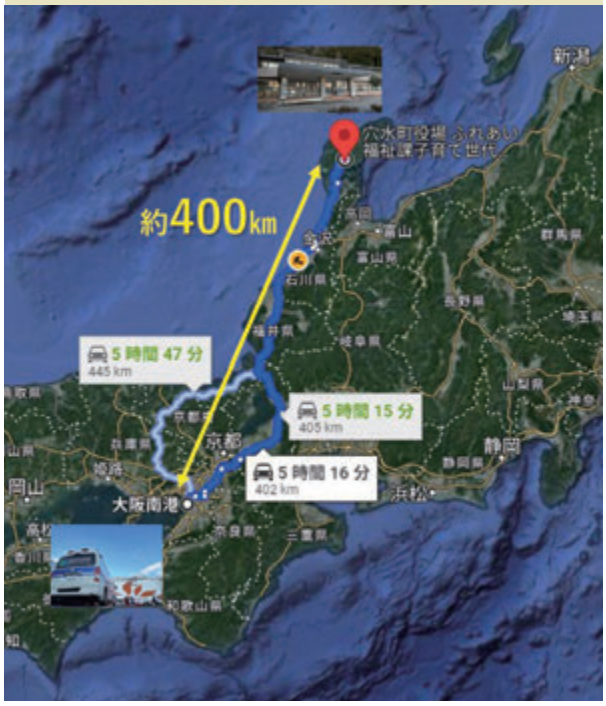
キラメキ子育てひろば　場所：A-COOPキラメキテラス店

能登半島地震 DMAT

令和6年能登半島地震被害に伴い石川県から厚生労働省DMAT事務局を通して鹿児島県に対し災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣要請があり、当院からは日本DMAT隊員5名(医師1名、看護師2名、業務調整員2名)が1月28日から2月2日までの日程で派遣されました。1月28日に自院の救急車両(4WD、スタッドレスタイヤ装着、タイヤチェーン携行)で鹿児島を出発し、1月29日16時に石川県鳳珠郡穴水町役場内に設置された穴水町保健福祉調整本部/DMAT活動拠点本部に到着の報告をすると早速、併設の公立穴水総合病院での夜間ER搬送待機業務の指示を受けました。

いまきいれDMAT 石川県穴水町へ出発

1月28日 17:00 志布志港 → 1月29日 8:05 大阪南港 → 1月29日 16:35 穴水町 保健福祉センター



病院内外は至る所に損壊が見られ、周辺地域には多くの全半壊家屋を認めましたが、地域の拠点病院でもある穴水総合病院(病床数100床)は既にER業務と20名程度の軽症者の入院受け入れを開始していました。

病院の電気系統は復旧していましたが、断水状態であり雪解け水を溜め水として使用しているという状況でした。我々は損壊を免れた病院内のスペースで翌朝まで待機し、1月30日は7時30分に骨折患者を金沢医科大学まで搬送業務を行いました。

1月30日　金沢医科大学病院へ緊急搬送

金沢医科大学病院

幹線道路の啓開は完了していましたが道路には陥没や地割れ、うねりが頻繁に現れ、運転には細心の注意が必要で通常は片道1時間20分のところ2時間40分を要しました。その日は七尾港に停泊中のナッチャンWorld(防衛省傭船)に宿泊しました。

ナッチャンworld

派遣活動報告

1月31日は穴水総合病院ERの日勤業務の指示を受け、七尾港を6時30分に出発しました。先遣隊や鹿児島県調整本部からの情報どおり穴水に向かう道路は奥能登への物資輸送や支援のための車両で渋滞を来しており、やはり病院到着までは時間を要することになりました。ERでの日勤業務は診療のみならず、清掃や水汲み、灯油の補充など要請があれば如何なるものにも対応しました。
17時30分、次隊である沖縄チームへ業務を引き継ぎ我々の活動は撤収し、2月2日全員無事に病院に帰還しました。

1月31日　穴水総合病院のER日勤業務

室内清掃、灯油の補充など診療以外の要請にも対応

沖縄県のDMATへ業務引継ぎ

今回の派遣で感じたことは半島地震の特異性です。半島地域は主要道や緊急道の寸断で容易にアクセスが困難になります。鹿児島県も薩摩半島と大隅半島の2つの半島があることから、道路啓開の整備や普段から地域で有事の対応を検討しておくことが重要ではないかと考えます。
また、今回の地震では一時的に避難者を受け入れる1.5次避難所やホテルや旅館などの2次避難まで、県境を超える広域避難が大規模に実施されたのも特徴です。当院においても地域の公民館や避難所からキラメキテラスのホテル施設等を利用する場合や被災状況によっては市や県を跨いでの避難も想定されます。キラメキテラス内でも災害が起こった場合の病院・ホテル・サービス棟での連携体制を構築し、災害に強いまちづくりの体制整備が必要とあらためて感じました。普段より近隣の地域住民の状況についても市をはじめとした行政の協力を得ながら要配慮者等のニーズを把握し、地域住民参加型の災害訓練を行い、災害に関する知識を一緒になって高めていきたいと思います。
この度DMAT派遣活動にご支援、ご協力を頂いた全ての皆様に深謝申し上げます。
被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

救急科　**西山 淳**

NEWS

医療・福祉・地域の方々との親睦を深める

“キラメキテラス地域連携の会”開催

2023年11月21日　SHIROYAMA HOTEL kagoshima

当院は、2021年1月に高麗町に移転し、2023年5月に創業85年を迎えました。
また、2023年5月に多世代にわたってにぎわう健“幸”のまちづくりをテーマに都市機能集約型施設『キラメキテラス』がグランドオープンしました。当院の入退院支援センターもキラメキ南国ビル内にオープンし入院前からの支援の充実に努めています。
この機会に日頃お世話になっています、医療・福祉・地域の方々とのさらなる親睦を深め、連携を行うために玉昌会、南国殖産、昭和会合同で『キラメキテラス地域連携の会～ミライヲテラス～』を開催しました。
医師97名　コメディカル52名　地域の方々18名計167名にお集まりいただきました。
懇談会では来賓の皆さまに、日頃の感謝をお伝えすることができました。今回の会を機に、より円滑な連携がとれる、お互いの顔の見えるよい関係づくりの場になったのではないかと思います。
これからも地域の患者さんによりよい医療を提供するために、地域の医療機関のみなさまとの関係を密なものにしていきたいと考えております。今後とも引き続きよろしくお願い致します。

キラメキテラス地域連携の会
いまきいれ総合病院 実行委員一同

南国殖産株式会社
代表取締役会長　永山 在紀
（代読）
都市開発課課長代理　川崎 誠

公益社団法人昭和会
理事長　今給黎 和幸

医療法人玉昌会
理事長　髙田 昌実

公益社団法人昭和会

昭　和　会　誌（第29号）

発行日　２０２４年８月

発 行　公益社団法人昭和会
〒890-0051 鹿児島市高麗町43番25号
電 話　099-252-1090（代表）
編 集　公益社団法人昭和会　経営企画部 広報連携企画室

いまきいれ総合病院　〒890-0051 鹿児島市高麗町43番25号
電 話 099-252-1090（代表）　FAX 099-203-9119
URL https://imakiire.jp/

上町いまきいれ病院　〒892-0854 鹿児島市長田町5番24号
電 話 099-222-1800（代表）　FAX 099-226-3366
URL https://kanmachi.imakiire.jp/

いまきいれ子ども発達支援センターまぁる
〒892-0054 鹿児島市荒田1丁目15番2号
電 話 099-202-0325（代表）　FAX 099-202-0326